

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

学校法人湘央学園 浦添看護学校（看護学科）

科目名	授業時数 (h)	実務経験
人間工学	15	病院勤務経験
人間関係論	30	病院勤務経験
発達心理学	30	保健所施設勤務経験
生活科学	15	病院勤務経験
形態と機能 I	30	病院勤務経験
形態と機能 II	30	病院勤務経験
形態と機能 III	30	病院勤務経験
生化学・栄養学	30	病院勤務経験
微生物学	30	研究所勤務経験
病理学	30	病院勤務経験
薬理学	30	病院勤務経験
疾病治療学 I	30	病院勤務経験
疾病治療学 II	30	病院勤務経験
疾病治療学 III	30	病院勤務経験
疾病治療学 IV	15	病院勤務経験
疾病治療学 V	30	病院勤務経験
疾病治療学 VI	15	病院勤務経験
疾病治療学 VII	15	病院勤務経験
疾病治療学 VIII	15	病院勤務経験
健康科学	30	研究所勤務経験
保健医療論	15	病院勤務経験
公衆衛生学	15	病院勤務経験
社会福祉	45	福祉施設勤務経験
看護と法律	15	病院勤務経験
基礎看護学概論 I	30	病院勤務経験
基礎看護学概論 II	30	病院勤務経験
基礎看護学方法論 I	30	病院勤務経験
基礎看護学方法論 II	30	病院勤務経験
基礎看護学方法論 III	30	病院勤務経験
基礎看護学方法論 IV	30	病院勤務経験
基礎看護学方法論 V	30	病院勤務経験
基礎看護学方法論 VI	30	病院勤務経験
基礎看護学方法論 VII	30	病院勤務経験
基礎看護学方法論 VIII	30	病院勤務経験
基礎看護学実習 I	45	病院勤務経験
基礎看護学実習 II	90	病院勤務経験

科目名	授業時数 (h)	実務経験
成人看護学概論	30	病院勤務経験
成人看護学方法論 I	30	病院勤務経験
成人看護学方法論 II	30	病院勤務経験
成人看護学方法論 III	30	病院勤務経験
成人看護学方法論 IV	30	病院勤務経験
成人看護学方法論 V	30	病院勤務経験
成人看護学実習 I	90	病院勤務経験
成人看護学実習 II	90	病院勤務経験
成人看護学実習 III	90	病院勤務経験
老年看護学概論	30	病院勤務経験
老年看護学方法論 I	45	病院勤務経験
老年看護学方法論 II	30	病院勤務経験
老年看護学実習 I	90	病院勤務経験
老年看護学実習 II	90	病院勤務経験
小児看護学概論	30	病院勤務経験
小児看護学方法論 I	45	病院勤務経験
小児看護学方法論 II	30	病院勤務経験
小児看護学実習	90	病院勤務経験
母性看護学概論	45	病院勤務経験
母性看護学方法論 I	30	病院勤務経験
母性看護学方法論 II	30	病院勤務経験
母性看護学実習	90	病院勤務経験
精神看護学概論	30	病院勤務経験
精神看護学方法論 I	30	病院勤務経験
精神看護学方法論 II	45	病院勤務経験
精神看護学実習	90	病院勤務経験
在宅看護論概論	30	病院勤務経験
在宅看護方法論 I	30	病院勤務経験
在宅看護方法論 II	45	病院勤務経験
在宅看護実習	90	病院勤務経験
医療安全	30	病院勤務経験
国際看護と災害看護	30	病院勤務経験
看護管理と事例研究	30	病院勤務経験
看護技術の統合演習	30	病院勤務経験
統合実習	90	病院勤務経験

実務経験 (h)	
合計	2,760

すべての成績評価は、80点以上を S、70点以上80点未満を A、60点以上70点未満を B で表し、60点未満は F とする。

授業科目等の概要

(医療専門課程看護学科) 2019年度															
分類		授業科目名	授業科目概要			配当年次・学期	授業時間数	単位数	授業方法		場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修		論理的思考	論理的思考の形式と法則を学び、文章の読解を通じて論理的思考の基礎を養う。			1前	30	1	○ △	○	○	○	○	
○		人間工学	人間工学は、人間とそのまわりの環境をシステムとしてとらえ、これらの関係について解剖学、生理学、心理学などの領域から検討し、安全性、快適性、合理性を追求する学問である。本講義では人間を取り巻く生活環境、人間の動作の特徴を物理学的視点で学ぶ。 自然環境である光・音・振動などの性質を理解することは、よりよい生活環境の調整につながる。又、光・音・振動などの性質は多くの医療機器に活用されている。その原理を理解することは、検査や治療上の注意事項と関連できるようになり、誤作動による医療事故の防止にもつながる。また、人体の運動力学を学び、効果的なケアにつながる。			1前	15	1	○		○			○	
○		情報科学	看護「情報」と「コミュニケーション」の専門職である看護師にとって情報通信技術はその専門性を発揮するために必要不可欠なものである。看護師は患者の情報を安全に活用し、情報をもとに関わりを持つ仕事であるため、講義では情報とは何か看護に関連づけて学ぶ内容とする。また、看護の専門性を発揮するための看護研究に必要なデータ収集や統計的手法も学ぶ。			2後	30	1	○ △	○			○		
○		人間関係論	人間関係の意義を理解し、人間関係発展のためのコミュニケーション技術とカウンセリングの基本・技法を学ぶ。			1前	30	1	○ △	○			○		
○		英語	専門的学習へ導くための科目と捉え、看護ケアの場面での英会話や、看護英語の文献の読解を学ぶ。			1後	45	2	○ △				○		
○		家族社会学	社会の構造や家族の形態・機能を学ぶ。患者や患者を取り巻く家族を理解し、家族を含めた看護を考える視点を学ぶ。			2前	30	1	○		○		○		
○		教育学	人間にとつての教育の意義を理解し、家庭・社会・学校における教育の特徴を学ぶ。 教育の原理・方法・評価方法、現代教育の諸問題を学び、健康教育や保健教育を具体的に提供する能力を養う。			1前	30	1	○ △	○			○		
○		発達心理学	看護の対象である人間の発達課題、心理・社会的危機について理解し看護実践における対象理解を学ぶ。			1前	30	1	○		○		○		
○		倫理学	人間とは何か、人間の存在、生命の尊重、人間らしい生き方などを考えることにより、ケアする側の倫理観を養い、自己および他者を尊重することの意味を学ぶ。医療にかかわる者としての生命尊重や職業に基づく行動の基礎を学ぶ。			1前	30	1	○		○		○		
○		生活科学	生活環境と健康的関連について学び、自分自身の生活を健康の視点から思考する意義について学ぶ。			1前	15	1	○		○		○		

○		生活とスポーツ	心と体のバランスは健康を考える上で重要である。運動は、心のバランスを保つ上でも必要である。また、運動による筋力アップは、転倒予防、生活習慣病の予防にもつながる。生活中でとりいれられる運動を実践することは、自らの健康維持にも役立ち、看護を実践する上の指標となる。生活中での運動に焦点を当て、学習する。	2前	30	1	△	○ ○	○	○	
○		文化人類学	さまざまな民族の文化や社会を知ることによって、自らの文化や社会、さらに人間にについて学ぶ。異文化理解の枠組み、制度化された人間関係、儀礼や信仰のありようを学ぶ。	2前	30	1	○	○	○	○	
○		形態と機能 I	疾病治療学との関連で、基本的な解剖学的用語や身体の構成を学び、人体を全体的に捉える内容を含めた。環境との調節を図りながら生活をするヒトの恒常性維持に関する形態と機能として体液の分類・分布・量・電解質と捉える。恒常性を維持するための物質の流通に関する形態と機能として、流通の媒体を血液、流通路（循環器）として血管・リンパ管、流通の原動力として心臓と捉え、流通路（循環器）や息をする（呼吸器）に関する形態と機能を理解する内容を学ぶ。	1前	30	1	○	○	○	○	
○		形態と機能 II	「形態と機能Ⅱ」では、ヒトの生活行動に焦点をあてた形態と機能のうち「食べる」「トイレに行く=排泄」の2つの生活行動の内容を学ぶ内容とした。また、恒常性維持のための調節機構に関する形態と機能として、神経性調節：受容器、中枢神経、末梢神経、液性調節：ホルモンとして捉える。そのうち、液性調節：ホルモンの形態と機能を学ぶ内容とした。	1前	30	1	○	○	○	○	
○		形態と機能 III	「形態と機能Ⅲ」では、恒常性維持のための調節機構に関する形態と機能として、神経性調節：受容器、中枢神経、末梢神経を学ぶ内容とした。また、ヒトの生活行動に焦点をあてた「動く」やヒトとしての社会生活を営むうえで欠かせない感覚：「話す・聞く・見る」、「お風呂に入る=皮膚」の形態と機能を学ぶ内容とした。「子供を生む=生殖」という生活行動に関する形態と機能に人体の発生をあわせて学ぶ内容とした。	1前	30	1	○	○	○	○	
○		生化学・栄養学	人体を構成する化学物質の性状、その分布および代謝を理解する。また、健康と食生活の関わりについて理解し、栄養学の基礎を学ぶ。	1後	30	1	○	○	○	○	
○		微生物学	微生物学を学ぶことにより、微生物がどこにいて、どのようにしてヒトに感染し病気を起こすのか、それを治療し予防するにはどうしたらよいかなどを学ぶ。	1前	30	1	○	○	○	○	
○		病理学	病理学は、病気の原因を追究し、病気になった患者の身体に生じている変化がどのようなものであるかを学ぶ。患者の病気の診断・検診及び病気の予防について学ぶ。病理学を知ることは、日常行っている看護活動の根拠となりうる。また、疾病的発生傾向や発生要因などについても理解することは、予防的視点から看護に取り組むことにつながる。	1前	30	1	○	○	○	○	
○		薬理学	薬の基本的性質を理解し、患者に使われている薬物についての副作用を理解する。また、患者の病気の回復促進につながる援助の根拠を学ぶ。	1後	30	1	○	○	○	○	
○		疾病治療学 I	放射線療法、麻酔、ペインコントロール、外科的治療の基礎、臨床検査について学び、看護援助の基礎知識とする。	1後	30	1	○	○	○	○	
○		疾病治療学 II	さまざまな臨床の分野での代表的な疾患の診断・治療など、看護をおこなう上で不可欠な基礎的な知識について学び、健康障害を抱える対象の看護の展開に有機的に結びつけられるよう学ぶ。	1後	30	1	○	○	○	○	
○		疾病治療学 III	さまざまな臨床の分野での代表的な疾患の診断・治療など、看護をおこなう上で不可欠な基礎的な知識について学び、健康障害を抱える対象の看護の展開に有機的に結びつけられるよう学ぶ。	1後	30	1	○	○	○	○	
○		疾病治療学 IV	さまざまな臨床の分野での代表的な疾患の診断・治療など、看護を行う上で不可欠な基礎的な知識について学び、健康障害を抱える対象の看護の展開に有機的に結びつけられるよう学ぶ。	2前	15	1	○	○	○	○	

○		疾病治療学Ⅴ	さまざまな臨床の分野での代表的な疾病的診断・治療など、看護をおこなう上で不可欠な基礎的な知識について学び、健康障害を抱える対象の看護の展開に有機的に結びつけられるよう学ぶ。	2前	30	1	○			○		○		○
○		疾病治療学Ⅵ	小児に特有な疾病的診断・治療など、看護をおこなう上で不可欠な基礎的な知識について学び、小児の成長発達段階を踏まえ、健康障害を抱える対象の看護の展開に有機的に結びつけられるような内容とした。	2前	15	1	○			○		○		○
○		疾病治療学Ⅶ	母性看護学の対象である女性の特徴を捉え、内分泌環境変化の時期である女性の健康障害と検査、治療について学ぶ。	2後	15	1	○			○		○		○
○		疾病治療学Ⅷ	主な精神疾患の精神症状の現れ方の特徴と疾病の原因、診断・治療など、看護をおこなう上で不可欠な基礎的な知識について学び、健康障害を抱える対象の看護の展開に有機的に結びつけられるよう学ぶ。	2前	15	1	○			○		○		○
○		健康科学	時代の変化に応じて健康の概念や人々の健康に対する捉え方が変化している。ヘルスプロモーションの概念を取り入れた健康教育が重要な位置を占めている。そこで現在の健康教育のあり方やその考え方を学ぶ。	2後	30	1	△	○		○		○		○
○		保健医療論	医療のあり方が大きく変貌しつつある今日、医療の変遷を知らずにこの変貌した時代や看護の目ざす目標を明確にすることは難しい。医療の変遷を知り、現在の保健医療システム・サービスの現状と課題について学ぶ。	3前	15	1	○			○		○		○
○		公衆衛生学	公衆衛生の目的は、生活者のさまざまな健康について学び、健康で活動する福祉社会を作り上げることにある。公衆衛生の活動において、個々の疾病予防に対する自然環境へのアプローチとともに社会や経済、文化・風俗、習慣など人間の行動や生活習慣に着目する社会的環境へのアプローチを学ぶ。	2前	15	1	○			○		○		○
○		社会福祉	国民の最低限生活を保障する社会保障制度、社会的な援護を要する者への支援を行う社会福祉制度がある。社会保障、社会福祉制度は、高齢化の急速な進行と年金制度の成熟化、介護保険制度の創設などにより、誰もが必ずかかわりをもつ普遍的な制度として意識されるようになった。生活者の健康を保障する社会の制度を理解し、看護を提供する上で社会資源を活用する能力の基礎知識を学ぶ。	2後	45	2	○			○		○		○
○		看護と法律	医療に関連する法の基礎知識、看護職に必要な法規を学び、専門職業人として法的責任を自覚した行動が取れるための基礎知識を学ぶ。	3後	15	1	○			○		○		○
○		基礎看護学概論Ⅰ	看護学概論は、すべての看護学の基礎となる科目である。看護は対象である「人間」の「健康」に携わる職業である。専門職業人として「看護とは何か」を考え看護提供システムの視点や、人として対象に向き合うことに伴う役割や倫理などを学ぶ内容とした。	1前	30	1	○			○		○		○
○		基礎看護学概論Ⅱ	先人の看護理論についての変遷や理論の特徴について学ぶ。また、これから学習を進めるヘンダーソンの看護に対する考え方を著書の「看護の基本となるもの」の討議をしながら学び、現時点での自らの看護観をまとめる。看護研究の基礎的知識である研究の意義や方法、倫理的配慮の必要性について学び、統合分野の単元「看護実践と理論」でまとめる事例研究につなげる内容とする。	1前	30	1	△	○		○		○		○
○		基礎看護学方法論Ⅰ	すべての看護の基盤となる技術を学ぶ科目とした。看護技術は、対象の生命の尊厳・人権を守り、対象にとって安全・安楽な技術を提供することが求められる。看護援助の基本となる技術の考え方や基本原則・安楽で効果的な動き・医療事故防止のための医療安全と対象の療養環境整備の技術を学ぶ。また、看護の提供場面において、人間関係成立・発展のための技術であるコミュニケーション技術の基礎知識を学ぶ。	1前	30	1	○	△		○		○		○

○		基礎看護学方法論Ⅱ	看護職者が独自の判断を必要とする場面が増え、看護の役割は対象の身体状況全体を客観的、系統的に観察する能力が求められている。対象の健康上の問題を生活の視点で捉える必要性を理解し、観察のための具体的方法の基礎知識を学ぶ。看護師の「目」「手」「耳」を使って診察の技法を活用してみる。また、身体の状態をとらえるのに最も基本的で、かつ最も重要なバイタルサインを学ぶ。身体各部の計測の意義を理解し、正しい測定方法について学ぶ。	1前	30	1	○	△	○	○	○	○
○		基礎看護学方法論Ⅲ	対象の日常生活行動に対する理解を深め、健康課題を有する対象の日常生活を整えるために必要な援助技術を科学的根拠に基づいて学ぶ。	1前	30	1	○	△	○	○	○	○
○		基礎看護学方法論Ⅳ	健康課題を有する対象の日常生活を整えるために必要な援助技術を科学的根拠に基づいて学ぶ。人間にとっての清潔の意義を理解し、身体各部の清潔の援助方法と衣生活を整える援助について学ぶ。 また、対象の健康状態に焦点をあてた看護の方法を学ぶ。 さらに、感染予防策として滅菌物の取扱いについての基礎知識・技術を学ぶ。	1前	30	1	○	△	○	○	○	○
○		基礎看護学方法論Ⅴ	臨床の場で活用する頻度が高く、健康課題を有する対象に共通している検査や、治療・処置時の援助技術である薬物療法、輸血療法に伴う基礎的技術を安全・安楽かつ的確に実施できるよう学ぶ。	1後	30	1	○	△	○	○	○	○
○		基礎看護学方法論Ⅵ	呼吸を整えるための酸素療法や吸入療法及び吸引療法、救命救急処置、創傷処置、苦痛緩和への援助に伴う基礎的技術を安全・安楽かつ的確に実施できるよう学ぶ。	1後	30	1	△	○	○	○	○	
○		基礎看護学方法論Ⅶ	看護実践とは看護を必要とする対象の看護問題やその原因を明らかにし、それに対して看護師がどのような援助を行っていくかを具体的目標とともに表明したうえで、その目標や援助の計画にそって看護技術を駆使し実践を行い、評価し、さらに次の実践へとつなげていく螺旋階段のような営みである。看護過程は、看護実践の進め方の手順や考え方である。看護過程の流れは問題解決過程であり、看護を科学的に行うための方法でもある。看護過程の方法を学ぶ内容とした。	1後	30	1	△	○	○	○		
○		基礎看護学方法論Ⅷ	既習のフィジカルアセスメントに必要な診察技法を用いて、各身体機能別のフィジカルアセスメントの方法を学ぶ。また、疾病治療学で学んだ知識と関連させてアセスメントの方法を学ぶ。 また、フィジカルアセスメントを用いて対象の全身状態を理解し、対象の状況に合わせて必要な援助技術を選択し、基礎的な看護技術の演習を通して学ぶ。	2前	30	1	△	○	○	○		
○		基礎看護学実習Ⅰ	医療施設における看護援助場面の見学を通して、看護の機能と役割を理解するとともに、看護師としての基本姿勢の基盤をつくる。	1後	45	1			○	○		○
○		基礎看護学実習Ⅱ	看護過程を活用し、対象の基本的欲求を理解して生活上の援助を行なうことで、看護の基礎的能力を養う。	1後	90	2			○	○		○
○		成人看護学概論	成人期にある対象を生活者、成長・発達およびさまざまな健康状態の側面から理解する。成人期において発達課題を達成しつつある対象を身体的・精神的・社会的側面からとらえ、成人の特性を学ぶ。さらに成人の生活と健康の動向を学び、成人期における健康の保持・増進及び疾病的予防の重要性を理解し、さらに健康日本21などの健康戦略を学習し、成人期における健康を保つシステムを理解する。成人期にある対象を健康生活の急激な破綻から回復を促す看護、健康生活の慢性的な揺らぎの再調整を促す看護、障害を持ちながらの生活とリハビリテーションを支える看護、人生の最期のときを支える看護を必要とする対象の看護の特徴を学ぶ。 また、成人は自立した存在であることから、セルフケア能力を向上させるかかわりと成人への基本的アプローチと看護に必要な概念を学び、倫理的配慮と看護者の役割について考える。看護実践の最も重要な基盤となる、人間関係を発展させるプロセスを学ぶ。	1後	30	1	○		○	○	○	
○		成人看護学方法論Ⅰ	健康の急激な破綻から回復の状態にある対象と看護者の人間関係発展過程を紙上事例で理解し、救急救命時、周手術期その状況に応じた看護の特徴、術後合併症予防に必要な周手術期の看護技術を学ぶ。さらに、侵襲的治療の代表的な化学療法、放射線療法を受ける対象の特徴と看護、緩和ケアについて学ぶ。	1後	30	1	○	△	○	○	○	

○		成人看護学方 法論Ⅱ	ライフサイクルにおける成人期の特徴を踏まえ、生命と生活を維持している呼吸・循環機能に障害をもつ対象について理解し、看護の役割と援助方法について学ぶ。また、呼吸循環管理に必要な看護技術を学ぶ。	1後	30	1	○	△		○		○	○	
○		成人看護学方 法論Ⅲ	ライフサイクルにおける成人期の特徴を踏まえ、疾病コントロールを必要とする対象のセルフケア行動形成への支援について理解すると共に、生命と生活を維持している機能に障害をもつ対象の特徴を理解し、機能障害に応じた看護の役割と援助方法について学ぶ。成人看護学の特徴的な看護技術を学ぶ。	2前	30	1	○	△		○		○		
○		成人看護学方 法論Ⅳ	ライフサイクルにおける成人期の特徴を踏まえ、生活行動制限のある対象のセルフケア再獲得に向けて、ボディイメージの変化や障害をもちらながら生活する対象の特徴を知り、必要な援助方法と看護の役割について学ぶ。さらに、生命と生活を維持している機能に障害をもつ対象の特徴を理解し、機能障害に応じた看護の役割と援助方法について学ぶ。	2	30	1	○	△		○		○	○	
○		成人看護学方 法論Ⅴ	成人の健康の状態に応じた看護の特徴を踏まえ、健康生活の急激な破綻から回復にある対象、慢性的な揺らぎの再調整を必要とする対象、人生の最期のときを過ごしている対象の事例を通して看護過程の展開の方法を学ぶ。	2	30	1	△	○		○		○	○	
○		成人看護学実 習Ⅰ	健康生活の慢性的な揺らぎの再調整を必要とする対象を理解し、セルフマネジメントを支援する看護が実践できる。	2後	90	2			○		○			○
○		成人看護学実 習Ⅱ	健康生活の急激な破綻から回復にある対象を理解し、機能回復および社会復帰に向けての看護が実践できる能力を養う。	3	90	2			○		○			○
○		成人看護学実 習Ⅲ	成人期にある対象の特徴を捉え、成人のさまざまな健康状態に応じた看護が実践できる能力を養う。	3	90	2			○		○			○
○		老年看護学概 論	老年期の発達段階の特徴と高齢者を取り巻く環境について学び、加齢に伴う身体的・精神的・社会的側面から高齢者への理解を深める。また、高齢者を支援し、社会資源について学び、老年看護の目的や役割について理解する。	1後	30	1	○	△		○		○		
○		老年看護学方 法論Ⅰ	加齢による変化や、高齢者に特徴的な疾患や症状が、生活に及ぼす影響を捉え、QOLの維持・向上へ向けた援助について学ぶ。	2前	45	2	○	△		○		○	○	
○		老年看護学方 法論Ⅱ	認知機能の障害に対する看護について学び、対象とその家族への支援を通して高齢者の尊厳について理解を深める。また、看護過程・アクティビティケアなどの演習を通して実践へ向けた援助方法を学ぶ。	2	30	1	○	△		○		○	○	
○		老年看護学実 習Ⅰ	老年期の特性を踏まえ、高齢者の生活機能障害および生活上の課題を理解し、日常生活適応への看護を習得する	2後	90	2			○		○			○
○		老年看護学実 習Ⅱ	健康上の課題のある高齢者を理解し、看護を実践する基礎的能力と高齢者を尊重する態度を養う。	3	90	2			○		○			○
○		小児看護学概 論	小児看護の対象である子どものとらえ方や、さまざまな統計資料から現代家族の特徴について学び、小児看護において子どもと家族は、ひとつの援助対象であることを学ぶ。また、子どもの権利を尊重し、子どもと家族の最善の利益を守るために小児看護における倫理について学ぶ。 子どもの特性の理解として、成長・発達の原則、発達理論、形態的・機能的成長・発達、心理社会的発達、小児の栄養、発育・発達の評価について学び、成長・発達に対する理解を深める。子どもを取り巻く家族あるいは社会環境を含めた広い視野で対象を理解するために、小児の出生・死亡・疾病構造の変化と関連づけながら、子どもの健康を守るためにどのような法律や施策があるのかを学ぶ。子ども観および小児看護の歴史を振り返り、小児保健医療の動向や今後の課題について考える。最後に、各発達段階の特徴を踏まえ、発達段階における健康課題について、演習や発表を通して共通理解する。	1後	30	1	○	△		○		○		

○		小児看護学方法論 I	「子どもの健康の保持・増進、疾病予防のための看護」では、小児各期の発達段階に応じた日常生活や、子どもの成長・発達を促す援助・家族への援助について学ぶ。「健康状態の急激な破綻から回復の促進の看護」「健康状態の慢性的な揺らぎの再調整を必要とする状態の看護」「障がいのある状態とリハビリテーションを行う状態の看護」「人生の最期のときの看護」では、子どもの様々な健康状態における看護の特徴を学び、それぞれの健康状態に特有な健康障害や入院が子どもの成長・発達に与える影響と子どもの反応、子どもと家族の生活に及ぼす影響について理解を深める。また、疾病治療学VIの学習をふまえ、各健康状態に関連した頻度の高い疾患や、直面しやすい健康上の課題について学ぶ。さらに健康回復のための援助について学び、小児看護の知識を深める。	2	45	2	○	△	○	○	○	○
○		小児看護学方法論 II	小児看護学方法論 II では、小児看護学概論・方法論 I で学んだ知識を踏まえ、小児看護に必要な看護技術について学ぶ。小児技術の中でも、特に実践の頻度が多く、留意を要する技術項目を精選した。小児の看護技術を実践する際には、子どもに対し、一人の人間として尊重する姿勢を大切にしながら、発達段階に応じた援助技術の選択や、子どもの反応や状況に合わせて対応していく必要がある。現在の小児医療の現場では、プレパレーションは、特別な行為ではなく、日常的に行わるべき倫理的な作業の一つであり小児看護において学ぶ意義は大きい。実際の場面でこれらを展開できるよう、演習を取り入れながら小児看護に必要な看護技術を習得する。また、学んだ知識を統合し、応用する能力を養うために看護過程を展開し学習する。	2後	30	1	○	△	○	○		
○		小児看護学実習	成長・発達過程にある子どもを全人的にとらえ、さまざまな健康状態にある子どもと家族の健康の保持・増進・回復に向けて、看護を実践するために必要な基礎的能力を養う。	3	90	2			○	○		○
○		母性看護学概論	母性看護の対象であるすべての女性を内分泌的な変化から見た発達段階にわけて身体的・心理的・社会的な側面から理解する内容とした。 また、近年の母性看護をめぐる社会的な変化を広く捉え、母性看護の機能と役割を理解する内容とした	2前	45	2	○		○	○		
○		母性看護学方法論 I	さまざまな健康状態にある母性看護の対象：妊婦・産婦・褥婦および新生児の特徴を踏まえて援助方法を理解する内容とした。	2	30	1	○		○	○		
○		母性看護学方法論 II	母性看護を展開するために必要な看護過程の展開方法やヘルスアセスメントに必要な技術や対象との援助関係形成のための技術や援助技術を理解し習得する内容とした。	2後	30	1	○	△	○	○		
○		母性看護学実習	母子保健活動の実際から、保健医療福祉チームの一員としての役割を理解し、母性看護の対象に応じた看護の基礎的能力を養う。	3	90	2			○	○		○
○		精神看護学概論	本科目では、精神看護の基盤的な概念となる心について学ぶ。精神看護学では、すべての人々の心の健康について考え方理解を深める。また、家庭や学校、職場における人間関係の中で心は影響し合っていることを学習する。さらに、心の健康の維持とライフサイクルにおける心の健康と発達について学び、現代社会の社会病理からみた心のあり方と精神看護学の位置付けを学ぶ。精神保健福祉の歴史的な変遷から、今日の制度の成り立ちまでを学び、入院中の患者の処遇及び精神保健福祉法と関連付けて学習する。また、精神看護に用いる看護理論を学ぶことで、知識や技術と態度を養う。	2前	30	1	○		○	○		
○		精神看護学方法論 I	本科目では、精神科の診療に伴う診察や検査時の看護の基本的な援助について学ぶ。また、幻覚妄想や不安などの精神症状に対する看護について学び、精神障害者の抱える「生活のしづらさ」を改善するための生活技能訓練と、社会療法および薬物療法について学習する。 精神科リハビリテーションについて学び、精神障害者がその人らしく地域や病院で自立的に生活できる援助方法を学ぶ。発達段階別の危機と災害時などの特殊な場面における心の働きを学ぶことで、対象の理解を深めていく。精神科看護におけるリスクマネジメントについて考え、対象にとっての安全について学ぶ。	2	30	1	○		○	○	○	

○		精神看護学方法論Ⅱ	本科目では、事例を通して精神に障害をもつ対象を統合的（身体的・精神的・社会的側面）に理解し、健康な側面に注目しながら看護実践に必要な看護過程の展開（援助方法）を理解する。 精神障害者の理解と看護を実践するために、必要な人間関係形成の方法援助を発展させるためにプロセスレコードを用いて自己洞察、自己理解、患者と看護師の相互作用について学ぶ内容とする。また、精神障害者を理解する上で必要な、統合失調症をはじめとする精神疾患をもつ患者の看護について学び、精神障がい者がその人らしく生活できる援助方法を学習する。	2後	45	2	○	△	○	○	○	○
○		精神看護学実習	精神科看護の実際から、保健医療福祉チームの一員としての役割を理解し、精神看護の対象に応じた看護の基礎的能力を養う。	3	90	2			○	○		○
○		在宅看護論概論	在宅で療養しながら生活している対象とその家族を理解し、その人らしい生活や自立を支えていく必要性を学ぶ内容とした。 在宅看護の特徴と対象の特性を理解し、家族を含めた支援を展開できる視点を深めていく。また、療養者と家族を支えていくために必要な社会資源について学ぶ。	2前	30	1	○		○	○		
○		在宅看護論方法論Ⅰ	在宅看護の中心となる訪問看護では、訪問者として的一般常識やマナー 人間関係形成のためのコミュニケーション力が必要となる。また、療養者・家族の思いや自立性を大切にして療養者・家族に合った援助方法が求められる。そこで、人間関係づくりをふまえ、在宅におけるリスクマネジメントを含めた看護技術、また関係職種との連携方法について学び、地域の中で療養者・家族を支え続けていくための援助について学習する。	2	30	1	○	△	○	○	○	
○		在宅看護論方法論Ⅱ	在宅看護の対象となる療養者の抱えている疾患は多岐にわたり、複数の疾患や障害を持っていることも多い。それに伴い在宅で多くの医療処置が実施されるようになった。ここでは、様々な療養環境の中で生活している療養者・家族を支えていくための技術や制度について学び、療養者・家族の思いを大切にしながら地域の中で支え続けていくための看護過程の展開方法について学習する。	2後	45	2	○	△	○	○	○	
○		在宅看護論実習	地域で生活している療養者とその家族を理解し、看護の実際を経験することにより、その人らしい生活や自立を援助するための基礎的能力を養う。	3	90	2			○	○		○
○		医療安全	基礎看護学方法論Ⅰの安全を守る、感染予防を推進する技術の学びをふまえ、医療安全を学ぶ意義、医療安全管理体制の基礎的考え方を理解し看護職として求められる技術を理解する。現場で起きている事故の特性と防止策などを学ぶ。さらに、対象と場の特徴から危険因子を査定し、危険を予測し、批判的に思考することや、優先度を考えて実践することの重要性を学ぶ。また、療養環境は、医療従事者にとって染りリスクの高い場所であることを認識し、適切な感染管理体制と感染予防対策の基本を学習する。	3	30	1	○		○			

○		国際看護と災害看護	国際社会において看護師として諸外国との協力のあり方を学習する。県下において国際活動を行っている施設や国際活動に携わる人々を通して国際協力の現状を理解し、今後の活動の動機付けになる内容とした。又、我が国の災害対策、災害救助活動を学び、災害時の看護の特徴と基本的な援助について理解する。これらの学習を通して、看護に対する広い視野と課題について考え、専門性の意識を高める。	3	30	1	○	△	○					
○		看護管理と事例研究	看護におけるマネジメントの意義を理解し、マネジメントを「ケアマネジメント」「看護サービスのマネジメント」の2つの概念から捉える。「ケアマネジメント」とは対象者に提供されるケアを調整・統制する視点から学び、「看護サービスのマネジメント」とは、看護職が提供するサービス全体を組織として捉え、調整・統制するマネジメントのプロセスと機能について学ぶ。又、看護マネジメントに必要な基礎的知識、技術を学ぶ内容とした。 事例研究では、基礎看護学概論Ⅱで学んだ研究の基礎をふまえ、自己の看護実践を振り返り（3年次の臨地実習）、理論と統合させながら事例研究をまとめる内容とした。	3	30	1	○	△	○				○	
○		看護技術の統合演習	卒業時の看護技術の到達は患者の状態、その場に応じた状況判断ができることが重要である。統合実習の前段階として、臨床に近い状況での看護技術の実際を学習する。複数患者への対応、患者、チームメンバー等の他者との調整、割り込み状況への対処を含めた看護技術を学ぶ。	3前	30	1			○	○	○	○		○
○		統合実習	病院における看護管理の実際を知るとともに、チームの一員として既習した知識と技術を統合し看護を実践できる基礎的能力を養う。	3	90	2	△	○	○					
合計		79科目												3015単位時間

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
履修科目ごとに定める授業時数の3分の2以上出席し、必修および選択必修の全科目を試験等による成績評価を行い、修得すること。履修方法は全科目対面授業	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	18週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち2以上の方の併用により行う場合
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

2019年度
講 義 要 綱



学校法人湘央学園 浦添看護学校
看護学科(3年課程)



学園章

学園章は「生命の尊重と健やかな地球の象徴」を理念としています。

デザインは、住みよい地球（外円）、緑の自然（中の若芽）、生命の科学、生命の尊重（白地）、未来（深緑色）を表し、グローバルな視点に立った新進気鋭の「人（生命）に関わる技術者」育成への願いが込められています。

目 次

1 教育方針

建学の理念・教育理念・教育目的・教育目標	1
看護の主要概念	2

2 教育課程の考え方

期待する卒業生像	3
教育課程の構造図	4
カリキュラムデザイン	5
各分野の教育内容の考え方	6
教育課程進度表（3年課程）	15
教科外活動	16

3 教育内容

基礎分野

科学的思考の基盤	17
人間と社会・生活の理解	21

専門基礎分野

人体の構造と機能	35
疾病の成り立ちと回復の促進	45
健康支援と社会保障制度	74

専門分野Ⅰ

基礎看護学	83
-------------	----

専門分野Ⅱ

成人看護学	105
老年看護学	125
小児看護学	134
母性看護学	142
精神看護学	149

統合分野

在宅看護論	157
看護の統合と実践	165

教 育 方 針

建学の精神

湘央学園は、『生命を尊重し、人間性豊かな専門職業人の育成を行う』を建学の理念として掲げている。

専門職業人として保健・医療・福祉の分野にたずさわる者は、深い愛情に根ざした、質の高い知識と技術をもって仕事にあたらなくてはならないという思いを表す「愛・智・技」を教育の根本精神としている。また、「愛」は人に対する思いやり、優しさ、気配りといった人間性を意図し、「智」は人間の持つ叡智を、そして、「技」は理論に裏付けされた質の高い技術を指している。

教育理念

設置主体である学校法人湘央学園は「生命を尊重する、人間性豊かな専門職業人の育成」という建学の理念を掲げている。本校はその理念に基づき、「愛・智・技」を基盤に、人間尊重の精神を貫く看護を実践できる人材を育成することを責務としている。そして、看護師として必要な専門的知識・技術・態度を修得し、自己教育力をたかめながら、社会に貢献できる人材の育成を目指している。

教育目的

看護師として必要な知識・技術・態度を培い、社会に貢献しうる有能な人材を育成する。

教育目標

- 1 生命の尊厳と高い倫理観に基づいた豊かな人間性を養う。
- 2 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解する能力を養う。
- 3 対象の健康上の課題に対応するために、科学的根拠に基づいた看護を実践できる基礎的能力を養う。
- 4 保健医療福祉における看護師の役割を認識し、チームの一員として他職種と協働できる能力を養う。
- 5 看護への探求心を持ち専門職業人として学習し続ける能力を養う。

看護の主要概念

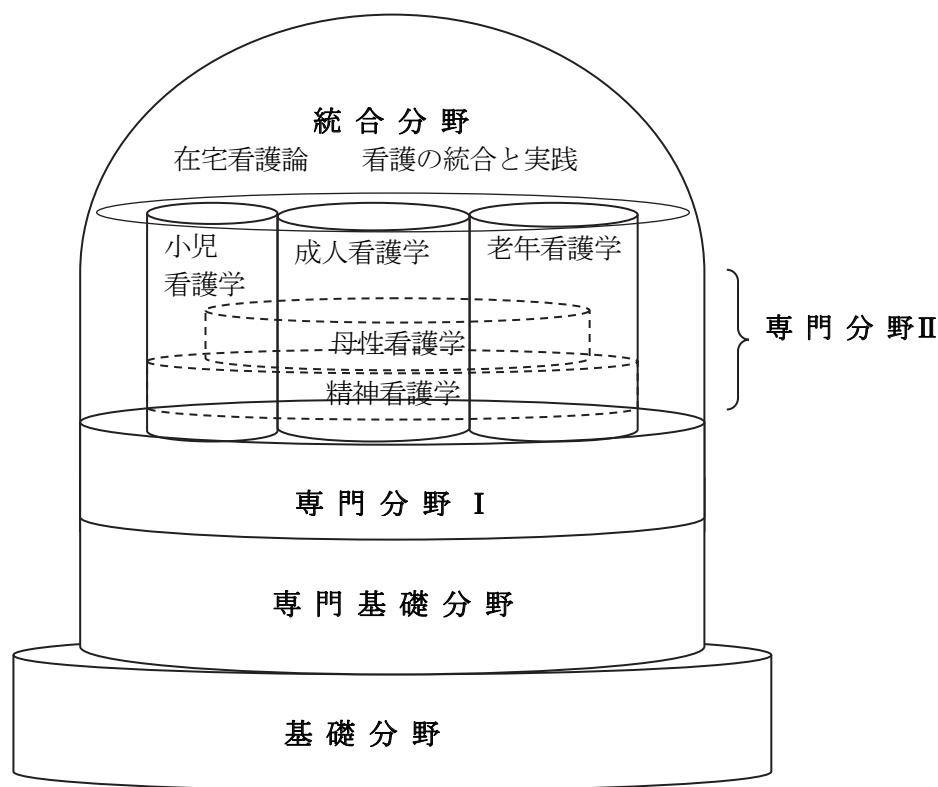
概 念	内 容
人 間	<ul style="list-style-type: none"> 1. 人間は、身体的・精神的・社会的に統合された存在である。 2. 人間は、基本的欲求をもつ存在である。 3. 人間は、多様な価値観をもつ独自の存在である。 4. 人間は、自立（＝自律）した存在である。 5. 人間は、基本的人権を有し、尊厳をもつ存在である。 6. 人間は、成長発達し続ける存在である。 7. 人間は、環境と相互作用し、変化し続ける存在である。 8. 人間は、社会的にそれぞれの役割を担い、生活している存在である。
環 境	<ul style="list-style-type: none"> 1. 環境は人間を取り巻く全てである。 2. 環境は、常に人間と相互に影響しあい変化し続けている。 3. 人間は環境に適応しながら生活している。 4. 環境は、外的環境・内的環境があり、内部環境の恒常性の維持は、外部環境が相互にかかわっている
健 康	<ul style="list-style-type: none"> 1. 健康は、身体的・精神的・社会的に調和の取れた状態である。 2. 健康は、最良の健康から死までの連続的な健康状態がある。 3. 健康は、常に環境と影響しあい流動的に変化する。 4. 健康は、人間の基本的権利であり自ら獲得するものである。
看 護	<ul style="list-style-type: none"> 1. 看護は、あらゆる健康状態にある個人とその家族、または集団を対象とする。 2. 看護は、その人らしい生活を支え、セルフケアができるように援助を行う。 3. 看護は、対象である人と看護者との人間関係を基盤として行われる。 4. 看護は、科学的根拠に基づいて健康状態や変化に対応するために働きかける。 5. 看護は、保健医療福祉チームと協働し、独自の機能と役割を担う。 6. 看護は、社会の変動に伴って変化する保健医療福祉ニーズに対応する。
教 育	<ul style="list-style-type: none"> 1. 教育は、学習者と教授者との相互関係の中でともに成長していく過程である。 2. 教育は、学習者の可能性を引き出し、その可能性を学習者自身が主体的に伸ばしていくように働きかける。 3. 教育は、社会性を育み、人間形成に働きかける。 4. 教育は、成長発達を援助し、自己成長を促す。

教育課程の考え方

期 待 す る 卒 業 生 像

教育目標	卒業生像	主な関連科目
1 生命の尊厳と高い倫理観に基づいた豊かな人間性を養う。	①自己及び他者を尊重することができる。 ②生命の尊厳を守ることができる。 ③他者の思いを知り、配慮することができる。 ④自己洞察でき、他者と協調することができる。 ⑤社会の規範、道徳に基づいた行動をとることができます。 ⑥創造性を高めることができる。 ⑦社会に关心を持つことができる。 ⑧国際的視野を持つことができる。 ⑨心の健康を維持するための対処能力を持つことができる。	論理的思考・情報科学 人間関係論・英語 家族社会学・教育学 発達心理学・倫理学 生活科学・文化人類学 生活とスポーツ 健康科学 精神看護学 看護の統合と実践
2 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解する能力を養う。	①人間を身体的・精神的・社会的側面から統合体として捉えることができる。 ②成長発達段階から人間を捉えることができる。 ③基本的欲求を持つ存在として人間を捉えることができる。 ④人間には多様な価値観があることを認識することができます。 ⑤環境と相互に影響しあう存在として人間を捉えることができる。	人間関係論・家族社会学 発達心理学 生活科学・文化人類学 基礎看護学・成人看護学 老年看護学・小児看護学 母性看護学・精神看護学 在宅看護論 看護の統合と実践
3 対象の健康上の課題に対応するために、科学的根拠に基づいた看護を実践できる基礎的能力を養う。	①あらゆる健康レベルから対象を捉えることができる。 ②セルフケア=自立（自律）できる存在として対象を捉えることができる。 ③理論を活用しアセスメントすることができる。 ④根拠に基づいた看護援助を考えることができます。 ⑤看護技術の基本を身につけることができる。 ⑥行った援助を振り返り、技術の向上を図ることができます。 ⑦対象の状況に応じて安全に援助することができます。 ⑧看護におけるリスクマネジメントの重要性を理解することができる。	論理的思考・人間工学 生活科学・教育学 形態と機能（I～III） 生化学・栄養学 微生物学・病理学・薬理学 疾病治療学（I～VIII） 基礎看護学・成人看護学 老年看護学・小児看護学 母性看護学・精神看護学 在宅看護論・健康科学 看護の統合と実践
4 保健医療福祉における看護師の役割を認識し、チームの一員として他職種と協働できる能力を養う。	①看護の専門性、独自性を自覚することができる。 ②看護者として責任を自覚することができる。 ③チームの一員として協調することができる。 ④他職種の役割を理解することができる。 ⑤他職種との連携調整の必要性を理解することができる。 ⑥社会資源の活用と調整方法を理解することができる。	人間関係論 基礎看護学 保健医療論 公衆衛生学・社会福祉 看護と法律 看護の統合と実践
5 看護への探求心を持ち専門職業人として学習し続ける能力を養う。	①看護者として倫理に基づいた行動をとることができます。 ②看護を探求する姿勢を持ち続けることができる。 ③主体的に学び続ける姿勢を持つことができる。 ④自己の看護観を表現することができる。	論理的思考 倫理学 基礎看護学 看護の統合と実践

教育課程の構造図



教育課程の構築の考え方

「基礎分野」は、専門基礎分野、専門分野I、専門分野II、統合分野の基礎となり、看護を実践する人として、幅広いものの見方、考え方そして人間理解に必要な基礎的能力を身につける内容とする。基礎分野の広がりは人間育成を表す。

「専門基礎分野」は、専門分野I、専門分野II、統合分野の支持科目と位置づけ、人間の構造と機能を系統立てて理解し、健康・疾病・障害に関する知識、判断力を強化し、看護実践で活用可能な内容とする。また、健康や障害の状態に応じて、社会資源を活用できるように保健医療福祉について理解する内容とする。

「専門分野I」は、各看護学及び在宅看護論の基礎となる内容を強化し、基礎分野と専門基礎分野を土台に専門分野II及び統合分野と有機的に関連し合い、看護に必要な基礎的実践能力を養う内容とする。また看護師として、倫理的な判断をする基礎的能力を養う内容とする。

「専門分野II」は、基礎分野と専門基礎分野、専門分野Iを基盤に、小児看護学、母性看護学、成人看護学、老年看護学、精神看護学で構成し、対象の成長発達段階に応じた看護を実践する基礎的能力を養う内容とする。専門分野IIの母性看護学は生殖機能の発達・成熟・衰退する時期の女性及び家族に焦点を当て、他の看護学と一部重なる科目として位置づける。精神看護学は、あらゆる発達段階の人々の心の健康に焦点を当てて学習するため、各看護学に横断するように位置づけた。

統合分野の「在宅看護論」は対象特性をふまえて、専門分野IIで学んだ看護をもとに、地域で生活しながら療養する人々とその家族を理解し、在宅での看護の基礎を学ぶ内容である。そのため専門分野IIの上に位置する。「看護の統合と実践」では基礎分野から専門分野IIにおいて学習した知識と技術を統合して実践できる内容とした。

カリキュラムデザイン

湘央学園 浦添看護学校 看護学科

3年	専門基礎分野			専門分野Ⅱ		統合分野
2年	基礎分野	専門基礎分野	専門分野Ⅰ	専門分野Ⅱ		統合分野
1年	基礎分野		専門基礎分野		専門分野Ⅰ	専門分野Ⅱ

各分野の考え方

	教育内容	科目名	考え方
基 礎 分 野	科学的思考の基盤	論理的思考 人間工学 情報科学	<p>科学的思考の基盤においては、科学的根拠のある看護実践のためには論理的な考え方を身につける必要があり、「論理的思考」「人間工学」「情報科学」の科目を設定した。</p> <p>「論理的思考」客観的に物事を認識するための論理性は、すべての科学分野において重要である。論理的思考の形式と法則を学び、自己表現できる能力を養うことを目的とした。</p> <p>「人間工学」は人間を取り巻く環境や日常生活動作を物理学的視点で理解するために設定した。</p> <p>「情報科学」はコンピュータなどの基本操作をふまえて、看護のデーター分析に必要な統計の基礎や統計処理に関する方法を学び、看護研究などに必要な統計的手法を理解する内容とした。さらに倫理観に基づいて情報管理できる能力を養う内容とした。</p>
人間と生活・社会の理解	人間関係論 英語 家族社会学 教育学 発達心理学 倫理学 生活科学 生活とスポーツ 文化人類学		<p>人間と生活・社会の理解においては、人間と社会を幅広く理解できる内容と国際化へ対応する能力、コミュニケーション能力と高い倫理観を養うことを目的とした。</p> <p>「人間関係論」は人間関係の意義を理解し、コミュニケーションの基本とカウンセリングの基本・技法を学び、人間関係を発展させるコミュニケーション能力を高める内容とした。</p> <p>「英語」は、これまでの教育による英語実践能力の向上を念頭に、専門的学習へ導くための科目と捉え、看護ケアの場面での英会話や、看護英語の文献の読解を学ぶ内容とした。</p> <p>「家族社会学」家族は、社会の影響を受けて存在している現代は、社会、就労形態の変化に伴い家族の形態や機能が多様化している。社会の構造や家族の形態・機能を学ぶことは、患者や患者を取り巻く家族を理解することにつながり、家族を含めた看護を考える科目とした。</p> <p>「教育学」は、人間形成における教育の機能を理解し、人間の可能性を引き出すための教育の方法や評価、指導技術を学び、看護実践に生かすことができるよう設定した。</p> <p>「発達心理学」は人間の発達課題、心理・社会的危機について理解する内容とする。</p> <p>「倫理学」は人間としてのあり方、生き方などを考えることにより、医療にかかわる者としての生命尊重や相手を尊重し、倫理に基づく行動の基礎を学ぶ内容とした。</p> <p>「生活科学」は、生活を構成する要素との関連性を理解し、人間の生活を総合的に理解するとともに生活環境と健康との関連について学ぶ内容とした。「生活とスポーツ」は生活の中での運動に焦点を当て、学習する内容とした。心と体のバランスは健康を考える上で重要である。運動は、心のバランスを保つ上でも必要である。また、運動による筋力 up は、転倒予防、生活習慣病の予防にもつながる。生活の中でとりいれられる運動を実践することは、</p>

教育内容	科目名	考え方
		<p>自らの健康維持にも役立ち、看護を実践する上での指標となる。</p> <p>「文化人類学」では、世界の様々な民族の社会・文化を学び、自らの文化を考え、自己と他者の理解を深める科目とした。また、異なる文化を理解することは、他国の生活習慣、病気や健康に対する価値観などを理解することになり、国際看護を展開するために必要とされる知識を学ぶ内容とした。</p>
専門基礎分野	人体の構造と機能 形態と機能Ⅰ 形態と機能Ⅱ 形態と機能Ⅲ 生化学・栄養学	<p>人体の構造と機能においては、人体を人間の生活行動に焦点を当てて理解し、健康・疾病・障害に関する観察力、判断力を強化するため、「形態と機能」、「生化学・栄養学」を学ぶ内容とした。形態機能は、ある特定の機能に焦点をあてて形態（外からみた人の形や働き）を観る、つまり看護の対象である人間の生活行動に焦点を当てて形態や機能を学ぶ科目である。</p> <p>「形態と機能Ⅰ」では、疾病治療学との関連で、基本的な解剖学的用語や身体の構成を学び、人体を全体的に捉える内容を含めた。環境との調節を図りながら生活をするヒトの恒常性維持に関する形態と機能として体液の分類・分布・量・電解質を捉える。恒常性を維持するための物質の流通に関する形態と機能として、流通の媒体を血液、流通路（循環器）として血管・リンパ管、流通の原動力として心臓を捉え、流通路（循環器）や息をする（呼吸器）に関する形態と機能を理解する内容を学習する。</p> <p>「形態と機能Ⅱ」では、ヒトの生活行動に焦点をあてた形態と機能のうち「食べる」「トイレに行く=排泄」の2つの生活行動の内容を学ぶ内容とした。</p> <p>また、恒常性維持のための調節機構に関する形態と機能として、神経性調節：受容器、中枢神経、末梢神経、液性調節：ホルモンとして捉える。そのうち、液性調節：ホルモンの形態と機能を学ぶ内容とした。</p> <p>「形態と機能Ⅲ」では、恒常性維持のための調節機構に関する形態と機能として、神経性調節：受容器、中枢神経、末梢神経を学ぶ内容とした。また、ヒトの生活行動に焦点をあてた「動く」やヒトとしての社会生活を営むうえで欠かせない感覚：「話す・聞く・見る」、「お風呂に入る=皮膚」の形態と機能を学ぶ内容とした。「子供を生む=生殖」という生活行動に関する形態と機能に人体の発生をあわせて学ぶ内容とした。</p> <p>「生化学・栄養学」では、「生化学」は生体物質の基本的知識とその物質代謝を基にして、病気や病態を捉える科目である。物質の代謝物が数値化されたものは、臨床に広く応用されている生化学検査であり、その検査の意味をも理解することにつながり、看護ケアをする上での科学的判断の根拠につながる科目である。「栄養学」は、人間にとつての栄養の意義を理解し、発達段階に応じた食事の形態および健康障害時の食事療法の基本を理解する内容とした。</p>
	疾病の成り立ちと回復 微生物学 病理学	疾病的成り立ちと回復の促進については、疾病的成り立ちや回復に対する基礎的知識を学び、健康・疾病・障害に

	教育内容	科目名	考え方
専門基礎分野	の促進	薬理学 疾病治療学Ⅰ 疾病治療学Ⅱ 疾病治療学Ⅲ 疾病治療学Ⅳ 疾病治療学Ⅴ 疾病治療学Ⅵ 疾病治療学Ⅶ 疾病治療学Ⅷ	<p>関する観察力、判断力を強化するため、「微生物学」、「病理学」、「薬理学」、「疾病治療学」を学ぶ内容とした。</p> <p>「微生物学」は、高分子有機化合物を他の生物に再利用可能な小さな分子に分解したり、人間に有益をもたらす食物を作り出したり、人間や動植物に病気を引き起こしたりという多様な面がある。微生物学を学ぶことにより、微生物がどこにいて、どのようにしてヒトに感染し病気を起こすのか、それを治療し予防するにはどうしたらよいかなどを学ぶ内容とする。</p> <p>「病理学」は、病気の原因を追究し、病気になった患者の身体に生じている変化がどのようなものであるかを知る科目であり、患者の病気の診断・検診及び病気の予防にも生かされる。看護にとって根拠に基づいた的確な看護を行うためには、人間の構造と機能を理解したうえで、病気の原因あるいは経過についても正確な知識を養っておかなければならない。病理学（＝病気の原因や経過）を知ることは、日常行っている看護活動の根拠となりうる。また、疾患の発生傾向や発生要因などについても理解することは、予防的視点から看護に取り組むことにつながる。</p> <p>「薬理学」：薬は病気によって身体機能が正常より亢進、あるいは低下した状態のときに正常な状態に近づけるようにはたらく化学物質である。細胞内は複雑な調整機構が働いているが、この膨大な調節機構の一部に働いた薬物は体内のさまざまな機能へ影響を与えている可能性があり、本来の治療効果を期待した薬物から、副作用や有害作用を受けることもある。このように薬の基本的性質を理解し、病気の回復促進につながる援助の根拠となるような学習内容とした。</p> <p>疾病治療学については、教育内容全体にかかる内容を治療総論とし、その他を系統別に大別し、さまざまな臨床の分野での代表的な疾患の診断・治療など、看護を行う上で不可欠な基礎的な知識について学び、健康障害を抱える対象の看護の展開に有機的に結びつけられるような内容とした。また、成長発達段階が影響する小児期に特徴的な疾患と治療、すべての発達段階に発生しうる精神障害に関する内容、母性看護学の対象である内分泌環境の変化の時期にある女性の疾患と治療の内容を取り出し、科目を設定した。</p> <p>「疾病治療学Ⅰ」では、治療総論として、外科的治療、麻酔、ペインコントロール、放射線療法、臨床検査について学習し、看護援助の基礎知識とする内容とした。</p> <p>「疾病治療学Ⅱ」では、呼吸・循環機能障害とその治療に関する内容とした。</p> <p>「疾病治療学Ⅲ」では、消化・内分泌・代謝・血液・造血機能障害その治療に関する内容とした。</p> <p>「疾病治療学Ⅳ」では、腎・泌尿器・生体防御機能障害・感染症とその治療に関する内容とした。</p> <p>「疾病治療学Ⅴ」では、脳・神経・運動機能障害・眼・耳鼻咽喉・歯科・口腔・皮膚疾患とその治療に関する内容とした。</p>

教育内容	科目名	考え方
専 門 基 礎 分 野		<p>「疾病治療学VI」では、小児の特徴的な疾病的診断・治療など、看護を行う上で不可欠な基礎的な知識について学び、小児の成長発達段階をふまえ、健康障害を抱える対象の看護の展開に有機的に結びつけられるような内容とした。</p> <p>「疾病治療学VII」では、母性看護学の対象である女性の特徴を捉え、内分泌環境変化の時期である女性の健康障害と検査、治療を理解する内容とした。</p> <p>「疾病治療学VIII」では、主な精神疾患の精神症状の現れ方の特徴と疾病の原因、診断、治療について学び、看護師・患者関係成立、発展の必要性を理解するとともに、健康障害に応じた看護に生かすことができる内容とした。</p>
野	健康支援と 社会保障制度	<p>健康科学 保健医療論 公衆衛生学 社会福祉 看護と法律</p> <p>健康支援と社会保障制度の教育内容において、保健医療福祉に関する基本概念、関係制度、関係職種の役割を理解するとともに、健康や障害の状態に応じ社会資源の活用ができるような基礎的な能力を養う内容とした。</p> <p>「健康科学」では、人々の健康維持増進のための健康教育のあり方やその考えを学ぶ科目とする。</p> <p>「保健医療論」では、医療のあり方が大きく変貌しつつある今日、医療の変遷を知らずにこの変貌した時代や看護の目ざすべき目標を明確にすることはできない。医療の変遷を知り、現在の保健医療システム・サービスの現状と課題を理解する内容とした。</p> <p>「公衆衛生学」公衆衛生の目的は、生活者のさまざまな健康について学び、健康で活力ある福祉社会を作り上げることにある。国民の健康に関する状況と生活環境を学び、人々が健康を享受するために望ましい制度や公衆衛生活動の実際を学ぶ内容とした。</p> <p>「社会福祉」では、生活者の健康を保障する社会の制度を理解し、それらを社会資源として活用する能力の基礎知識とする科目とした。国民の最低限の生活を保障する社会保障制度、社会的な援護を要する者への支援を行う社会福祉制度がある。この社会保障、社会福祉制度は、高齢化の急速な進行と年金制度の成熟化、介護保険制度の創設などにより、誰もが必ずかかわりをもつ普遍的な制度として意識されるようになった。社会保障、社会福祉の知識は、看護を提供する上で必要な知識となる。</p> <p>「看護と法律」では、医療に関連する法の基礎知識、看護職に必要な法規を学び、専門職業人として法的責任を自覚した行動が取れるための基礎知識を学ぶ。また、労働関係法規を学び、患者や看護者の労働環境からくる健康問題・健康対策なども理解することにつながる。</p>
専 門 分 野 I	基礎看護学	<p>基礎看護学概論 I 基礎看護学概論 II 基礎看護学方法論 I 基礎看護学方法論 II 基礎看護学方法論 III 基礎看護学方法論 IV 基礎看護学方法論 V</p> <p>専門分野Iの看護学である「基礎看護学」は、各看護学の基礎・基本・原則的な部分を担っている。看護者が最初に学ぶ専門分野であり基礎となるため、単位数や教育内容が広範囲に及ぶ。そのため、基礎分野、専門基礎分野に連動し、専門分野II、統合分野との学習内容の重複を避け、他分野との関連性を整理し、段階的に習熟できるようにした。</p> <p>「基礎看護学概論」は、看護学を学ぶ基礎的な概念、看</p>

教育内容	科目名	考え方
専門分野I	基礎看護学方法論VI 基礎看護学方法論VII 基礎看護学方法論VIII 基礎看護学実習 I 基礎看護学実習 II	護の対象、目的や役割などを学ぶ内容とした。また、研究の基礎の単元は、これから学ぶ各看護学の学習と関連づけて、実践した看護を理論的に整理する基礎とする内容とした。 「基礎看護学方法論」は、共通基本技術、日常生活援助技術、診療の補助技術、看護過程、フィジカルアセスメントの実際に分けて整理した。対象のニードや生活行動に焦点をあてた援助技術は、専門基礎分野の「形態と機能」と関連させながら整理をした。診療の補助技術は、他看護学との関連性を検討し、整理した。 「基礎看護学実習 I」では、対象へ安全・安楽な日常生活援助を実践する内容とした。 「基礎看護学実習 II」では、受け持った対象への看護過程を展開する内容とした。
専門分野II	専門分野IIの看護学教育内容の全体構造は、看護の目的、看護倫理、対象の理解、健康状態別の看護から構成した。科目構造は、「概論」「方法論」から構成した。概論では各看護学の基本となる概念やその領域における対象を理解し、看護の概要を学ぶ。方法論では健康状態別の看護を中心に機能障害別 の方法もふまえて各看護学の対象の看護を学ぶ内容とした。	
成人看護学	成人看護学概論 成人看護学方法論 I 成人看護学方法論 II 成人看護学方法論 III 成人看護学方法論 IV 成人看護学方法論 V 成人看護学実習 I 成人看護学実習 II 成人看護学実習 III	成人看護学の看護の対象は青年期から壮年期・高齢までの人々で、ライフサイクルのなかで最も長く心身ともに充実した時期である。また、職業生活、家庭生活、人間関係も複雑で多様な役割を担い、自ら自立（＝自律）していくかなければならない存在である。成人看護学では、これらのライフサイクルの対象の特徴を理解し、さまざまな健康状態、機能障害の看護の方法と健康課題が生活に密接にかかわっていることをふまえた健康回復に向けた看護の方法を学ぶ。 成人看護学の構造は、成人期にある対象の特徴と看護の目的を含む看護の概要を学ぶ科目と、健康の状態やその状況に応じて看護の役割、看護の方法を学ぶ科目で構成し、成人期にある対象を統合体として捉え援助するために、身体機能の変調を軸に健康障害を健康状態別・系統別・治療処置別にあわせ、機能障害別看護の方法を学習する。また、各機能障害別を看護の特徴で、健康状態別を健康生活の急激な破綻から回復を促す看護、健康生活の慢性的な揺らぎの再調整を促す看護、障害をもちながらの生活とリハビリテーション、人生の最期のときを支える看護の学習内容とした。さらに、成人の健康の状態に応じた看護過程では、それぞれの健康障害のある対象の看護過程を展開できる能力を向上させることを目的として設定した。成人看護学では、基礎看護学で習得した看護技術を基本に、成人看護学に特徴的な看護技術の習得を目指す内容とした。 「成人看護学実習」では、成人期にある対象の特徴を捉え、健康の状態に応じた対象へ看護実践できる基礎的能力を養う。構成として、「成人看護学実習 I」、「成人看護学実習 II」、「成人看護学実習 III」と設定した。
老年看護学	老年看護学概論 老年看護学方法論 I	「老年看護学概論」では、老年期の発達段階の特徴と高齢者を取り巻く環境について学び、加齢に伴う身体的・精

教育内容	科目名	考え方
専門分野Ⅱ	老年看護学方法論Ⅱ 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ	<p>神的・社会的側面から高齢者への理解を深める。また、高齢者を支援し、社会資源について学び、老年看護の目的や役割について理解する。</p> <p>「老年看護学方法論Ⅰ」では、加齢による変化や、高齢者に特徴的な疾患や症状が、生活に及ぼす影響を捉え、QOLの維持・向上へ向けた援助について学ぶ。</p> <p>「老年看護学方法論Ⅱ」では、認知機能の障害に対する看護について学び、対象とその家族への支援を通して高齢者の尊厳について理解を深める。また、看護過程・アクティビティケアなどの演習を通して実践へ向けた援助方法を学ぶ。</p> <p>「老年看護学実習」では、既習した講義を基盤に、実習Ⅰにおいては、高齢者個々に対して尊重した態度で支援・援助を行いつつ、看護師としての人間関係のあり方を学び、QOLの向上を目指した高齢者の日常生活・セルフケアへの援助、自立への支援について老人保健施設及びその付帯施設のサービスを通して経験する。実習Ⅱでは、疾患により生活への障害のある高齢者の看護については病院において高齢者及び家族を対象に実施する。また、高齢者の生活を支える保健・医療・福祉の施策の活用を通して他職種との協働・連携を経験し、老年看護の課題と役割を学ぶ。</p>
	小児看護学	<p>小児看護学概論 小児看護学方法論Ⅰ 小児看護学方法論Ⅱ 小児看護学実習</p> <p>小児看護学では、専門分野Ⅰの学習をふまえて、対象である「子ども」の成長・発達の特徴や発達課題、家族を含む看護の特性を中心に学ぶ。子どもと家族を一つの単位としてとらえ、子どもと家族が自らの力で健康を維持し、幸福に生活していくことができるよう支援していくことを基本理念とする。常に環境から影響を受けやすい存在であることをふまえ、現代の子どもと家族の特徴およびその環境をより広い視点からとらえ、さまざまな健康状況にある子どもと家族の看護について学ぶ内容とする。</p> <p>「小児看護学概論」では、子どもの権利を尊重し子どもと家族の最善の利益を守る上での、小児看護の機能と役割、倫理について学ぶ。子どもの心身の成長・発達の特徴を理解するとともに、子どもを取り巻く家族や社会・自然環境を含めた視点で小児看護の対象を理解する。</p> <p>「小児看護学方法論Ⅰ」では、健康な生活を送るために必要な援助について学び、成長・発達を支援するための看護について学ぶ。次に、本校の考える健康状態に応じて、小児看護の様々な場、状況に応じた看護について学ぶ。また、その健康状態に特徴的な疾患の看護について学ぶ組み立てにした。</p> <p>「小児看護学方法論Ⅱ」では、現在の小児医療・小児看護の現場では病気のケアの重要な要素として位置づけられているプレパレーション技術や小児看護に必要な看護技術について学ぶ。小児看護学で学んだ知識を統合し応用する能力を養うため、紙上事例を用いて看護過程を展開する。また、その事例の中から、プレパレーション演習を取り入れ、小児看護における実践力を養う。</p>

	教育内容	科目名	考え方
専 門 分 野 II			「小児看護学実習」では、これらの学習をふまえ健康な小児からさまざまな健康状態にある小児まで、学習の場を広く設定し、それぞれの学生が子どもや家族と関わることで、成長・発達の過程にある子どもを全人的にとらえ、子どもが本来持っている力が発揮できるように子どもと家族を支援していくために必要な基礎的能力を養うことをねらいとする。
	母性看護学	母性看護概論 母性看護学方法論 I 母性看護学方法論 II 母性看護学実習	「母性看護学概論」では、母性看護の対象であるすべての女性を内分泌的な変化から見た発達段階にわけて身体的・心理的・社会的な側面から理解する内容とした。また、近年の母性看護をめぐる社会的な変化を広く捉え、母性看護の機能と役割を理解する内容とした。 「母性看護学方法論 I」では、さまざまな健康状態にある母性看護の対象：妊婦・産婦・褥婦および新生児の特徴をふまえて援助方法を理解する内容とした。 「母性看護学方法論 II」では、母性看護を展開するために必要な看護過程の展開方法やヘルスアセスメントに必要な技術や対象との援助関係形成のための技術や援助技術を理解し習得する内容とした。 「母性看護学実習」では、マタニティサイクルにある女性及び新生児の看護を中心としながら女性の健康支援を学習する内容とした。
	精神看護学	精神看護学概論 精神看護学方法論 I 精神看護学方法論 II 精神看護学実習	精神看護学は、広義で捉えると「すべての発達段階にある人間の心に関わる」また、狭義においては「精神疾患を抱えた患者に関わる」と位置づけられている。このことから精神科のみならず他の診療科や施設などにおいて、精神看護の考え方や方法がますます必要とされるようになってきた。さらに、看護において基本的な技術であるコミュニケーションの技術を活用し、対象の理解を深め円滑な人間関係を築くための学びを深める領域である。 「精神看護学概論」では、精神看護の基盤となる概念で心について学ぶ。精神看護学では、すべての領域にある人々の心の健康について考え、対象理解を深める。また、家庭や学校、職場における人間関係の中で、心は影響し合い育まれることを学習する。さらに、心の健康の維持とライフサイクルにおける心の健康と発達について学び、現代社会の社会病理からみた心のあり方と、精神看護学の位置づけを学ぶ。精神保健福祉の歴史的な変遷から、今日の制度の成り立ちまでを学び、入院中の患者の処遇及び精神保健福祉法と関連付けて学習する。更に精神看護に用いる看護理論を学ぶことで、知識や技術と態度を養う。 「精神看護学方法論 I」では、精神科の診療に伴う診察や検査時の看護の基本的な援助について学ぶ。特に、幻覚妄想や不安などの精神症状に対する看護について学び、精神障害者の抱える「生活のしづらさ」を改善するための生活技能訓練をはじめとする、社会療法や薬物療法などについて学習する。また、精神科リハビリテーションについて学び、精神障害者がその人らしく、地域や病院で自立的に

教育内容	科目名	考え方			
専門分野Ⅱ		<p>生活できる援助方法を学ぶ。さらに、発達段階別の危機と災害時などの特殊な場面における心の働きを学ぶことで、対象の理解を深めていく。また、精神科看護におけるリスクマネジメントについて考え、対象にとっての安全について学ぶ。</p> <p>「精神看護学方法論Ⅱ」では、事例を通して、精神に障害をもつ対象を統合的（身体的・精神的・社会的側面）に理解し、健康な側面に注目しながら看護実践に必要な看護過程の展開（援助方法）を理解する。精神障害者の理解と看護を実践するために、必要な人間関係形成の方法援助を発展させるためにプロセスレコードを用いて自己洞察、自己理解、患者と看護師の相互作用について学ぶ内容とする。また、精神障害者を理解する上で必要な、統合失調症をはじめとする精神疾患をもつ患者の看護について学び、精神障がい者がその人らしく、生活できる援助方法を学習する。</p> <p>「精神看護学実習」では、精神保健医療福祉における看護の役割・機能および精神を障がいされた人と、その家族の理解を深め、健康の保持増進、回復への支援の方法について学ぶ。精神看護は、精神の健康問題に直面している個人及び家族に対して継続的な働きかけが大切である。また患者と看護者の人間関係が治療的な関係を築き、看護者として自己洞察の必要性を学ぶことができる。チーム医療については多職種の役割を知り連携することの意味を学ぶことができる。</p>			
統合分野	<p>統合分野では、看護の集大成としてこれまで学んできた知識と技術を統合して実践できる能力を養う必要がある。統合分野は在宅看護論と看護の統合と実践から構成する。</p> <table border="1"> <tr> <td>在宅看護論</td> <td> <p>在宅看護概論 在宅看護方法論Ⅰ 在宅看護方法論Ⅱ 在宅看護論実習</p> </td> <td> <p>「在宅看護概論」では、在宅看護の対象である療養者および家族の特徴や生活者としての対象の特性を理解し、その人らしい生活や自立を支えていく必要性を学ぶ。また、療養者と家族を支えていくために必要な社会資源について学び、在宅看護の特徴と療養者および家族を含めた支援を展開できる視点を深めていく。</p> <p>「在宅看護方法論Ⅰ」では、在宅看護の中心である訪問看護の訪問者としての一般常識やマナー、人間関係形成のためのコミュニケーション力について理解する。また、療養者・家族の思いや自立性を大切にして対象に合った援助方法が求められる。そこで、人間関係づくりをふまえ、在宅におけるリスクマネジメントを含めた看護技術、また関係職種との連携方法について学び、地域の中で訪問看護の対象を支え続けていくための援助について学習する。</p> <p>「在宅看護方法論Ⅱ」では、在宅療養者の疾患は多岐にわたり、複数の疾患・障害を抱えている場合も多い。それに伴い在宅でも多くの医療処置が実施されている。ここでは、様々な療養環境の中で生活している療養者・家族を支えていくための技術や制度について学び、療養者・家族の思いを大切にしながら地域の中で支え続けていくための看護過程の展開・援助の工夫について学習する。</p> <p>「在宅看護論実習」では、地域で生活している療養者と</p> </td> </tr> </table>	在宅看護論	<p>在宅看護概論 在宅看護方法論Ⅰ 在宅看護方法論Ⅱ 在宅看護論実習</p>	<p>「在宅看護概論」では、在宅看護の対象である療養者および家族の特徴や生活者としての対象の特性を理解し、その人らしい生活や自立を支えていく必要性を学ぶ。また、療養者と家族を支えていくために必要な社会資源について学び、在宅看護の特徴と療養者および家族を含めた支援を展開できる視点を深めていく。</p> <p>「在宅看護方法論Ⅰ」では、在宅看護の中心である訪問看護の訪問者としての一般常識やマナー、人間関係形成のためのコミュニケーション力について理解する。また、療養者・家族の思いや自立性を大切にして対象に合った援助方法が求められる。そこで、人間関係づくりをふまえ、在宅におけるリスクマネジメントを含めた看護技術、また関係職種との連携方法について学び、地域の中で訪問看護の対象を支え続けていくための援助について学習する。</p> <p>「在宅看護方法論Ⅱ」では、在宅療養者の疾患は多岐にわたり、複数の疾患・障害を抱えている場合も多い。それに伴い在宅でも多くの医療処置が実施されている。ここでは、様々な療養環境の中で生活している療養者・家族を支えていくための技術や制度について学び、療養者・家族の思いを大切にしながら地域の中で支え続けていくための看護過程の展開・援助の工夫について学習する。</p> <p>「在宅看護論実習」では、地域で生活している療養者と</p>	
在宅看護論	<p>在宅看護概論 在宅看護方法論Ⅰ 在宅看護方法論Ⅱ 在宅看護論実習</p>	<p>「在宅看護概論」では、在宅看護の対象である療養者および家族の特徴や生活者としての対象の特性を理解し、その人らしい生活や自立を支えていく必要性を学ぶ。また、療養者と家族を支えていくために必要な社会資源について学び、在宅看護の特徴と療養者および家族を含めた支援を展開できる視点を深めていく。</p> <p>「在宅看護方法論Ⅰ」では、在宅看護の中心である訪問看護の訪問者としての一般常識やマナー、人間関係形成のためのコミュニケーション力について理解する。また、療養者・家族の思いや自立性を大切にして対象に合った援助方法が求められる。そこで、人間関係づくりをふまえ、在宅におけるリスクマネジメントを含めた看護技術、また関係職種との連携方法について学び、地域の中で訪問看護の対象を支え続けていくための援助について学習する。</p> <p>「在宅看護方法論Ⅱ」では、在宅療養者の疾患は多岐にわたり、複数の疾患・障害を抱えている場合も多い。それに伴い在宅でも多くの医療処置が実施されている。ここでは、様々な療養環境の中で生活している療養者・家族を支えていくための技術や制度について学び、療養者・家族の思いを大切にしながら地域の中で支え続けていくための看護過程の展開・援助の工夫について学習する。</p> <p>「在宅看護論実習」では、地域で生活している療養者と</p>			

	教育内容	科目名	考え方
統合			その家族を理解し、その人らしい生活や自立を支援するための社会資源の活用や療養環境を整える方法を工夫し対象（療養者、家族）に合わせた援助の実際を学ぶ。また、看護だけでなく、在宅療養を支える多職種との連携、それぞれの役割についても学習する。
分野	看護の統合と実践	医療安全 国際看護と災害看護 看護管理と事例研究 看護技術の統合演習 統合実習	<p>看護の統合と実践では、基礎分野から専門分野において学習した知識、技術を統合し、臨床現場の実務に即した看護を実践できる能力を養う。また、看護の機能と役割の拡大に伴うチーム医療・看護ケアにおける看護師としての調整、看護マネジメントができる能力を養う内容および看護基礎教育での看護技術の総合的評価を行う内容とした。</p> <p>「医療安全」では、基礎看護学方法論Ⅰの安全を守る・感染予防を推進する技術の学びをふまえ、医療安全を学ぶ意義、医療安全管理対策の基本的考え方を理解し、看護職として求められる知識と技術、現場で起きている事故の特性と防止策などを学ぶ内容とした。また、療養環境は、医療従事者にとって感染リスクの高い場所であることを認識し、看護行為が感染源とならないよう気をつけるとともに、自己の安全を守る必要がある。適切な感染管理と感染予防対策の基本を学ぶ内容とした。</p> <p>「国際看護と災害看護」では、国際社会において看護師として諸外国との協力のあり方及び県下において国際活動を行っている施設や国際活動に携わる人々を通して国際協力の現状を理解し、今後の活動の動機付けになる内容とした。また、我が国の災害対策、災害援助について現状を通して災害時の看護の特徴と基本的な援助について理解する内容とした。</p> <p>「看護管理と事例研究」では、看護管理の目的と機能及び組織の一員としてのリーダーシップとメンバーシップを理解し、看護をマネジメントできる基礎的能力を養う内容とした。「事例研究」では、基礎看護学概論Ⅱで学んだ研究の基礎をふまえ、自己の看護実践を振り返り、理論と統合させながら事例研究をまとめる内容とした。</p> <p>「看護技術の統合演習」では、卒業時の看護技術の到達は患者の状態、その場に応じた状況判断ができることが重要である。また、統合実習の前段階として、臨床に近い状況での看護技術を学ぶ必要がある。複数患者への対応、患者、チームメンバー等の他者との調整、割り込み状況（予期しない患者の反応、突発的な事態、時間切迫など）への対処を含めた看護技術を学ぶ内容とした。</p> <p>「統合実習」は、病院における看護管理の実際を知るとともに、チームの一員として看護を実施し、看護専門職としての役割を理解し、自覚と責任を養うために設定した。複数の患者を受け持ち、患者の状態を把握し、優先順位を考えた援助ができる内容とした。また、実習全体を通して看護専門職として自己の振り返りが表現できる内容とした。</p>

教育課程進度表

分野	教育内容	科目	学則		1年次		2年次		3年次	
			単位	時間	前期	後期	前期	後期	前期	後期
基礎分野	科学的思考の基礎	論理的思考	1	30	30					
		人間工学	1	15	15					
		情報科学	1	30			30			
	人間と生活・社会の理解	人間関係論	1	30	30					
		英語	2	45	45					
		家族社会学	1	30			30			
		教育学	1	30	30					
		発達心理学	1	30	30					
		倫理学	1	30	30					
		生活科学	1	15	15					
		生活とスポーツ	1	30		30				
		文化人類学	1	30			30			
	小計		13	345		255		90		0
専門基礎分野	人体の構造と機能	形態と機能 I	1	30	30					
		形態と機能 II	1	30	30					
		形態と機能 III	1	30		30				
		生化学・栄養学	1	30			30			
	疾病の成り立ちと回復の促進	微生物学	1	30	30					
		病理学	1	30		30				
		薬理学	1	30			30			
		疾病治療学 I	1	30			30			
		疾病治療学 II	1	30			30			
		疾病治療学 III	1	30			30			
		疾病治療学 IV	1	15				15		
		疾病治療学 V	1	30				30		
		疾病治療学 VI	1	15				15		
		疾病治療学 VII	1	15					15	
	健康支援と社会保障制度	疾病治療学 VIII	1	15					15	
		健康科学	1	30				30		
		保健医療論	1	15					15	
		公衆衛生学	1	15					15	
		社会福祉	2	45					45	
	看護と法律	看護と法律	1	15						15
		小計	21	510		300		180		30
専門分野I	基礎看護学	基礎看護学概論 I	1	30	30					
		基礎看護学概論 II	1	30	30					
		基礎看護学方法論 I	1	30	30					
		基礎看護学方法論 II	1	30	30					
		基礎看護学方法論 III	1	30	30					
		基礎看護学方法論 IV	1	30		30				
		基礎看護学方法論 V	1	30			30			
		基礎看護学方法論 VI	1	30			30			
		基礎看護学方法論 VII	1	30			30			
		基礎看護学方法論 VIII	1	30				30		
	臨地実習	基礎看護学	1	45	45					
	基礎看護学	基礎看護学実習 I	2	90			90			
		基礎看護学実習 II	2	90						
	小計		13	435		405		30		0
専門分野II	成人看護学	成人看護学概論	1	30	30					
		成人看護学方法論 I	1	30		30				
		成人看護学方法論 II	1	30			30			
		成人看護学方法論 III	1	30				30		
		成人看護学方法論 IV	1	30					30	
		成人看護学方法論 V	1	30					30	
	臨地実習	成人看護学	2	90					90	
	老年看護学	成人看護学実習 I	2	90						90
		成人看護学実習 II	2	90						90
		成人看護学実習 III	2	90						90
	老年看護学	老年看護学概論	1	30		30				
		老年看護学方法論 I	2	45			45			
		老年看護学方法論 II	1	30				30		
	臨地実習	老年看護学	2	90					90	
	小児看護学	老年看護学実習 I	2	90						90
		小児看護学方法論 I	1	30		30				
		小児看護学方法論 II	1	30				30		
	臨地実習	小児看護学	2	90						90
	母性看護学	小児看護学実習	2	90						
		母性看護学概論	2	45			45			
		母性看護学方法論 I	1	30				30		
	臨地実習	母性看護学方法論 II	1	30					30	
		母性看護学実習	2	90						90
	精神看護学	精神看護学概論	1	30			30			
		精神看護学方法論 I	1	30				30		
		精神看護学方法論 II	2	45					45	
	臨地実習	精神看護学	2	90						90
	小計		38	1,320		150		630		540
統合分野	在宅看護論	在宅看護概論	1	30				30		
		在宅看護方法論 I	1	30					30	
	看護の統合と実践	在宅看護方法論 II	2	45					45	
		在宅看護論実習	2	90						90
		医療安全	1	30						30
		国際看護と災害看護	1	30						30
	臨地実習	看護管理と事例研究	1	30						30
		看護技術の統合演習	1	30						30
		看護の統合と実践	2	90						90
	小計		12	405		0		105		300
	合計		97	3,015		1080		1065		870

教科外活動

目的

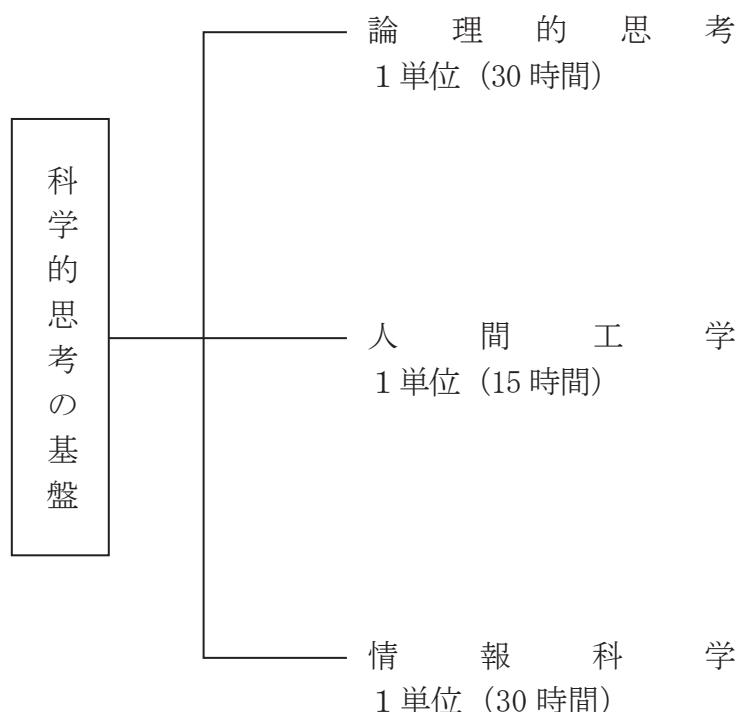
教科外活動を通して看護学生としての自覚及び協調性を養い、豊かな人間性を育む

項目	学年			ねらい
	1年次	2年次	3年次	
入学式	2			看護学生としての自覚と誇りを持ち これからの中学校生活に向けて決意を 新たにする
		2	2	先輩としての自覚と誇りを持ち新入 生の歓迎と後輩指導の必要性を認識 する
新入生ガイダンス	10			新たな中学校生活に適応するために、 学則や諸規程、教育課程について理 解する
新入生歓迎会	6	6	6	学生間の親睦と連帯感を深める
健康診断	2	2	2	各自、健康状態を把握し、健康の保 持増進を図る
防災訓練	2	2	2	防災訓練を通して防災に対する意識 を高め、学校生活の安全確保を図る
学校祭（準備を含む） 隔年開催	12	12	12	日頃の学習成果を広く地域の人々に 紹介し、交流の場とする また、学生間の交流と学生が主体的 に学習する機会とする
体育祭：隔年開催	6	6	6	スポーツを通して体力向上とチーム ワークを高める
地域交流活動	10	6		地域での活動を通じコミュニケーション能力を身につけ、今後の看護 実践に活かす
宣誓式		6		看護の道への誇りと責任を自覚し、生涯 を通して専門的な勉強をしていく決意と 看護師にふさわしい態度を身につける
	2		2	宣誓する学生を祝福するとともに看護学生として、職業に対する意識を高める
ケーススタディ発表	2	2		ケーススタディ発表に参加し自己の 看護観を深める
卒業式		2		自己の目的を再認識し、看護学生としての自覚を新たにする
			4	3年間の学校生活を締めくくり専門 職業人としての出発を自覚する
特別講演・講義	6	6	26	幅広い知識と教養を身につける 既習教科の理解を深める
H R	4	4	4	クラス運営を円滑にするため、意見 交換の場とする

基 础 分 野

科学的思考の基盤

科目体系



科 目 名	論理的思考
単 位 (時 間 数)	1 単位 (30 時間)
履 修 年 次	1 年次 前期
講 義 の 概 要	論理的思考の形式と法則を学び、文章の読解を通じて論理的思考の基礎を養う。
目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 論理的思考及びその言語的表現について理解する。 2. 思考の矛盾や妥当性を判断する能力を身につける。 3. 事実を正しく解釈し言語的に表現することを身につける。

講 義 内 容

回	单 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
1 ～ 3	1 論理学の概要	1) 論理学の原理と概念 (1) 人間の思考 (2) 論理的思考 (3) 論理的思考の方法 ①演繹的 ②帰納的 ③背理法 ④対偶 ⑤ド・モルガンの法則	講義	6	
4 ～ 8	2 論理的記述法	1) 論文の構成と組み立て 2) 論文の内容の基本 3) 論文の読み方と自己表現	講義 演習	10	
9 ～ 14	3 論理的思考と自己表現	1) 道筋を立てた表現の仕方 2) 論理的発言の基礎 3) 論理的に話すための用語	講義 演習	12	
15		テスト		2	

テ キ ス ト その都度資料提示

参 考 文 献 野矢茂樹著「新版論理トレーニング」産業図書

野矢茂樹著「論理トレーニング 101題」産業図書

望月和彦著「ディベートのすすめ」有斐閣

土田昭司著「社会調査のためのデータ分析入門」有斐閣

評 価 方 法 テスト、演習課題で評価する。

科	目	名	人間工学
单	位	(時 間 数)	1 单位 (15 時間)
履	修	年 次	1 年次 前期
講	義	の 概 要	<p>人間工学は、人間とそのまわりの環境をシステムとしてとらえ、これらの関係について解剖学、生理学、心理学などの領域から検討し、安全性、快適性、合理性を追求する学問である。本講義では人間を取り巻く生活環境、人間の動作の特徴を物理学的視点で学ぶ。</p> <p>自然環境である光・音・振動などの性質を理解することは、よりよい生活環境の調整につながる。又、光・音・振動などの性質は多くの医療機器に活用されている。その原理を理解することは、検査や治療上の注意事項と関連できるようになり、誤作動による医療事故の防止にもつながる。また、人体の運動力学を学び、効果的なケアにつながる。</p>
目	標	標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間工学的な考え方が理解できる。 2. 人間を取り巻く環境や日常生活動作が物理学とどのように結びついているか理解する。 3. 人体の運動力学の基本を理解する。

講 義 内 容

回	单 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
1	1 人間工学とは	1) 人間工学とは 2) 人間工学の変遷 3) 看護に人間工学を活かす	講義	2	
2 3 4	2 人間を取り巻く生活環境と物理	1) 振動、音 (1) 音の性質と特徴 (2) 振動の人体への影響 (3) 音波と超音波 2) 光 (1) 明るさの測定 (2) 光と色、レンズ 3) 圧力 4) 電子と磁気 5) 原子と放射線	講義	6	
5 6 8	3 人間の形態的特徴と筋力的特徴	1) 力とつりあい 2) 動体力学 3) 姿勢と動作	講義	8	
9		テスト		1	

テ キ ス ト 平田雅子著：「完全版ベッドサイドを科学する」学研

参 考 文 献 系統看護学講座 基礎 物理学：医学書院

評 価 方 法 テスト

科 目 名	情報科学
単 位 (時 間 数)	1 単位 (30 時間)
履 修 年 次	2年次 前期
講 義 の 概 要	<p>看護「情報」と「コミュニケーション」の専門職である看護師にとつて情報通信技術はその専門性を發揮するために必要不可欠なものである。看護師は患者の情報を安全に活用し、情報をもとに関わりを持つ仕事であるため、講義では情報とは何か看護に関連づけて学ぶ内容とする。また、看護の専門性を発揮するための看護研究に必要なデータ収集や統計的手法も学ぶ。</p>
目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報科学の基礎を学び、人と情報社会との関係・看護との関連について理解する。 2. 情報の収集・蓄積・分析の能力を身につけ、情報の整理と活用の基礎を理解する。 3. 一般的な統計的概念、統計の方法について理解する。 4. 社会現象、衛生の動向を客観的に捉え、統計的客観的推定解釈ができる。 5. 看護研究に必要な統計的手法を理解する。

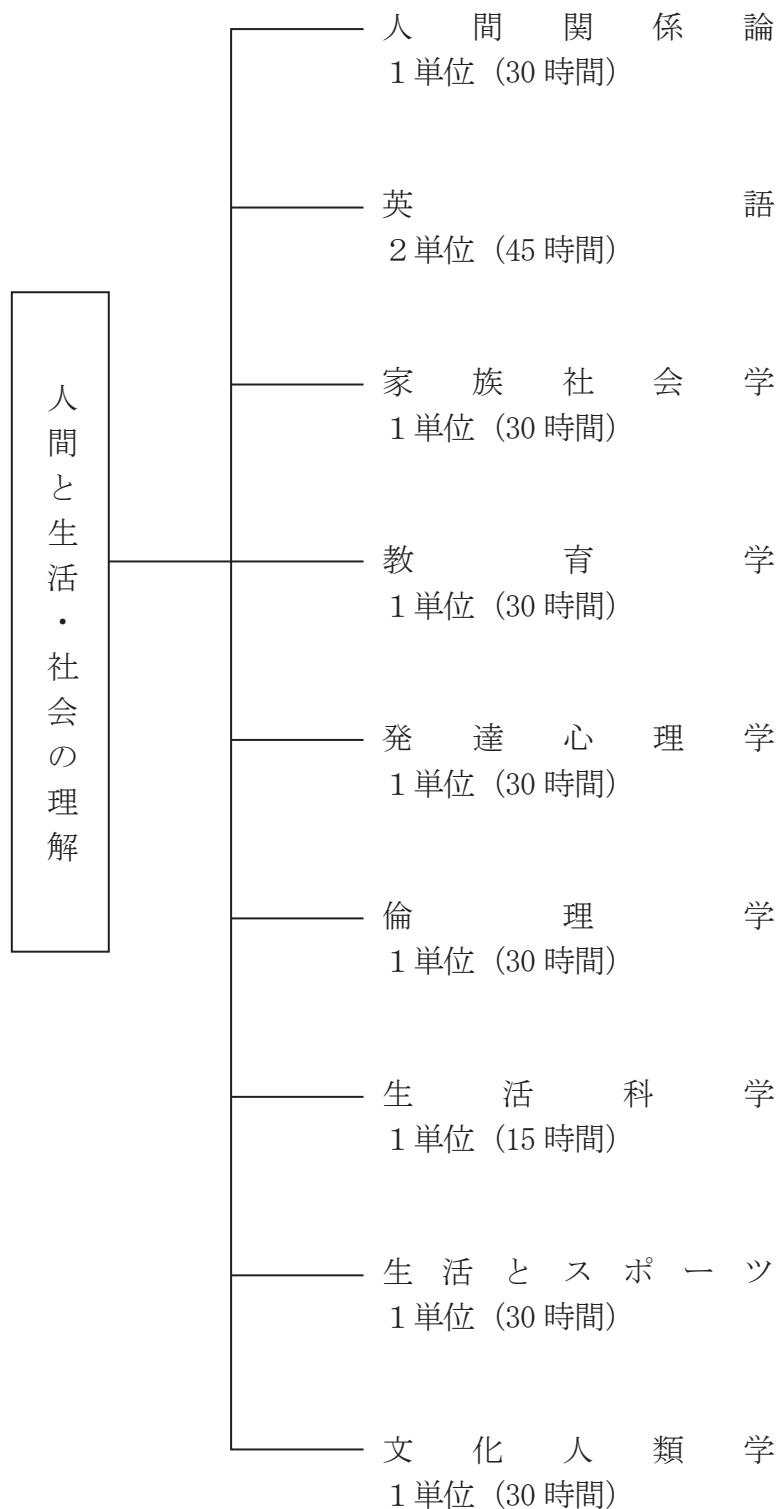
講 義 内 容

回	單 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
1 ～ 3	1 情 報 と 情 報 化 社会	1) 情報とは 2) 情報の定義と特徴 3) 情報化社会	講義	6	
4 ～ 13	2 保 健 医 療 に お け る 情 報	1) 保健医療と情報 2) 看護と情報 3) 医療における情報システム 4) 情報倫理と医療倫理 5) 患者の権利と情報 6) 個人情報の保護 7) コンピューターリテラシーとセキュリティ 8) 情報処理 • 既存の情報の収集方法 • 調査によるデータ収集方法 • 図書室で文献検索	講義	20	
14 15	3 情 報 の 発 表 と コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン	1) 最終研究発表 プレゼンテーション	演習	4	

テ キ ス ト	系 統 看 护 学 講 座 別 卷 看 护 情 報 学 : 医 学 書 院
参 考 文 献	情 報 科 学 : ヌ ーベル ヒ ロ カ ワ
	國 民 衛 生 の 動 向
評 價 方 法	演習課題で評価する

人間と生活・社会の理解

科目体系



科 目 名	人間関係論
単 位 (時 間 数)	1 単位 (30 時間)
履 修 年 次	1 年次 前期
講 義 の 概 要	人間関係の意義を理解し、人間関係発展のためのコミュニケーション技術とカウンセリングの基本・技法を学ぶ。
目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間関係の意義を理解する。 2. 人間関係発展のためのコミュニケーションの基本について理解する。 3. さまざまな生活場面での自己表現法としてアサーションスキルを身につける。

講 義 内 容

回	单 元	学 习 内 容	授業形態	時 間	備 考
1 ～ 4	1 人間関係の基本的意義	<ol style="list-style-type: none"> 1) 関係的存在としての人間 2) 社会化としての人間発達 3) 社会化と個性化 4) 社会的相互作用と社会的役割 <ol style="list-style-type: none"> (1) 人間関係における社会的相互作用とは (2) 社会的相互作用とその諸相 (3) 社会的役割とは (4) 役割関係における葛藤とその解決 5) 人間関係の諸相 <ol style="list-style-type: none"> (1) 職場の人間関係 (2) 地域における人間関係 	講義	2	
5 ～ 9	2 コミュニケーションとは	<ol style="list-style-type: none"> 1) コミュニケーションの基本概念 <ol style="list-style-type: none"> (1) マスコミュニケーション (2) パーソナルコミュニケーション 2) コミュニケーションの基本構造 <ol style="list-style-type: none"> (1) 送り手・受け手 (2) 希望・象徴・信号 3) 言語的・非言語的コミュニケーション <ol style="list-style-type: none"> (1) 言語表現と非言語表現 (2) 非言語表現の種類と意味 4) コミュニケーションの障害 <ol style="list-style-type: none"> (1) コミュニケーションの歪みに関する問題 <ol style="list-style-type: none"> ① 送り手の問題 ② 受け手の問題 ③ 人間関係と距離 (2) 援助的コミュニケーション <ol style="list-style-type: none"> (1) カウンセリングの基本・技法 (2) 面接技法 <ol style="list-style-type: none"> ① 初対面の面接時の対応 ② 傾聴する技法 	講義	6	
10	3 自己表現とアサーション	<ol style="list-style-type: none"> 1) アサーションの基礎知識 <ol style="list-style-type: none"> (1) アサーションとは 	講義	2	

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
		(2) アサーションの必要性 (3) 自己と他者との関係性			
11 ～ 14	4 アサーションの 実際	1)アサーションの実際 (1) 相手の立場を理解し共感しながら 自分の主張も上手に自己表現して いけるアサーティブな人間関係法 を学ぶ。 (2) 会話の場面を設定しロールプレイ する。 (3) ロールプレイした内容を記述し、 自己及び他者との関係性を振りか える。	演習 (グループ ワーク)	8	
15		テスト		2	

テ キ ス ト 系統看護学講座 基礎 人間関係論：医学書院

参 考 文 献 人を育む人間関係論：医学書院

評 価 方 法 テスト、演習課題で評価する。

科 目 名	英 語
単 位 (時 間 数)	2 単位 (45 時間)
履 修 年 次	1 年次 前期～後期
講 義 の 概 要	専門的学習へ導くための科目と捉え、看護ケアの場面での英会話や、看護英語の文献の読解を学ぶ。
目 標	<p>1. 日常の診療及び看護における基礎的な英会話を習得する。</p> <p>2. 医療・看護に関する外国文献・資料を読解する基礎的能力を身につける。</p>

講 義 内 容

回	单 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
1 ～ 7	1 基礎英語 2 外来における日常英会話	1) 外来における英会話 (1) 初診時の会話 (2) 外来における個人情報の収集 (3) 診療申込みの記入 (4) 症状の訴え方、人体名称 (5) 問診（症状のきき方） (6) 病歴聴取と疾患名 (7) 外来診察室での会話	講義	14	
8 ～ 11	3 医療関連長文	2) 医療関連長文 3) 海外での妊娠・出産・育児体験談 4) 看護長文（症例研究） 5) 海外の看護・医療事情&専門用語	講義	8	
12		テスト		1	
13 ～ 19	4 病棟における日常英会話	6) 病棟における英会話 (1) バイタルサイン測定 (2) 検査の説明 I (3) 検査の説明 II (4) 手術の説明と準備 (5) 術後処置 (6) 動作を伴うベッド周辺の会話 7) 実習室でのグループ発表	講義 演習 (グループ ワーク)	12 2	
20 ～ 23	5 文献の読解	8) 看護論文・文献解説 (1) 看護論文 I (2) 看護論文 II 9) グループ発表	講義 演習 (グループ ワーク)	6 2	
24		テスト		1	

テ キ ス ト Talking with Your Patients in English 成美堂

参 考 文 献

評 価 方 法 テスト、演習課題で評価する。

科	目	名	家族社会学
单	位	(時 間 数)	1 单位 (30 時間)
履	修	年 次	2 年次 前期
講	義	の 概 要	社会の構造や家族の形態・機能を学ぶ。患者や患者を取り巻く家族を理解し、家族を含めた看護を考える視点を学ぶ。
目	標		<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会的存在としての人間を理解する。 2. 社会の構造・機能や変化を通して、個人・家族・集団の関係を多角的に理解する。 3. 家族の機能について理解する。 4. よりよい社会の形成や生活の向上を考えて看護が展開できる能力を身につける。

講 義 内 容

回	單 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
1 ↳ 3	1 人間と社会の関係	1) 人間と社会の関係 (1) 社会とは (2) 人間と社会の関係 2) 社会の成り立ち (1) 個人と社会 (2) 集団と社会 3) 地域社会における生活とその変化 (1) 地域の変化と再形成 (2) 地域社会と生活周期 (3) 社会全体の都市化	講義	6	
4 5	2 家族の機能と役割	1) 家族とは 2) 家族の歴史的発達	講義	4	
6 7	〃	1) 家族の機能と役割	講義	4	
8 9	〃	1) 現代家族の諸問題 2) 沖縄の文化と家族	講義	4	
10 11	3 家族を理解するための理論	1) 家族発達理論	講義	4	
12 13	〃	1) 家族システム理論	講義	4	
14	〃	1) 家族ストレス対処論	講義	2	
15		テスト		2	

テ キ ス ト 講義でその都度資料提示

参 考 文 献 家族看護学：日本看護協会出版会
社会学 米林喜男：メヂカルフレンド社

評 価 方 法 テスト

科 目 名	教育学
単 位 (時 間 数)	1 単位 (30 時間)
履 修 年 次	1 年次 前期
講 義 の 概 要	人間にとての教育の意義を理解し、家庭・社会・学校における教育の特徴を学ぶ。 教育の原理・方法・評価方法、現代教育の諸問題を学び、健康教育や保健教育を具体的に提供する能力を養う。
目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育の原理を基盤として、人間形成における教育の意義と機能について理解する。 2. 教育の目的、方法、学習指導の基礎的知識を理解する。 3. 教育的機能の意義を理解し、看護における指導の基礎的技術を身につける。

講 義 内 容

回	單 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
1	1 人間にとての教育の意味	1) 人間の成長と教育 (1) 教育の意義 (2) 教育の機能	講義	2	
2 3 4	2 家族・社会の教育	1) 家庭教育 2) 生涯教育と社会教育 3) 学校教育制度	講義	6	
5	3 現代教育の諸問題	1) 問題とその背景 (要因) (1) 問題解決に対する取り組み	講義	2	
6 7	4 教育の目的と方法	1) 教育目的と目標 2) 教育の方法の原則 3) 学習指導 (1) 学習指導の意義・目標 (2) 教育内容と教材 (3) 学習指導の原理 4) 学習指導の形態 (1) 個別指導 (2) 集団指導 5) 指導技術とは	講義	4	
8	5 教育評価	1) 教育評価の意義と目的 2) 教育評価の方法	講義	2	
9 10	6 指導技術	1) 看護の教育機能 (1) 看護における指導教育とは (2) 指導技術の基本 (3) 指導技術のプロセス	講義	4	
11 15	7 指導案作成	1) 看護における指導場面での指導案作成 (1) 対象 : 幼児の集団 青年期の集団 壮年期の集団 (2) 身近な健康問題を捉えてグループワークで所定の用紙に指導案を作成し、提出する。 例 : 虫歯の予防について	演習 (グループワーク)	10	・担当講師と専任教諭のチームティングとする。

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
		たばこの害について 肥満について			

テ キ ス ト

参 考 文 献 発達と学習の心理：学文社
人間と教育：日本看護協会出版会
評 價 方 法 演習課題で評価する。

科 目 名	発達心理学
単 位 (時 間 数)	1 単位 (30 時間)
履 修 年 次	1年次 前期
講 義 の 概 要	看護の対象である人間の発達課題、心理・社会的危機について理解し看護実践における対象理解について学ぶ。
目 標	人間の発達課題、心理・社会的危機について理解する。

講 義 内 容

回	单 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
1 ↓ 3	1 人間の発達	1) 発達とは (1) 上昇的变化と下降的变化 2) ライフサイクルからみた人間の発達 (1) ライフサイクルとは (2) ライフサイクルと人間の発達 (3) 人間の発達の特殊性 3) 代表的な発達理論 (1) ピアジェの発達理論 (2) エクリソンの発達理論	講義	6	
4 5	2 発達段階と発達課題	1) 発達段階 (1) 発達段階の意義 (2) 発達段階の種類 (3) 発達段階の現在	講義	4	
6	3 乳児期の発達	1) 発達課題 (1) 社会的愛着の発達 (2) 対象の永続性 (3) 感覚運動的知能と原始的因果関係 (4) 運動機能の成熟 2) 心理・社会的危機 (1) 信頼対不信	講義	2	
7	4 幼児初期の発達	1) 発達課題 (1) セルフコントロール (2) 認知と言葉の発達 (3) 空想と遊び (4) 移動能力の完成 2) 心理・社会的危機 (1) 自律対恥・疑惑	講義	2	
8	5 前期の発達	1) 発達課題 (1) 性役割同一視 (2) 初期の道徳性発達 (3) 具体的操作 (4) 集団遊び 2) 心理・社会的危機 (1) 積極性対罪悪感	講義	2	
9	6 学童中期の発達	1) 発達課題 (1) 社会的協力：同性仲間集団 (2) 自己評価 (3) 技能の学習	講義	2	

回	単元	学習内容	授業形態	時間	備考
		(4) チームプレイ 2) 心理・社会的危機 (1) 勉強対劣等感			
10	7 青年前期の発達	1) 発達課題 (1) 身体的成熟 (2) 形式的操作 (3) 仲間集団における成長性 (4) 異性関係 2) 心理・社会的危機 (1) 集団同一性対疎外	講義	2	
11	8 青年後期の発達	1) 発達課題 (1) 両親からの自律 (2) 性役割同一性 (3) 道徳性の内在化 (4) 職業選択 2) 心理・社会的危機 (1) 個人的同一性対役割拡散	講義	2	
12	9 成人前期の発達	1) 発達課題 (1) 結婚 (2) 出産 (3) 仕事 (4) ライフ・スタイル 2) 心理・社会的危機 (1) 親密性対孤立	講義	2	
13	10 成人期の発達	1) 発達課題 (1) 家庭の経営 (2) 育児 (3) 職業の管理 2) 心理・社会的危機 (1) 生殖性対停滞	講義	2	
14	11 老年期の発達	1) 発達課題 (1) 新しい役割と活動のエネルギーの再方向づけ (2) 自分の人生の受容 (3) 死に対する見方の発達 2) 心理・社会的危機 (1) 統合対絶望	講義	4	
15					

テキスト
参考文献

発達支援のための生涯発達心理学：前原武子：ナカニシヤ出版

発達心理学の基礎 平山論、鈴木隆男編著：ミネルヴァ書房

生涯発達心理学 バーバラ M・ニューマン、フィリップ R・ニューマン著：
福富謙・伊藤恭子訳：川島書店

評価方法

演習課題で評価する。

科 目 名	倫理学
単 位 (時 間 数)	1 単位 (30 時間)
履 修 年 次	1 年次 前期
講 義 の 概 要	人間とは何か、人間の存在、生命の尊重、人間らしい生き方などを考えることにより、ケアする側の倫理観を養い、自己および他者を尊重することの意味を学ぶ。医療にかかわる者としての生命尊重や職業に基づく行動の基礎を学ぶ。
目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ものの見方、考え方の基礎的知識を理解し、人間としてのあり方、生き方について考える。 2. 物事の善悪、道徳、価値について理解し、行動欲求の規範となるものへの理解を深め、相手を尊重し、倫理に基づく行動の基礎を身につける。

講 義 内 容

回	单 元	学 习 内 容	授業形態	時間	備考
1 ～ 3	1 倫理とは何か	イントロダクション（全体的説明） 1) 倫理とは 2) 規範とは 3) 道徳とは	講義	6	
4	2 人間の行動と倫理	1) 人間の存在の意味 2) 人間にとての倫理の意味	講義	2	
5 ～ 6	3 倫理学の諸相	1) アリストテレス（善） 2) ベンサム（功利主義） 3) カント（人間尊重の精神） 4) 儒教の倫理観 （招魂再生と孝の理論） 5) 仏教の倫理観 （諸行無常と諸法実相） 6) 日本における倫理観 （祖先崇拜を中心に）	講義	4	
7 ～ 8	4 現代における倫理的問題（生命倫理とケア論を中心）	1) 生命倫理の定義と争点 人工妊娠中絶・安楽死と尊厳死・脳死と臓器移植	講義	4	
9 ～ 14	5 現代生活における倫理的課題	1) ケア論 ケア論の成り立ち・定義・重要性 主なケアの定義・種類・役割と重要性 (1)～緩和ケア・ホスピスケア・ターミナルケア～ 主なケアの定義・種類・役割と重要性	講義	12	

講義内容

回	単元	学習内容	授業形態	時間	備考
		2)スピリチュアルケア スピリチュアルケアの歴史的成り立ちと定義・スピリチュアルパイントスピリチュアルケア スピリチュアリティと文化的影響・スピリチュアルと宗教的関係 ～宗教的スピリチュアルと非宗教的スピリチュアル～			
15		テスト		2	

テキスト

参考文献 人間の学としての倫理学：岩波新書 倫理学：世界思想社
看護倫理学：ヌーベルヒロカワ

評価方法 テスト

科	目	名	生活科学
单	位	(時 間 数)	1 单位 (15 時間)
履	修	年 次	1 年次 前期
講	義	の 概 要	生活環境と健康の関連について学び、自分自身の生活を健康の視点から思考する意義について学ぶ。
目	標		人間の生活とは何か、生活を構成する要素の関連性について理解し、生活を営む側面から人間を理解する。

講 義 内 容

回	单 元 名	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
1 ↓ 3	1 生活とは 2 人間と食生活	1) 生活とは何か (1) 人間の生活 (2) 生活の構成 2) 人間と食生活 (1) 人が生活の中で食べることの意味 3) 健康を保つための食生活 (1) 発達段階に応じた食生活と健康	講義	6	
4 5	3 人間と衣生活	1) 人が生活の中で衣服を着ることの意味 2) 健康と衣服 (1) 衣服による気候調整 (2) 衣服による健康への影響 3) 社会と衣服 (1) 服装によるコミュニケーション (2) 服装と自己の形成 (3) 服装と社会的役割	講義	4	
6 ↓ 8	4 人間と住生活	1) 人間と住生活 (1) 人間の生活と住居 2) 生活行動と住環境 3) 健康と住環境	講義	6	
9		テスト		1	

テ キ ス ト その都度資料提示

参 考 文 献 私たちの生活科学 中根芳一 他：理工学社

生活科学 山本直成 他：理工学社

生活科学概論 佐々木隆 他：同文書院

評 価 方 法 テスト

科	目	名	生活とスポーツ
単	位	(時 間 数)	1 単位 (30 時間)
履	修	年 次	1 年次 後期
講	義	の 概 要	心と体のバランスは健康を考える上で重要である。運動は、心のバランスを保つ上でも必要である。また、運動による筋力アップは、転倒予防、生活習慣病の予防にもつながる。生活の中でとりいれられる運動を実践することは、自らの健康維持にも役立ち、看護を実践する上での指標となる。生活の中での運動に焦点を当て、学習する。
目	標		<ol style="list-style-type: none"> 1. スポーツの持つ健康への意義と実践を交えながら理解する。 2. 健康な生活を送るうえで必要な身体運動のメカニズムについて理解を深める。 3. 運動習慣を身につける。

講 義 内 容

回	单 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
1 2	1 健康と運動	1) 運動の目的 2) 健康管理と運動 3) 発達段階・性別・経験にあわせた運動の必要性	講義	4	
3	2 運動の種類と効果	1) 有酸素運動 2) 柔軟性と障害予防 3) ダイエットとシェイプアップ	講義	2	
4 5	3 体力測定とその評価	1) 自己の体力測定とその評価	実技	4	
6 14	4 実技	1) バレーボール 2) バドミントン・(卓球) 3) 健康体操	実技	18	
15		テスト		2	

テ キ ス ト

参 考 文 献

評 価 方 法 テスト、実技で評価する。

科 目 名	文化人類学
単 位 (時 間 数)	1 単位 (30 時間)
履 修 年 次	2年次 後期
講 義 の 概 要	さまざまな民族の文化や社会を知ることによって、自らの文化や社会、さらには人間について学ぶ。異文化理解の枠組み、制度化された人間関係、儀礼や信仰のありようを学ぶ。
目 標	さまざまな民族の社会・文化を学び、自らの文化を考え、自己と他者の理解を深める。

講 義 内 容

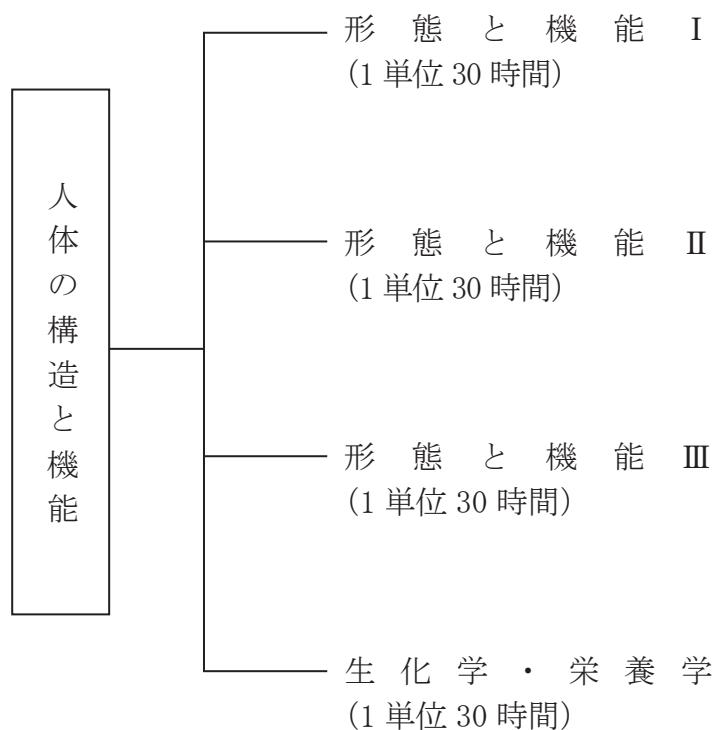
回	單 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
1	1 人間と文化	1) 文化人類学の目的と方法 2) 文化とは何か (1) 自文化と異文化 (2) 文化の概念	講義	4	
2					
3	2 文化人類学の流れとフィールドワーク	1) 文化人類学の流れと異文化理解 2) フィールドワーク	講義	4	
4					
5	3 人と人とのつながり	1) 人と人とのつながり (1) 親と子・家族とは (2) 親族関係と親族の組織化	講義	6	
6					
7					
8	4 人生と時間	1) 儀礼の諸相 (1) 聖と俗 (2) 通過儀礼	講義	6	
9					
10					
11	5 信仰と世界観	1) 宗教の専門家たち 2) シャーマニズムの世界 3) 沖縄の文化と生活 (1) 信仰・儀礼 (2) 健康観 (3) 死生観	講義	8	
12					
13					
14					
15		テスト		2	

- テ キ ス ト トートーメーの民俗学講座－沖縄の門中と位牌祭祀、波平エリ子：
ボーダーインク
- 参 考 文 献 系統看護学講座 基礎 文化人類学：医学書院
- 評 價 方 法 テスト

専門基礎分野

人体の構造と機能

科目体系



科	目	名	形態と機能 I
単	位	(時 間 数)	1 単位 (30 時間)
履	修	年 次	1 年次 前期
講	義	の 概 要	疾病治療学との関連で、基本的な解剖学的用語や身体の構成を学び、人体を全体的に捉える内容を含めた。環境との調節を図りながら生活をするヒトの恒常性維持に関する形態と機能として体液の分類・分布・量・電解質と捉える。恒常性を維持するための物質の流通に関する形態と機能として、流通の媒体を血液、流通路（循環器）として血管・リンパ管、流通の原動力として心臓を捉え、流通路（循環器）や息をする（呼吸器）に関する形態と機能を理解する内容を学ぶ。
目	標		<ol style="list-style-type: none"> 1. 個体としてのヒトの構成を理解する。 2. 生活行動である「息をする」に関するヒトの形態と機能を理解する。 3. 恒常性を維持するための物質の流通（流通路）に関する形態と機能を理解する。

講 義 内 容

回	單 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
1 ↓ 4	1. 身体の構造と成長発達	<ol style="list-style-type: none"> 1) 身体の構造と成長発達 <ol style="list-style-type: none"> (1) 生命とは (2) 人体の特徴 <ol style="list-style-type: none"> ① 直立 2 足歩行 ② 脳の発達 (3) ヒトの形成 <ol style="list-style-type: none"> ① 個体発生：受精卵から人体へ ② 系統発生：進化の過程 ③ 生後発生：生理的早産、発育、老化 2) 人体の大要と解剖学用語 <ol style="list-style-type: none"> (1) 解剖学的正常性と方向用語 (2) 面と断面 (3) 部位を示す用語 (4) 人体内部の腔所 3) 細胞と組織 <ol style="list-style-type: none"> (1) 細胞：増殖、体細胞と生殖細胞 (2) 組織 <ol style="list-style-type: none"> ① 上皮組織：上皮、腺 ② 支持組織：結合組織、骨 ③ 筋組織：骨格筋、平滑筋、心筋 ④ 神経組織 (3) 器官 4) 内部環境の恒常性 <ol style="list-style-type: none"> (1) ホメオスタシスとは (2) 体液の分布と量：間質液、リンパ・体液 (3) 体液の電解質 (4) 間質とリンパの機能 (5) 体温 	講義	8	

回	単元	学習内容	授業形態	時間	備考
5 ～ 9	2. 息をする	1) ヒトの生活行動：「息をする」 (1) 息を吸う・息を吐く ① 呼吸器の構造 ア) 気道：鼻腔・咽頭・喉頭・気管・気管支 イ) 肺 ウ) 胸膜・縦隔 ② 呼吸運動 ③ 呼吸運動の神経支配 ④ 肺気量 (2) ガス交換 ① 外呼吸と内呼吸 ② 血液によるガスの運搬	講義	10	
10 ～ 14	3. 恒常性を維持するための物質の流通	1) 恒常性を維持するための物質の流通 (1) 流通路 ① 血管 ア) 大(体)循環と小(肺)循環 イ) 血管の構造と種類 ② リンパ管とリンパ節 (2) 流通の原動力 ① 心臓の構造 ② 刺激伝導系と調節 ③ 血圧と影響因子	講義	10	
15		テスト		2	

テキスト 看護形態機能学 生活行動からみるからだ 菱沼典子：日本看護協会出版会
ナーシンググラフィカ1 解剖生理学：メディカ出版
系統看護学講座 専門基礎 人体の構造と機能[1] 人体の構造と機能1：医学書院

参考文献

評価方法 テスト

科	目	名	形態と機能Ⅱ
单	位	(時 間 数)	1 单位 (30 時間)
履	修	年 次	1 年次 前期
講	義	の 概 要	「形態と機能Ⅱ」では、ヒトの生活行動に焦点をあてた形態と機能のうち「食べる」「トイレに行く=排泄」の2つの生活行動の内容を学ぶ内容とした。 また、恒常性維持のための調節機構に関する形態と機能として、神経性調節：受容器、中枢神経、末梢神経、液性調節：ホルモンとして捉える。そのうち、液性調節：ホルモンの形態と機能を学ぶ内容とした。
目	標	1.	恒常性を維持するための物質の流通（流通の媒体）に関する形態と機能を理解する。 2. 生活行動である「食べる」に関するヒトの形態と機能を理解する。 3. 生活行動である「トイレに行く」に関するヒトの形態と機能を理解する。 4. 内部環境の恒常性維持に関する形態と機能を理解する。

講 義 内 容

回	單 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
1 ↓ 3	1. 恒常性を維持するための物質の流通	1) 恒常性を維持するための物質の流通 (2) 流通の媒体：血液 ① 血液の成分 ② 血球の生成と破壊 ③ 血液の機能 ア) 血液恒常性の維持 ・膠質浸透圧の維持 ・血漿phの調整(酸・塩基平衡) イ) 物質の運搬 ・ホルモン、栄養素等の運搬 ・酸素・二酸化炭素の運搬 ・老廃物の運搬、熱の運搬 ウ) 進入物に対する防衛 ・食作用、免疫、非特異的防御機構 ・特異的防御機構 エ) 血液凝固：止血	講義	6	
4 ↓ 8	2. 食べる	1) ヒトの生活行動：「食べる」 (1) 食欲・姿勢 ① 空腹感、満腹感 ② 渴き (2) 食行動 ① 食物を口まで運ぶ ② 食物の性質の判断 ③ 口の準備 (3) 咀嚼し味わう (4) 飲み込む：嚥下 (5) 消化と吸収 ① 消化管の構造と機能 食道・胃・十二指腸・小腸・大腸・栄養素の消化と吸収	講義	10	

回	単元	学習内容	授業形態	時間	備考
		②膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能 ③消化液の作用 ④消化液分泌の調節 ⑤吸収後の養分			
9 ～ 11	3. トイレに行く	1) ヒトの生活行動：「トイレに行く =排泄」 (1) 排尿 ① 尿意 ② 排尿 ア) 排尿路の構造 イ) 尿の貯蔵と排尿 ③ 尿の生成 ア) 腎臓の構造と機能 イ) 尿生成のメカニズム：濾過・再吸収・分泌 ④ 体液量調節の機構 ア) レニンーアンギオテンシンーアルドステロン系 イ) 抗利尿ホルモン (2) 排便 ① 結腸・直腸・肛門の構造と排便のメカニズム ア) 便意 イ) 排便	講義	6	
12 ～ 14	4. 恒常性維持のための調節機構	1) 恒常性維持のための調節機構 (1) 液性調節 (内分泌系) ① 主な内分泌器官 ② ホルモンの作用機序 ③ ホルモン分泌の調節 ④ 恒常性維持のためのホルモンの働き ア) 体液量の調節 イ) 代謝速度の調節 ウ) 蛋白合成の促進 エ) 血糖の調節 オ) 血中ナトリウム、血中カリウムの調節 カ) 血中カルシウムの調節 (2) ストレスと恒常性の維持	講義	6	
15		テスト		2	

テキスト 看護形態機能学 生活行動からみるからだ 菱沼典子：日本看護協会出版会

ナーシンググラフィカ1 解剖生理学：メディカ出版

系統看護学講座 専門基礎 人体の構造と機能[1] 人体の構造と機能1：医学書院

参考文献

評価方法 テスト

科	目	名	形態と機能III
単	位	(時 間 数)	1 単位 (30 時間)
履	修	年 次	1 年次 後期
講	義	の 概 要	<p>「形態と機能III」では、恒常性維持のための調節機構に関する形態と機能として、神経性調節：受容器、中枢神経、末梢神経を学ぶ内容とした。また、ヒトの生活行動に焦点をあてた「動く」やヒトとしての社会生活を営むうえで欠かせない感覚：「話す・聞く・見る」、「お風呂に入る=皮膚」の形態と機能を学ぶ内容とした。</p> <p>「子供を生む=生殖」という生活行動に関する形態と機能に人体の発生をあわせて学ぶ内容とした。</p>
目	標		<ol style="list-style-type: none"> 1. 生活行動である「動く」に関するヒトの形態と機能を理解する。 2. ヒトの社会生活を営むうえで欠かせない感覚：「話す・聞く」「お風呂に入る」「子どもを生む」に関するヒトの形態と機能を理解する。 3. 「子供を生む=生殖」、ヒトの発生に関する形態と機能を理解する。

講 義 内 容

回	單 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
1 ↓ 4	1. 恒常性維持のための調節機構	1) 恒常性維持のための調節機構 (1) 神経性調節 ① 受容器：情報を得る ア) 見る イ) 聞く ウ) 嗅ぐ エ) 触れる オ) 平衡覚 ② 中枢神経：認識を判断し記憶する ア) 脳：大脳・間脳・脳幹(中脳・橋・延髄)・小脳 イ) 脊髄 ③ 末梢神経：情報を伝える ア) 脳神経と脊髄神経 イ) 自律神経と体性神経 ④ どのように情報を伝えるのか 1) ヒトの生活行動：「眠る」 (1)からだのリズム ① サーカディアンリズム ② 基礎的な休息－活動周期 (2) 睡眠の生理 (3) 眠り ① ノンレム睡眠 ② レム睡眠 ③ 睡眠パターン	講義	8	
5 ↓ 6	2. 眠る				
5 ↓ 6	3. 話す・聞く・見る・触れて感じる	1) ヒトの生活行動：「話す・聞く」 (1) 声を出す ① 大脳の言語野 ② 発声に関わる器官 (2) 聞く ① 耳の構造	講義	4	

回	単元	学習内容	授業形態	時間	備考
	4. お風呂に入る	② 聴覚と平衡覚 (3) 言葉 (4) ヒトの生活行動：「見る」 ① 受容器：情報を得る：視神経 ② 目の構造 1) ヒトの生活行動：「お風呂に入る」 (1) 堀を落とす (2) 皮膚と付属物 ① 表皮：ケラチノサイト ② 汗腺・脂腺・毛 (3) 皮膚・粘膜の血管と神経 (4) 温まる			
7 11	5. 動く	1) ヒトの生活行動：「動く」 (1) 姿勢 ① 体位と構え ② 赤ちゃんが歩くまでの過程 ③ 立位の保持 (2) 神経から筋への指令と筋の収縮 (3) 意図的でない運動：反射 (4) 意図的な運動：随意運動 (5) 骨格・骨格筋・関節 ① 骨格 ② 関節 ③ 骨格筋 ④ 筋の収縮 (6) 日常生活での基本的動き ① 歩く ② つまむ ③ 表情	講義	10	
12 14	6. 子どもを生む	1) ヒトの生活行動：「子どもを生む」 (1) 男と女 ① 遺伝による男と女 ② ホルモンによる男と女 (2) 遺伝子組み換え (3) 性交と受精 ① 女性生殖器と生殖機能 ア) 女性生殖器の構造 イ) 生殖のための機能 ウ) 乳房の構造 ② 男性生殖器と生殖機能 ア) 男性生殖器の構造 イ) 生殖のための機能 (4) 赤ちゃん ① 分化 ② 胎盤 (5) 性周期とホルモン (6) 出産	講義	6	
15		テスト		2	

テキスト 看護形態機能学 生活行動からみるからだ 菱沼典子：日本看護協会出版会
ナーシンググラフィカ1 解剖生理学：メディカ出版
系統看護学講座 専門基礎 人体の構造と機能〔1〕人体の構造と機能1：医学書院

参考文献

評価方法 テスト

科	目	名	生化学・栄養学
単	位	(時 間 数)	1 単位 (30時間)
履	修	年 次	1 年次 後期
講	義	の 概 要	人体を構成する化学物質の性状、その分布および代謝を理解する。 また、健康と食生活の関わりについて理解し、栄養学の基礎を学ぶ。
目	標		1. 代謝に関連する酵素の働きや3大栄養素の代謝のメカニズムを理解する。 2. 人間にとっての栄養の意義を理解し、発達段階に応じた食事の形態および健康障害時の食事療法の基本を理解する。

講 義 内 容

回	单 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
1 ↓ 2	1. 代謝と酵素	1) 代謝とは 2) 物質代謝とエネルギー 3) 酵素性質と分類 4) アイソザイム	講義	4	
3	2. 糖質代謝	1) 糖質の種類と機能 2) 糖質代謝の過程	講義	2	
4	3. 脂質代謝	1) 脂質の種類と機能 2) 脂質代謝の過程	講義	2	
5	4. たんぱく質代謝	1) たんぱく質の種類と機能 2) たんぱく質代謝の過程	講義	2	
6 7	5. 遺伝情報を担う物質	1) 核酸の種類、構造、機能 2) 遺伝子と染色体の構造	講義	4	
8	6. ビタミンとホルモン	1) ビタミンの種類と機能 2) ホルモンの種類と機能	講義	2	
9		テスト		1	
10 11	7. 健康と栄養	1) 栄養の意義 2) からだに必要な栄養 3) 食品中のエネルギー量 4) からだが必要とするエネルギー量 5) 食生活・厚生労働省の指針	講義	4	
12	8. 食品と食品群・栄養状態と評価	1) 日本食品成分表 2) 各種食品群の分類表と特徴 3) 栄養アセスメントの意義・目的 4) 身体計測・臨床検査	講義	2	
13 14	9. ライフサイクルにおける栄養と形態	1) 乳幼児期の栄養 2) 学童期の栄養 3) 思春期・青年期の栄養 4) 成人期の栄養 5) 妊娠・授乳期の栄養 6) 老年期の栄養	講義	4	・発達段階と食事の形態について学習する。
15 16	10. 療養生活と栄養	1) 病院食の分類 (1)一般食 (2)特別食 2) 検査のための食事 3) 疾病別食事療法 4) 栄養補給法	講義	4	
17		テスト		1	

テキスト 系統看護学講座 専門基礎 人体の構造と機能 [2] 生化学：
医学書院

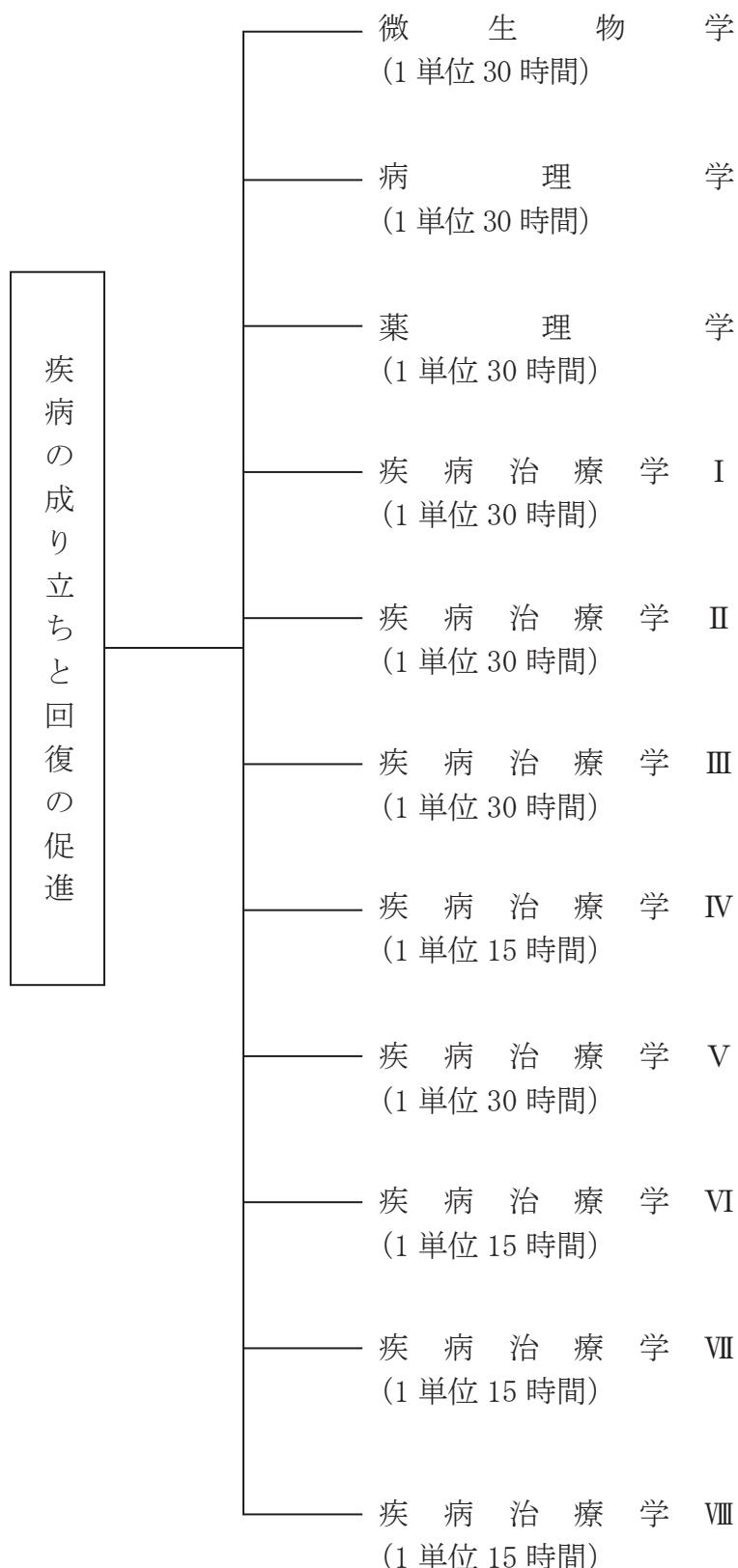
系統看護学講座 専門基礎 人体の構造と機能 [3] 栄養学：
医学書院

参考文献

評価方法 テスト

疾病の成り立ちと回復の促進

科目体系



科	目	名	微生物学
单	位	(時 間 数)	1 单位 (30 時間)
履	修	年 次	1 年次 前期
講	義	の 概 要	微生物学を学ぶことにより、微生物がどこにいて、どのようにしてヒトに感染し病気を起こすのか、それを治療し予防するにはどうしたらよいかなどを学ぶ。
目	標		健康を脅かす微生物の基礎知識を理解する。

講 義 内 容

回	單 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
1 2	1. 微生物の分布と人体	1) 微生物の分布と人体	講義	4	
3 5	2. 微生物の種類と特徴	1) 細菌 2) 真菌 3) ウィルス 4) 原虫	講義	6	
6 8	3. 感染経路と潜伏期間	1) 病原微生物の感染経路と潜伏期間	講義	6	
9 11	4. 化学療法と薬剤耐性	1) 病原微生物に対する化学療法と薬剤耐性	講義	6	
12 13	5. 予防処置と感染防御	1) 病原微生物に対する予防処置と感染防御	講義	4	
14	6. 病原体の検出法	1) 細菌学的検査法 2) ウィルス学的検査法 3) 真菌学的検査 4) 原虫学的検査	講義	2	
15		テスト		2	

テキスト 系統看護学講座 専門基礎 疾病のなりたちと回復の促進 [4] 微生物学：医学書院

参考文献

評価方法 テスト

科 目 名	病理学
単 位 (時 間 数)	1 単位 (30 時間)
履 修 年 次	1 年次 前期
講 義 の 概 要	<p>病理学は、病気の原因を追究し、病気になった患者の身体に生じている変化がどのようなものであるかを学ぶ。患者の病気の診断・検診及び病気の予防について学ぶ。</p> <p>病理学を知ることは、日常行っている看護活動の根拠となりうる。また、疾病の発生傾向や発生要因などについても理解することは、予防的視点から看護に取り組むことにつながる。</p>
目 標	疾病の原因や身体に生じる変化・メカニズムを理解する。

講 義 内 容

回	單 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
1 2	1. 病気の原因	1) 病気の原因 (1) 内因 : 素因 遺伝・染色体異常 内分泌障害・免疫 (2) 外因 : 栄養障害 物理的・化学的 生物学的因素 (3) 医原病と公害病 2) 疾病の分類	講義	4	
3 4	2. 循環障害	1) 充血とうつ血 2) 側副循環 (1) 側副循環による障害 ① 門脈圧亢進症における側副循環 3) 出血 (1) 破綻性出血と濾出性出血 (2) 出血性素因の原因 4) 血液凝固と血栓症 (1) 止血の機序 (2) 血栓形成の機序 5) 虚血と梗塞 6) 塞栓症 7) 体液の調節障害 (1) 浮腫 (2) 脱水 (3) 電解質異常 8) ショック (1) ショックの原因・病態 (2) ショックの分類 9) 高血圧 (1) 二三次性高血圧症の分類 (2) 高血圧の合併症	講義	4	
5	3. 炎症	1) 炎症とは	講義	4	

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
6		(1)炎症の原因 (2)炎症の症状 2) 炎症基本病変 3) 急性炎症のメカニズム 4) 急性炎症の種類 5) 炎症の経過に影響する因子 6) 慢性炎症と肉芽腫性病変 7) 炎症の全身への影響			
7 8	4. 代謝障害	1) 細胞の損傷と適応 2) 物質沈着 3) 脂質代謝障害と疾患 4) たんぱく質代謝障害と疾患 5) 糖質代謝障害と疾患	講義	4	
9 10	5. 免疫とアレルギー	1) 生体における免疫系の役割 2) アレルギーとは 3) アレルギーの分類 4) 自己免疫疾患 (1)自己抗体 (2)自己免疫疾患の分類 5) 免疫不全症 (1)免疫不全の原因別分類 6) 移植と免疫 (1)拒絶反応 (2)組織適合抗原	講義	4	
11 13	6. 腫瘍	1) 腫瘍とは 2) 腫瘍の分類 (1)悪性度による分類 (2)組織発生による分類 3) 腫瘍の発生病理 (1)腫瘍の発生機序 (2)腫瘍の発生原因 4) 悪性腫瘍の転移と進行度 (1)腫瘍の広がり (2)がんの進行度 (3)腫瘍が宿主に及ぼす影響 5) 腫瘍の診断 (1)細胞診検査と組織診検査 (2)腫瘍マーカー	講義	6	
14	7. 先天異常	1) 先天異常とは (1)先天異常の原因と分類 ①個体発生と先天異常 ア)遺伝障害 イ)胎児障害 2) 遺伝子異常と疾患 3) 遺伝性疾患 (1)遺伝性疾患とメンデルの法則 (2)伴性(劣性)遺伝病の遺伝様式	講義	2	

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
	8. 老化と死	4) 染色体異常による疾患 5) 胎児の障害 (1) ヒト胚形成における催奇形物質に対する感受性 (2) 主な胎児障害の原因 1) 細胞の老化と個体の変化 2) 個体の死	講義	2	
15		テスト		2	

テ キ ス ト 系統看護学講座 専門基礎 疾病のなりたちと回復の促進 [1]

病理学：医学書院

系統看護学講座 専門基礎 疾病のなりたちと回復の促進 [2]

病態生理学：医学書院

参 考 文 献

評 價 方 法 テスト

科	目	名	薬理学		
単	位	(時 間 数)	1 単位 (30 時間)		
履	修	年 次	1 年次 後期		
講	義	の 概 要	薬の基本的性質を理解し、患者に使われている薬物についての副作用を理解する。また、患者の病気の回復促進につながる援助の根拠を学ぶ。		
目	標	1. 薬理学の基礎知識を理解する。 2. 健康障害に対する薬物療法の作用機序、人体への影響について理解する。			

講 義 内 容

回	單 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
1 ↓ 3	1. 薬理学の基礎知識	1) 薬物の分類 2) 薬物の吸収と代謝 3) 薬物の効果と有害作用	講義	6	
4 ↓ 6	2. 治療薬とその特徴	1) 主な治療薬の種類と特徴 (1) 抗感染症薬 (2) 抗がん薬 (3) 免疫治療薬	講義	6	
7 8	3. 治療薬とその特徴	1) 主な治療薬の種類と特徴 (1) 抗アレルギー薬・抗炎症薬 (2) 末梢神経活動に作用する薬物 (3) 中枢神経作用薬	講義	4	
9 ↓ 11	4. 治療薬とその特徴	1) 主な治療薬の種類と特徴 (1) 循環器系に作用する薬物 (2) 呼吸器に作用する薬物 (3) 消化器に作用する薬物	講義	6	
12 ↓ 14	5. 治療薬とその特徴	1) 主な治療薬の種類と特徴 (1) 生殖器系に作用する薬物 (2) 物質代謝に作用する薬物 (3) 皮膚科用薬・眼科用薬 (4) 救急時の使用薬物	講義	6	
15	6. 薬物の取り扱い・消毒薬の種類と特徴	1) 薬物の取扱いと保管方法 2) 消毒薬の種類と特徴	講義	2	
16		テスト		2	

テ キ ス ト 系統看護学講座 専門基礎 疾病のなりたちと回復の促進 [2]

薬理学：医学書院

参 考 文 献

評 價 方 法 テスト

科	目	名	疾病治療学 I (治療総論)
単	位	(時 間 数)	1 単位 (30 時間)
履	修	年 次	1 年次 後期
講	義	の 概 要	放射線療法、麻酔、ペインコントロール、外科的治療の基礎、臨床検査について学び、看護援助の基礎知識とする。
目	標		<ol style="list-style-type: none"> 1. 放射線による診断と治療について理解する。 2. さまざまな健康障害を治療するときに共通する麻酔とペインコントロール、外科的治療の基礎について理解する。 3. 臨床検査の基礎を理解する。

講 義 内 容

回	单 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
1 ～ 3	1. 放射線による 診断と治療	<p>1) 放射線とは</p> <p>(1) 放射線の医学利用</p> <p>① 放射線の診断への応用</p> <p>② 放射線の治療への応用</p> <p>2) 放射線診断</p> <p>(1) X線診断</p> <p>① マンモグラフィ</p> <p>② 消化管造影検査</p> <p>③ X線CT</p> <p>(2) MRI</p> <p>(3) 超音波診断</p> <p>(4) 核医学診断</p> <p>(5) サーモグラフィ</p> <p>3) 放射線治療</p> <p>(1) 放射線の人体への影響</p> <p>① 細胞に与える放射線の影響</p> <p>ア) 放射線感受性</p> <p>イ) 放射線量と細胞死</p> <p>② 正常細胞に対する放射線の影響</p> <p>ア) 正常組織の放射線感受性</p> <p>イ) 放射線による正常組織の障害</p> <p>ウ) 耐容線量</p> <p>(2) 悪性腫瘍と放射線療法</p> <p>① 悪性腫瘍の放射線感受性</p> <p>② 治療可能比</p> <p>③ 照射方法</p> <p>4) 放射線防護と管理</p> <p>(1) 放射線防護に関わる病院の義務と 医療従事者の権利・義務</p> <p>(2) 放射線防護の基本と健康管理</p> <p>① X線診断時の防護</p> <p>② 核医学診断時の防護</p> <p>③ 放射線治療時の防護</p>	講義	6	

回	単元	学習内容	授業形態	時間	備考
4 5	2. 麻酔	1) 麻酔の役割 2) 麻酔科による術前管理 3) 麻酔の種類と概要 (1) 全身麻酔 ① 前投薬と全身麻酔 ② 麻酔の導入 ③ 気道確保法 ④ 麻酔中麻酔後の合併症 ⑤ 術中の管理 ⑥ 全身麻酔からの覚醒 (2) 伝達麻酔の種類と特徴	講義	4	
6 7	3. ペインコントロール	1) 痛みのメカニズム (1) 痛みとは (2) 痛みの分類 ① 生体痛と内臓痛 ② 誘因による痛みの分類 ③ 急性痛と慢性痛 2) 疼痛の発生機序 3) 癌性疼痛の成り立ち 4) 癌性疼痛のコントロール (1) WHOによる癌性疼痛治療法 ① WHO 3段階治療ラダー ② WHO癌疼痛治療法の原則 ③ オピオイドについて (2) 癌性疼痛に対する神経ブロックの適応 (3) 硬膜外鎮痛について (4) 癌性疼痛に用いる基本薬	講義	4	
8 9 11	4. 外科的治療の基礎	1) 手術侵襲と生体反応 (1) 手術侵襲の意味 (2) 手術侵襲に対する生体反応 2) 手術後の疼痛管理 (1) 術後疼痛のメカニズム (2) 術後疼痛が生体に及ぼす影響 (3) 術後鎮痛法の適応と利点・欠点 3) 術後合併症 (1) 術後合併症の分類と予防 ① 手術操作そのものに起因する合併症 ② 手術侵襲に起因する合併症 ③ 術後管理に関連する合併症 4) 熱傷と治療 5) 創傷管理 (1) 創傷治癒過程 ① 治癒段階と創部の変化 ② 手術創部の合併症 (2) 創傷治癒に影響する因子 ① 全身的因子	講義	8	

回	単元	学習内容	授業形態	時間	備考
		② 局所的因子 ・浸潤 温度 感染 酸素 (3) 創部に対する消毒の功罪 (4) 創傷管理法 ① 創傷治癒を目的とするドレッシング法の適用 6) ドレナージの管理 (1) ドレナージの種類と目的 (2) ドレナージの合併症			
12 ‐ 13	5. 臨床検査の基礎	1) 臨床検査とその役割 (1) 診療における臨床検査の役割 (2) 臨床検査の種類 (3) 臨床検査の評価 2) 検体の採取と保存 (1) 化学検査 (2) 免疫・血清検査 (3) ホルモン検査 (4) 微生物検査 (5) 病理検査 (6) 生理機能検査	講義	4	
14 ‐ 15	6. 救急医療の概論と実際	1) 救急医療とは 2) 救急医療の現状 (1) 初期・2次・3次救急医療 (2) 救命救急センター (3) 広域救急医療情報 3) 救命救急士制度 4) 救急診断の重要性 (院内・院外) (1) 情報収集 (2) 診断の優先順位 (3) 診断の手順と判断 身体所見・病歴・検査所見 5) 救急医療の実際	講義	4	
16		テスト		2	

テキスト 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論：医学書院
 系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学：医学書院
 系統看護学講座 専門II 成人看護学 [12] 皮膚：医学書院
 系統看護学講座 別巻 臨床検査：医学書院
 救急医療：その都度資料提示

参考文献 臨床病態学 ヌーベルヒロカワ
 評価方法 テスト

科	目	名	疾病治療学II（呼吸器・感染症・循環器）
単	位	（時 間 数）	1単位(30時間)
履	修	年 次	1年次 後期
講	義	の 概 要	さまざまな臨床の分野での代表的な疾患の診断・治療など、看護を行う上で不可欠な基礎的な知識について学び、健康障害を抱える対象の看護の展開に有機的に結びつけられるよう学ぶ。
目	標		<ol style="list-style-type: none"> 1. 呼吸器系疾患の診断過程と治療について理解する。 2. 感染症の疾患の診断過程と治療について理解する。 3. 循環器系疾患の診断過程と治療について理解する。

講 義 内 容

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
1 ～ 3	1. 呼吸器系疾患 の診断過程と 治療	1) 呼吸器系の病態生理 (1) 換気障害 (2) 扰散障害 (3) 換気一血流比不均衡 (4) 右一左短絡 2) 呼吸器系の症状と概要 (1) 呼吸困難 ① 自覚的呼吸困難感 • 人工呼吸時の呼吸困難感 ② 他覚的呼吸困難の症状 (2) 肺性脳症 ① ハイポキシア ② CO ₂ ナルコーシス 3) 肺気腫 (1) 概念・病因・病態生理・発生機序 (2) 診断過程 (3) 治療 ① 重症度別標準治療 • 在宅酸素療法 4) 急性呼吸促迫症候群 (1) 概念・病因・病態生理・発生機序 (2) 診断過程 (3) 治療 ① 人工呼吸療法 ア) 間欠的陽圧呼吸 イ) 持続陽圧呼吸 ウ) PEEP ② 人工呼吸療法の合併症	講義	6	
4 ～ 5	1) 肺癌 (1) 外科的治療 (1) 手術時の体位と開胸法 (2) 開胸アプローチ (3) 肺切除に伴う侵襲 (2) 胸腔ドレナージ		講義	4	

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
		① 胸腔ドレナージの概要 ② 胸腔ドレーンの管理 ア) ウォーターシール方式 イ) ボトル方式 ③ 抜管の基準 2) 気胸 (1) 診断過程 (2) 治療			
6 ↓ 9	2. 感染症の診断過程と治療	1) 感染症とは (1) 感染のメカニズム 2) 生体防御と感染 (1) 非特異的防御機構 (2) 特異的防御機構 3) 感染症の診断 (1) 臨床における抗菌薬を選択するまでの基本的なアプローチ (2) 病原体の推定・決定 (3) 検体の採取・輸送 ① 検体採取時の留意点 ② 検体採取法と輸送 4) 感染症の治療 (1) 抗菌薬の選択に重要な指標 (2) 起炎病原体の推定、分離、同定 (3) 抗菌薬の薬動力学と体内動態 ① 抗菌薬の組織移行性 ② 薬剤の抗菌活性 ③ 抗菌薬投与法の設定 ア) 投与経路 イ) 投与間隔 ウ) 投与量 エ) 副作用、副現象 5) 主な疾患と治療 (1) 上気道感染症 ・かぜ症候群・インフルエンザ (2) 下気道感染症 ・肺炎・肺結核 (3) 心血管系感染症 ・感染性心内膜炎 (4) 消化管感染症 ・食中毒を主とした消化管感染症 (5) 皮膚軟部組織感染症	講義	8	
10 ↓ 13	3. 循環器系疾患の診断過程と治療	1) 動脈硬化症 (1) 概要・病態生理 2) 虚血性心疾患 (1) 狹心症 ① 概要・病因・病態生理・発生機序 ② 診断過程 ア) 心臓カテーテル検査 イ) 運動負荷心電図 (2) 心筋梗塞	講義	8	

回	単元	学習内容	授業形態	時間	備考
		① 概要・病因・病態生理・発生機序 ② 診断過程 ③ 急性心筋梗塞の経過と合併症 ア) 心筋の状態 イ) 心電図の変化 ウ) 血中心筋逸脱酵素の変化 エ) 合併症の出現 (3) 治療 ① 心臓カテーテル治療 (PCI) ② 薬物治療 ③ 冠動脈バイパス術 (外科的治療) ④ 合併症の予防 ⑤ 心臓リハビリテーション 3) 不整脈 (1) 不整脈の原因 (2) 重症不整脈の心電図パターン ① 頻脈型不整脈の心電図 ② 徐脈型不整脈の心電図 (3) 不整脈の病態生理 (4) 治療 ① 不整脈の薬物療法 ② 電気的除細動 ③ ペースメーカー治療 4) 心不全 (1) 心不全の病態生理 (2) 心不全の治療			
14 15		1) 弁膜症 (1) 概要・病因・病態生理・発生機序 (2) 診断過程 (3) 外科的治療 ① 人工弁置換術と管理 2) 虚血性心疾患における外科的治療 (1) 冠動脈バイパス術と管理	講義	4	
16		テスト		2	

テキスト 系統看護学講座 専門II 成人看護学 [2] 呼吸器：医学書院
 系統看護学講座 専門II 成人看護学 [11] アレルギー 膜原病
 感染症：医学書院

系統看護学講座 専門II 成人看護学 [5] 循環器：医学書院

参考文献

評価方法 テスト

科	目	名	疾病治療学III（消化器・内分泌・代謝・免疫・アレルギー・血液・造血器）
単	位	（時間数）	1単位（30時間）
履	修	年次	1年次 後期
講	義	の概要	さまざまな臨床の分野での代表的な疾病的診断・治療など、看護を行う上で不可欠な基礎的な知識について学び、健康障害を抱える対象の看護の展開に有機的に結びつけられるよう学ぶ。
目	標		<ol style="list-style-type: none"> 1. 消化器系疾患の診断過程と治療について理解する。 2. 内分泌・代謝系疾患の診断過程と治療について理解する。 3. 免疫・アレルギー系疾患の診断過程と治療について理解する。 4. 血液・造血器系疾患の診断過程と治療について理解する。

講義内容

回	単元	学習内容	授業形態	時間	備考
1 ～ 3	1. 消化器系疾患の診断過程と治療	1) 慢性ウイルス性肝炎 <ul style="list-style-type: none"> (1) 概念・病因・病態生理・発生機序 <ul style="list-style-type: none"> ① 黄疸の病態 (2) 診断過程 <ul style="list-style-type: none"> ① 診断に必要な検査 <ul style="list-style-type: none"> ア) 肝機能検査 イ) 肝炎の病像とウイルスマーカー (3) 治療 <ul style="list-style-type: none"> ① インターフェロン療法 (4) 予防 2) 肝硬変 <ul style="list-style-type: none"> (1) 概念・病因・病態生理・発生機序 <ul style="list-style-type: none"> ① 門脈圧亢進症の病態 ア) 腹水の発生機序 イ) 側副血行路の形成 ウ) 腹部臓器の鬱血（食道静脈瘤） エ) 肝性脳症の成因 (2) 診断過程 <ul style="list-style-type: none"> ① 診断に必要な検査 (3) 治療 <ul style="list-style-type: none"> ① 腹水の治療 ② 食道静脈瘤に対する内視鏡的硬化療法 ③ 肝性脳症の治療 3) 膵炎（急性膵炎） <ul style="list-style-type: none"> (1) 病因・病態生理・発生機序 (2) 診断過程 <ul style="list-style-type: none"> ① 診断に必要な検査 (3) 治療 	講義	6	
4 ～ 5		1) 大腸癌 <ul style="list-style-type: none"> (1) 診断過程 <ul style="list-style-type: none"> ① 診断に必要な検査 <ul style="list-style-type: none"> ア) 注腸造影 	講義	4	

回	単元	学習内容	授業形態	時間	備考
		<p>②大腸癌の分類 (2)外科的治療 ①手術方式と適応 ア)切除部位別に見た術後障害 ②人工肛門造設 ア)ストーマーの位置決定</p> <p>2) 胃癌</p> <p>(1)診断過程 ①診断に必要な検査 ア)胃内視鏡検査 イ)上部消化管造影 ウ)造影剤と画像の関係</p> <p>(2)外科的治療 ①手術方式と適応 ②胃摘出に関連した諸問題 ア)ダンピング症候群の発生機序 イ)ビタミンB12の吸収</p>			
6 ～ 8	2. 内分泌・代謝系疾患の診断過程と治療	<p>1) 糖尿病</p> <p>(1)概要・病態生理・発生機序 (2)診断過程 ①診断に必要な検査 (3)治療 ①薬物療法 ②食事療法 ③運動療法 (4)合併症 ①糖尿病性腎症 ア)糖尿病性腎症のメカニズム イ)糖尿病性腎症の発症と進展 ウ)糖尿病性腎症の早期診断と治療 ②糖尿病性自律神経障害 ア)糖尿病性自律神経障害の発症と進展 イ)糖尿病性自律神経障害の病態と治療 ③糖尿病性網膜症 ア)糖尿病性網膜症の発症と進展 イ)糖尿病性網膜症の病態と治療 ④糖尿病性の急性合併症 ア)低血糖昏睡の病態と治療 イ)ケトアシドーシスの病態と治療</p>	講義	6	
9 10	3. 内分泌・代謝系疾患の診断過程と治療	<p>1) 甲状腺疾患</p> <p>(1)バセドウ病 ①バセドウ病の発生機序</p>	講義	4	

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
		② 診断過程 ア) 診断に必要な検査 ③ 治療 ア) ホルモン療法 (2) 甲状腺クリーゼ ① 診断過程 ② 治療 (3) 橋本病 ① 発生機序 ② 診断過程 ③ 治療 ア) ホルモン補充療法			
11 12	4. 免疫・アレルギー系疾患の診断過程と治療	1) 全身性エリテマトーデス (1) SLEの病態 (2) 臨床症状 (3) 診断過程 ① 診断に必要な検査 ア) 免疫学的検査 ② 全身性エリテマトーデス分類基準 (4) 治療 ① 免疫抑制療法 ア) ステロイド療法の実際 • 経口剤投与方法 • 連日投与法 • 間欠的投与法 • パルス療法 イ) 妊娠とステロイド療法 2) 関節リウマチ (1) 概要・病態・発生機序 (2) リウマチの症状 (3) 診断過程 ① 診断に必要な検査 ② 関節リウマチの診断基準 ③ 関節破壊の進行度の分類 (4) 治療 ① 薬物を主とする基本的な治療 ア) リウマチ治療薬の選択法 ② 手術療法	講義	4	
13 15	5. 血液・造血器系疾患の診断過程と治療	1) 白血病 (1) 白血病の病態 (2) 診断過程 ① 診断に必要な検査 (3) 治療 ① 化学療法 ② 骨髄移植 2) 悪性リンパ腫 (1) 悪性リンパ腫の病態	講義	6	

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
		(2) 診断過程 ① 診断に必要な検査 ② 病期診断 (3) 治療 3) 播種性血管内凝固症候群 (1) 病態・発生機序 (2) 診断過程 ① 診断に必要な検査 (3) 治療 ① 抗凝固療法 ② 補充療法 ア) 主な輸血用血液製剤 イ) 輸血療法の基本的な考え方 ウ) 輸血の副作用			
16		テスト		2	

テキスト 系統看護学講座 専門II 成人看護学 [4] 血液・造血器：医学書院
 系統看護学講座 専門II 成人看護学 [5] 消化器：医学書院
 系統看護学講座 専門II 成人看護学 [6] 内分泌・代謝：医学書院
 系統看護学講座 専門II 成人看護学 [11] アレルギー 膜原病
 感染症：医学書院

参考文献

評価方法 テスト

科	目	名	疾病治療学IV（腎・泌尿器・生殖器）
単	位	（時 間 数）	1 単位（15 時間）
履	修	年 次	2 年次 前期
講	義	の概要	さまざまな臨床の分野での代表的な疾病的診断・治療など、看護を行う上で不可欠な基礎的な知識について学び、健康障害を抱える対象の看護の展開に有機的に結びつけられるよう学ぶ。
目	標		<ol style="list-style-type: none"> 1. 腎臓系疾患の診断過程と治療について理解する。 2. 泌尿器系疾患の診断過程と治療について理解する。 3. 生殖器系疾患の診断過程と治療について理解する。

講義内容

回	單元	学習内容	授業形態	時間	備考
1 ～ 4	1. 腎臓系疾患の診断過程と治療	<p>1) 腎疾患の症状と病態生理</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 尿の異常 (2) 浮腫 (3) 高血圧 (4) 尿毒症 (5) 電解質異常や酸一塩基平衡異常に伴う症候 <p>2) 診断と検査</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 腎臓病の診断について <ul style="list-style-type: none"> ① 慢性腎臓病とは ② 腎不全とは ③ 臨床症候群による糸球体腎炎の分類 ④ 病変部位・病理組織像・原因などに着目した分類 (2) 検査の意義と方法 <ul style="list-style-type: none"> ① 尿検査 ② 糸球体濾過機能の評価 ③ 尿細管機能検査 ④ 腎生検 <ul style="list-style-type: none"> ア) 腎生検の適応と禁忌 イ) 腎生検の方法と検査後管理 <p>3) 急性腎不全</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 概要・病期と病態生理 (2) 診断過程 : <ul style="list-style-type: none"> ① 急性腎不全の鑑別 ② 治療 <p>4) 慢性腎不全</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 概要・病期・病態生理 (2) 臨床症状 (3) 診断過程 (4) 治療 <ul style="list-style-type: none"> ① 保存療法 ② 血液透析療法 <ul style="list-style-type: none"> ア) ブラッドアクセスの種類・管理 イ) 血液透析の原理 ③ 腹膜透析療法 	講義	8	

回	単元	学習内容	授業形態	時間	備考
		ア) 腹膜透析の原理 5) ネフローゼ症候群 (1) 概要・病期・病態生理 ① 蛋白尿のメカニズム ② 浮腫のメカニズム (2) 診断過程 (3) 合併症と治療			
5 6	2. 泌尿器系疾患の診断過程と治療	1) 前立腺肥大 (1) 概要・病期・病態生理 (2) 診断過程 (3) 治療 ① 薬物療法 ② 手術療法 (4) 合併症と予後 2) 膀胱腫瘍 (1) 病因・病態生理 (2) 診断過程 (3) 治療 ① 尿路変更術 3) 神経因性膀胱 (1) 概要・病期・病態生理 ① 神経因性膀胱の分類 ② 病態生理 ア) 排尿に関する中枢神経系の役割 イ) 排尿に関する抹消神経系の役割 ③ 診断過程 ④ 治療 4) 腎移植 (1) 腎移植の適応 (2) ドナーの選択 (3) 免疫抑制療法	講義	4	
7 8	3. 生殖器系疾患の診断過程と治療	1) 乳がん (1) 概要・病期・病態生理 (2) 診断過程 ① 乳房異常をきたす主な疾患と症状 ② 乳房の自己診断法 (3) 治療 ① 手術療法 ア) 手術療法の適応と特徴 イ) 乳房切除術とドレナージ ウ) 乳房再建術 ② ホルモン療法	講義	4	・男性の乳癌の発症についても学習する。
9		テスト		1	

テキスト 系統看護学講座 専門II 成人看護学 [8] 腎・泌尿器：医学書院
系統看護学講座 専門II 成人看護学 [9] 女性生殖器：医学書院

参考文献

評価方法 テスト

科	目	名	疾病治療学V（脳・神経・運動器・眼・皮膚・歯科・口腔・耳鼻咽喉）
単	位	（時 間 数）	1 単位 (30 時間)
履	修	年 次	2年次 前期
講	義	の 概 要	さまざまな臨床の分野での代表的な疾患の診断・治療など、看護を行う上で不可欠な基礎的な知識について学び、健康障害を抱える対象の看護の展開に有機的に結びつけられるよう学ぶ。
目	標		<ol style="list-style-type: none"> 1. 脳・神経系疾患の診断過程と治療について理解する。 2. 運動器系疾患の診断過程と治療について理解する。 3. 眼・皮膚・歯科・口腔・耳鼻咽喉疾患の診断過程と治療について理解する。

講 義 内 容

回	單 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
1 ↓ 5	1. 脳・神経系疾患の診断過程と治療	<p>1) 脳血管障害</p> <p>(1) 概念・病因・病態生理・発生機序</p> <ul style="list-style-type: none"> ① くも膜下出血 ② 脳内出血 ③ 脳梗塞 <p>(2) 診断の過程</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 意識障害患者に対する神経学的診察 ② 診断に必要な検査 <ul style="list-style-type: none"> ア) 脳脊髄液検査（腰椎穿刺） <p>(3) 治療</p> <ul style="list-style-type: none"> ① くも膜下出血の外科的治療 ② 脳室・脳槽ドレナージの設定方法と管理 ③ 抗血栓療法 ④ 脳内出血急性期の保存的治療 ⑤ 頭蓋内病変が原因となる意識障害の治療 <p>2) 脳腫瘍</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 概念・病因・病態生理・発生機序 (2) 診断過程 (3) 治療 <p>3) 脳神経の変性疾患</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) パーキンソン病 <ul style="list-style-type: none"> ① 概念・病因・病態生理・発生機序 ② 診断過程 ③ 治療 <ul style="list-style-type: none"> ア) パーキンソン病治療薬の作用・副作用 (2) 筋萎縮性側索硬化症 <ul style="list-style-type: none"> ① 概念・病因・病態生理・発生機序 ② 診断過程 ③ 治療と予後 	講義	10	

回	単元	学習内容	授業形態	時間	備考
		(3) アルツハイマー病 ① 概念・病因・病態生理・発生機序 ② 診断過程 ・アルツハイマー型認知症と脳血管性認知症の鑑別 ③ 治療と予後			
6 ～ 8	2. 運動器系疾患の診断過程と治療	1) 運動器系の症状と病態生理 (1) 形態の異常 (2) 関節運動の異常 ① 関節拘縮 ② 関節強直 ③ 動搖関節 2) 骨折 (1) 骨折の分類 (2) 骨折治癒の病態生理 (3) 骨折の治療 ① 整復 ② 固定 ア) 外固定 ・ギプス包帯法・牽引療法 ・骨接合術・機能的装具療法 ③ 後療法 3) 大腿骨頸部骨折 (1) 病態生理 (2) 診断過程 ① 診断に必要な検査 (3) 治療 ① 手術療法 4) アキレス腱断裂 (1) 病態生理 (2) 診断過程 ① 診断に必要な検査 (3) 治療 ① 手術療法 ② 腱損傷後のリハビリテーション 5) 腰椎椎間板ヘルニア (1) 病態生理 (2) 診断過程 ① 診断に必要な検査 (3) 治療 ① 手術療法 6) 脊髄損傷 (1) 病態生理 (2) 診断過程 (3) 治療	講義	6	
9 10	3. 眼疾患の診断過程と治療	1) 屈折、調節の異常 (1) 屈折異常 (2) 調節障害（老視と調節麻痺）	講義	4	

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
		2) 結膜の病気 (1) 流行性角結膜炎 (2) アレルギー性結膜炎 3) 角膜の病気 4) 水晶体の病気 (1) 白内障 (2) 緑内障 5) 網膜の病気 (1) 糖尿病性網膜症			
11	4. 皮膚疾患の診断過程と治療	1) アトピー性皮膚炎 2) 脂漏性皮膚炎 3) 莽麻疹 4) 皮膚感染症 (1) 白癬 (2) 痒癬 (3) 単純ヘルペス 5) 皮膚癌	講義	2	
12 13	5. 歯科・口腔疾患の診断過程と治療	1) 歯の異常と疾患 (1) う蝕・歯隨疾患の病態 (2) 診断過程 (3) 治療 2) 歯周組織の疾患 (1) 病態生理、診断過程、治療 3) 口唇・口蓋裂 (1) 病態生理、診断過程、治療 4) 頸関節の疾患 (1) 病態生理、診断過程、治療 5) 唾石症 (1) 病態生理、診断過程、治療	講義	4	
14 15	6. 耳鼻咽喉疾患の診断過程と治療	1) 耳疾患 (1) 外耳炎 (2) 中耳炎 (3) 突発性難聴 (4) メニエール病 2) 鼻疾患 (1) アレルギー性鼻炎 (2) 副鼻腔炎 (3) 上頸癌 3) 咽頭疾患 (1) 扁桃炎 (2) 声帯ポリープ (3) 唾液腺腫瘍	講義	4	
16		テスト		2	

テキスト 系統看護学講座 専門II 成人看護学 [10] 運動器：医学書院
系統看護学講座 専門II 成人看護学 [12] 皮膚：医学書院
系統看護学講座 専門II 成人看護学 [13] 眼：医学書院
系統看護学講座 専門II 成人看護学 [14] 耳鼻咽喉：医学書院
系統看護学講座 専門II 成人看護学 [15] 歯・口腔：医学書院
系統看護学講座 専門II 成人看護学 [7] 脳・神経：医学書院

参考文献
評価方法 テスト

科 目 名	疾病治療学VI (小児に特有な疾患と治療)
単 位 (時 間 数)	1 単位 (15 時間)
履 修 年 次	2年次 前期
講 義 の 概 要	小児に特有な疾患の診断・治療など、看護を行う上で不可欠な基礎的な知識について学び、小児の成長発達段階をふまえ、健康障害を抱える対象の看護の展開に有機的に結びつけられるような内容とした。
目 標	小児に特有な疾患の診断過程と治療について理解する。

講 義 内 容

回	單 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
1	1. 出生前の疾患	1) 染色体異常 (1) 常染色体異常 (2) 性染色体異常	講義	2	
2	2. 循環器疾患	1) 先天性心疾患 (1) 主な疾患の病態 ① 心室中隔欠損 ② 心房中隔欠損 ③ ファロー四徴 (2) 診断過程 (3) 治療 2) 川崎病 (1) 疾患の病態 (2) 診断過程 (3) 治療過程 (4) 予後と治療	講義	2	
3	3. 感染症	1) 主な感染症 (1) ウイルス性感染症 (2) 細菌感染症 (3) 真菌感染症	講義	4	
4	4. 呼吸器疾患	2) 上気道の疾患 3) 気管支・肺疾患			
	5. 免疫・アレルギー性疾患	4) 気管支喘息 (1) 気管支喘息の病態 (2) 気管支喘息の疫学 (3) 急性発作時の治療 (4) 非発作時の予防治療 5) 食物アレルギー ¹ (1) 定義・分類 (2) 食物アレルギーの疫学 (3) 症状 (4) 診断過程 (5) 治療			
5	6. 神経・筋疾患	1) 脳性麻痺 (1) 原因と分類 (2) 症状 ① 痙攣型 ② 舞踏病アテトーシス型	講義	2	

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
		③ 運動失調型 ④ 混合型 (3) 診断過程 (4) 予後と治療 ① 理学療法 ② 作業療法 ③ 痙攣に対する治療 ④ 筋緊張に対する治療			
6	7. 未熟児・新生児の疾患	1) 新生児の異常 (1) 新生児仮死 (2) 分娩外傷 (3) 高ビリルビン血症 2) 低出生体重児の疾患 3) 未熟児の疾患 4) 成熟異常 5) 乳幼児突然死症候群	講義	2	*テキスト、「母性看護学各論」を使用する。
7	8. 消化器疾患	1) 口腔疾患（唇裂、口蓋裂） 2) 肥厚性幽門狭窄症 3) 腸重積症 4) 直腸肛門奇形（鎖肛） 5) ヒルシュスブルング病	講義	2	
8	9. 腎尿路疾患	1) 泌尿器・生殖器の奇形 2) 腎糸球体疾患 3) 腎尿細管疾患	講義	2	
9		テスト		1	

テキスト 系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論：医学書院

系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学 [2] 母性看護学各論：医学書院

参考文献

評価方法 テスト

科	目	名	疾病治療学VII (女性に特有な疾病と治療)
単	位	(時 間 数)	1 単位 (15 時間)
履	修	年 次	2年次 後期
講	義	の 概 要	母性看護学の対象である女性の特徴を捉え、内分泌環境変化の時期である女性の健康障害と検査、治療について学ぶ。
目	標		<ol style="list-style-type: none"> 1. 女性に特徴的な機能について理解する。 2. 女性ライフサイクルにおける健康上の課題について理解する。 3. 女性生殖器系疾患の診断過程と治療について理解する。

講 義 内 容

回	單 元	學 習 内 容	授業形態	時間	備考
1 ↓ 5	1. 妊娠期の異常 2. 分娩期の異常 3. 産褥期の異常	1) ハイリスク妊娠 2) 妊娠悪阻 3) 妊娠高血圧症候群 4) 血液型不適合妊娠 5) 妊娠性糖尿病 6) 多胎妊娠 7) 流産・早産・切迫早産 8) 前置胎盤 9) 常位胎盤早期剥離 1) 胎児ジストレス 2) 帝王切開術 3) 弛緩出血 4) 軟産道の損傷 1) 子宮復古不全 2) 貧血 3) 乳腺炎 4) 産褥熱 5) マタニティーブルー 6) 痢核	講義 講義 講義	10	
6	4. 不妊症の診断過程と治療	1) 不妊症 (1) 不妊症の原因と検査・治療	講義	2	
7 8	5. 女性生殖器系疾患の診断過程と治療	1) 月経異常・月経随伴症状 (1) 無月経 (2) 月経困難症 2) 性感染症 (1) 梅毒 (2) 淋疾 (3) 尖圭コンジローマ (4) クラミジア感染症 3) 子宮内膜症 4) 子宮がん (1) 概要・病期・病態生理 (2) 診断過程 (3) 治療	講義	4	
9	テス ト			1	

テキスト 系統看護学講座 専門 II 母性看護学 [2] 母性看護学各論：
医学書院
系統看護学講座 専門 II 成人看護学 [9] 女性生殖器：医学書院

参考文献

評価方法 テスト

科	目	名	疾病治療学VIII（主な精神疾患の診断過程と治療）
単	位	（時 間 数）	1 単位（15 時間）
履	修	年 次	2年次 前期
講	義	の 概 要	主な精神疾患の精神症状の現れ方の特徴と疾病の原因、診断、治療など、看護を行う上で不可欠な基礎的な知識について学び、健康障害を抱える対象の看護の展開に有機的に結びつけられるよう学ぶ。
目	標		精神疾患の診断過程と治療について理解する。

講 義 内 容

回	單 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
1	1. 精神疾患の理解	1) 精神（心）の働きと精神症状・状態像：障害をもつ人の症状と診断のための検査 (1)精神障害をもつ人の抱える症状 (2)精神科的診察 ①診察 ②一般検査、画像検査 ③心理検査 2) 精神疾患/障害の診断基準・分類	講義	2	
2 ↓ 4	3. 主な疾患の診断過程と治療	1) 脳器質性精神病 2) 症状精神病 3) 統合失調症 (1)統合失調症とは (2)統合失調症の成因 (3)症状の現れ方 (4)経過と予後・治療 4) 気分障害（双極性障害・うつ病） (1)気分障害とは (2)躁うつ病の成因 (3)症状の現れ方 (4)経過と予後・治療	講義	6	
5 ↓ 6		5) てんかん (1)てんかんとは (2)てんかん発作型 (3)てんかんと精神症状 (4)てんかんの検査・治療 6) 神経症と心因精神病 (1)発生機序 (2)診断過程 (3)治療 7) 社会とメンタルヘルス (1)アルコール依存症 ①アルコール依存症とは ②発症要因・発症のメカニズム ③経過と症状 ④治療	講義	6	

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
		(2) 人格障害 (3) P T S D (4) 摂食障害 8) 児童・思春期に起こりやすい精神障害			
7	4. 主な治療法	1) 主な精神障害の治療 (1) 薬物療法 (2) 電気ショック療法 (3) 社会復帰療法 (4) 精神療法 (5) 行動療法 (6) 活動療法 (7) 環境療法	講義	2	
8		テスト		1	

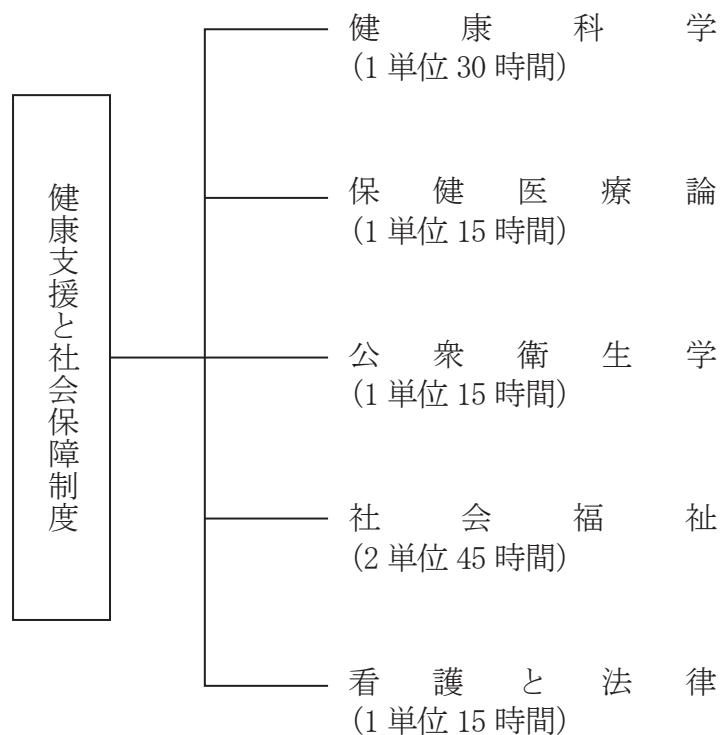
テ キ ス ト 新体系看護学全書、精神看護学②、精神障害をもつ人の看護：メヂカルフレンド社

参 考 文 献 系統看護学講座 専門Ⅱ 精神看護学 [1] 精神看護の基礎：医学書院
精神看護学Ⅱ 川野雅資：編集：ヌーヴェルヒロカワ

評 價 方 法 テスト

健康支援と社会保障制度

科目体系



科	目	名	健康科学
单	位	(時 間 数)	1 单位 (15 時間)
履	修	年 次	2 年次 後期
講	義	の 概 要	時代の変化に応じて健康の概念や人々の健康に対する捉え方が変化している。ヘルスプロモーションの概念を取り入れた健康教育が重要な位置を占めている。そこで現在の健康教育のあり方やその考え方を学ぶ。
目	標		1. 人々の健康保持増進するための健康教育の目的や方法について理解する。 2. 自分自身の健康に関心を持ち、健康教育の技法を身につける。

講 義 内 容

回	单 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
1 ～ 4	1. 健康の指標	1) 健康政策 2) 健康に影響する因子 3) 健康教育 (1) 健康教育の目的 (2) 健康教育とヘルスプロモーション との関係 4) 健康教育と行動変容 (1) 保健行動の意味 (2) 保健行動の変容 (3) 健康行動に影響する因子 5) 健康教育の内容 (1) 健康教育の対象とその選択 (2) 健康教育の方法 (3) 健康教育の計画立案 (4) 健康教育の評価	講義	8	・各看護 学概論 で学ん だ健康 の概念 につい て想起 する。
5 ～ 14	2. 健康教育の実際	1) 健康問題を設定する。 (1) テーマ：生活習慣病予防のための 健康づくりを考える。 (2) 身近な生活習慣を捉え、グループ で健康問題を設定する。 例：健康とスポーツ習慣の関係 健康のための運動、日常生活と健康 2) 健康指標となるものを活用して目 標を設定する。 「健康日本21の目標：身体活動・ 活動の目標 3) 計画立案する。 4) 健康行動を実行する。 5) 健康教育の評価	講義 演習 (グループ ワーク)	2 18	・「生活と スポーツ」で 行われ た体力 測定と その評 価及び 健診 結果等を 参考に テーマ を考 える。 ・「健康日本 21」を 想起する。
15		テスト		2	

テ キ ス ト 医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎：医歯薬出版

参 考 文 献 健康科学概論：ヌーベルヒロカワ

評 価 方 法 テスト、演習課題で評価する。

科	目	名	保健医療論
单	位	(時 間 数)	1 单位 (15 時間)
履	修	年 次	3 年次 前期
講	義	の 概 要	医療のあり方が大きく変貌しつつある今日、医療の変遷を知らずにこの変貌した時代や看護の目ざす目標を明確にすることは難しい。医療の変遷を知り、現在の保健医療システム・サービスの現状と課題について学ぶ。
目	標		医療の変遷、現代の保健医療システムの仕組みを学び、健康の保持・増進のための現状と課題を理解する。

講 義 内 容

回	单 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
1	1. 生活と保健医療	1) 私たちの生活と保健医療 2) 保健医療がめざすもの (1) 人々の生活の質・生命の質の向上 (安心・安全な生活) (2) 人々の健康維持・回復	講義	2	
2 3 4	2. わが国の保健医療	1) わが国の医療制度改革の経緯 (1) 医療制度改革の変遷の概要 (2) 現在の医療制度改革の全体像 ① 医療保険制度 診療報酬体系の見直しなど ② 医療提供体制 医療計画制度の見直し ③ 生活習慣病対策 健康増進計画の見直し ④ 介護保険制度 医療と介護の機能分担と連携強化 2) わが国の保健医療の現状と課題 (1) 医療費の抑制 ① 包括医療の導入 ② クリティカルパスの導入 (2) 医療の機能分化 ① かかりつけ医 (家庭医と病診連携) ② 医薬分業 (3) 救急医療の充実 ① 救急医療体制の整備 (4) 患者中心の医療 ① インフォームドコンセント ② カルテ開示請求 ③ 病院機能評価等 (5) 病院の I T 化と E B N ① 電子カルテ (6) 保健医療従事者の育成 ① 卒後研修制度 ② 看護の大学教育化 専門看護師、認定看護師の誕生	講義	6	

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
5 6	3. わが国の医療と 経済 4. 保健医療と倫理	1) 診療報酬のしくみ (1) 診療報酬とは (2) 診療報酬のしくみ 2) 保健医療と倫理 (1) 医療倫理とは ① 世界医師：ジュネーブ宣言 ② ニュールンベルク綱領 ③ ヘルシンキ宣言 ④ アメリカ病院協会 「患者の権利章典」とわが国の医療法との関連 (2) リスボン宣言 3) インフォームドコンセントとQOL	講義	4	
7	5. 沖縄の保健医療の現状	1) 沖縄県の保健医療計画と今後の課題 (1) 長寿崩壊の危機 (2) 生活習慣病予防 (3) 住民の食生活などの見直し (4) 医療従事者の確保・離島医療	講義	2	
8		テスト		1	

テ キ ス ト 系統看護学講座 専門基礎 健康支援と社会保障制度 [1] 総合医療論:
医学書院

参 考 文 献

評 価 方 法 テスト

科 目 名	公衆衛生学
単 位 (時 間 数)	1 単位 (15 時間)
履 修 年 次	2年次 後期
講 義 の 概 要	公衆衛生の目的は、生活者のさまざまな健康について学び、健康で活力ある福祉社会を作り上げることにある。公衆衛生の活動において、個々の疾病予防に対する自然環境へのアプローチとともに社会や経済、文化・風俗、習慣など人間の行動や生活習慣に着目する社会的環境へのアプローチを学ぶ。
目 標	国民の健康に関する状況と生活環境を学び、人々が健康を享受するために望ましい制度や組織活動を理解するとともに医療専門職の役割を理解する。

講 義 内 容

回	單 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
1	1. 健康と公衆衛生	1) 健康と公衆衛生 (1) 公衆衛生のあゆみ	講義	2	
2 3	2. 疫学と健康	1) 健康に関する指標 (1) 保健統計の基本的な考え方 (2) 人口の動向 (3) 人口の動向把握と必要な指標 2) 疫学調査 (1) 疾病の多発とその原因 (2) 疾病予防対策 (3) 疾病予防と疫学調査法 3) 保健行政	講義	4	
4	3. 環境と公衆衛生	1) 人間と生活環境 2) 健康問題と環境	講義	2	
5 6 7	4. 公衆衛生の活動	1) 公衆衛生の対象と活動 (1) 保健所・保健センターにおける活動 (2) 母子保健 (3) 地域保健 (4) 学童期の健康管理 (5) 生活習慣病予防 (6) 感染症とその予防 (7) 職場の健康保健 (8) 難病対策	講義	6	
8		テスト		1	

テ キ ス ト	系統看護学講座 専門基礎 健康支援と社会保障制度 [2] 公衆衛生：医学書院
参 考 文 献	国民衛生の動向：厚生労働統計協会
評 價 方 法	公衆衛生マニュアル 2016：南江堂
評 價 方 法	テスト

科 目 名	社会福祉
単 位 (時 間 数)	2 単位 (45 時間)
履 修 年 次	2年次 後期
講 義 の 概 要	<p>国民の最低限生活を保障する社会保障制度、社会的な援護を要する者への支援を行う社会福祉制度がある。社会保障、社会福祉制度は、高齢化の急速な進行と年金制度の成熟化、介護保険制度の創設などにより、誰もが必ずかかわりをもつ普遍的な制度として意識されるようになった。生活者の健康を保障する社会の制度を理解し、看護を提供する上で社会資源を活用する能力の基礎知識を学ぶ。</p>
目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会保障制度と社会福祉の基本的な考え方を理解する。 2. 保健、医療、福祉の連携の意義、社会資源の活用方法を理解する。

講 義 内 容

回	单 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
1	1. 社会保障制度と社会福祉の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1) 社会保障の定義と概念 2) 社会保障の体系 <ol style="list-style-type: none"> (1) 社会保険 (2) 公的扶助 (3) 社会福祉 (4) 公衆衛生および医療 3) 社会保障の内容 <ol style="list-style-type: none"> (1) 所得保障 (2) 医療保障 (3) 社会福祉サービス 	講義	2	
2 3	2. 社会福祉の法制度の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1) 社会福祉の法制度 <ol style="list-style-type: none"> (1) 社会福祉の法制度の歴史的展開 (2) 社会福祉サービスの内容と社会福祉の仕組み (3) 社会福祉法と福祉6法 <ul style="list-style-type: none"> ・生活保護法 ・児童福祉法 ・身体障害者福祉法 ・知的障害者福祉法 ・老人福祉法 ・母子及び寡婦福祉法 2) 社会福祉の組織と実施体制 3) 社会福祉の従事者と担い手 	講義	4	
4	3. 現代社会の変化と動向	<ol style="list-style-type: none"> 1) 現代社会の変化 2) 社会保障・社会福祉の動向 	講義	2	
5 6 7	4. 医療保障	<ol style="list-style-type: none"> 1) 医療保障制度の沿革 2) 医療保障制度の構造と体系 <ol style="list-style-type: none"> (1) 医療保障制度の類型 (2) 我が国の医療保障制度の特徴 3) 健康保険と国民健康保険 4) 高齢者医療制度 5) 保険診療の仕組み 6) 公費負担医療 	講義	6	

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
8 ～ 10	5. 介護保障	1) 介護保険制度の創設背景と介護保障の歴史 2) 介護保険制度の概要 (1) 制度の基本理念 (2) 保険者・被保険者 (3) 要介護・要支援の認定と保険給付 ① 納付の種類 ② 介護給付 ③ 居宅サービス ④ 施設サービス ⑤ 予防給付 ⑥ 被保険者の自己負担 (4) 保険給付の手続きとサービス開始の流れ 3) 介護保険制度の課題と展望	講義	6	
11 ～ 12	6. 所得保障	1) 年金保険制度 2) 社会手当 (1) 児童手当 (2) 児童扶養手当 ① 特別児童扶養手当 (3) 障害者手当 3) 労働保険制度 (1) 雇用保険制度 (2) 労働者災害補償制度	講義	4	
13 ～ 14	7. 公的扶助	1) 貧困・低所得問題と公的扶助制度 2) 生活保護制度 (1) 生活保護法の目的・原理・原則 (2) 生活保護の種類 (3) 生活保護における権利・義務関係 (4) 保護の決定と実施 (5) 生活保護の現状と課題 3) 低所得対策 4) 公的扶助の近年の動向	講義	4	
15 ～ 19	8. 社会福祉の分野とサービス	1) 高齢者福祉 (1) 高齢者の生活問題 (2) 老人福祉の沿革 (3) 老人福祉施策 (4) 老人保健施策 (5) 老人保健福祉施策 2) 障害者福祉 (1) 障害者福祉の発展の経過 (2) 障害者福祉の最近の動向 (3) 障害者の定義と実態 (4) 障害者福祉施策 (5) 障害者の就労補償 (6) 障害者の福祉の独自の課題 (7) 障害者自立支援法 (8) 障害者自立支援法の課題	講義	10	

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
		3) 児童福祉 (1) 少子高齢社会と児童福祉 (2) 児童福祉とは (3) 児童福祉の施策の現状 4) 母子及び寡婦福祉法 5) 現代における母子家庭、父子家庭の課題			
20 ～ 22	9. 社会福祉実践 と医療・看護 10. 保健医療福祉 と看護の接点	1) 社会福祉援助とは 2) 社会福祉援助の検討課題 3) 連携の重要性 4) 社会福祉実践と医療・看護との連携 5) 連携の場面とその方法 1) 保健医療福祉にかかる考え方の変化 2) 保健医療福祉行政 (1) 保健医療・福祉行政の特徴 (2) 保健福祉計画 (3) 社会福祉の民間活動	講義	6	
23		テスト		2	

テ キ ス ト 系統看護学講座 専門基礎 健康支援と社会保障制度 [3] 社会福祉：
医学書院

参 考 文 献 福祉の動向、国民衛生の動向

評 価 方 法 テスト

科 目 名	看護と法律
単 位 (時 間 数)	1 単位 (15 時間)
履 修 年 次	3年次 後期
講 義 の 概 要	医療に関連する法の基礎知識、看護職に必要な法規を学び、専門職業人として法的責任を自覚した行動が取れるための基礎知識を学ぶ。
目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護に関連する法規を理解し、法的責任を自覚する。 2. 社会生活と法のつながりを理解する。

講 義 内 容

回	單 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
1 ～ 4	1. 法規の概念と 医事法規	<ol style="list-style-type: none"> 1) 法の種類 2) 厚生労働省の任務 3) 保健師助産師看護師法 4) 医師法 5) 医療法 	講義	8	
5 ～ 6		<ol style="list-style-type: none"> 1) その他の関連法規 <ol style="list-style-type: none"> (1) 労働基準法 (2) 労働安全衛生法 (3) その他の労働関係法規 	講義	4	
7	2. 医療過誤	1) 看護実践で生じる法的問題と責任	講義	2	
8		テスト		1	

テ キ ス ト 系統看護学講座 専門基礎 健康支援と社会保障制度 [4] 看護関係法
令：医学書院

参 考 文 献

評 価 方 法 テスト

専門分野 I

基礎看護学

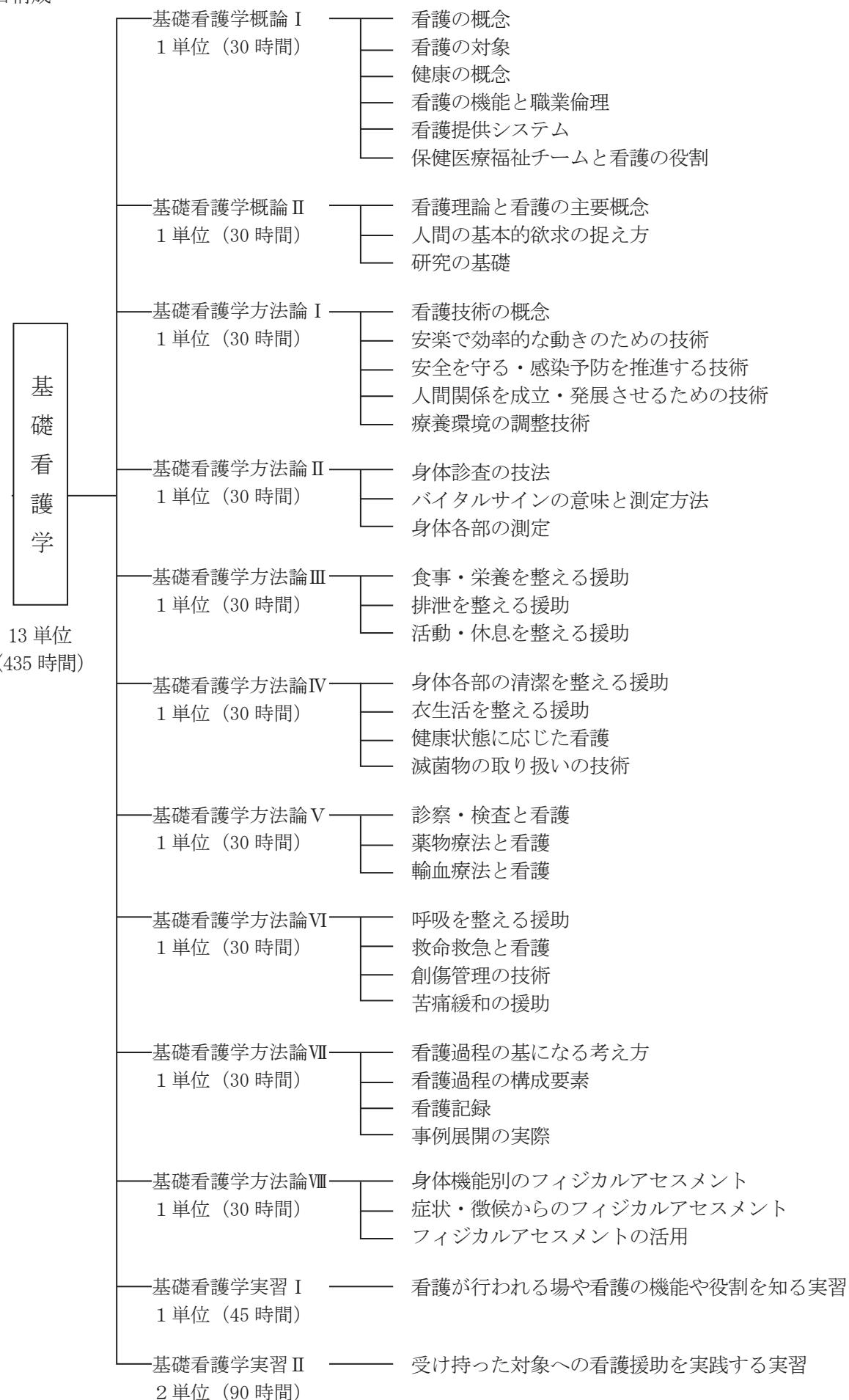
目的

看護の基本となる概念や保健医療福祉活動における看護の役割を理解し、看護を実践する基礎となる知識・技術・態度を養う。

目標

1. 看護の対象である人々を共感的に理解し、援助関係を築く基本的態度を身につける。
2. 看護の対象であるあらゆる健康状態の人々とその家族を生活者の視点で理解する。
3. 人々の健康上の課題に対応するために必要な基礎的知識・技術・態度を身につける。
4. 保健医療福祉チームにおける看護の役割や他職種との協働の意義を理解する。
5. 基礎看護学と他専門分野との関連性を理解し、看護に必要な主体的学習姿勢を身につける。

科目構成



科	目	名	基礎看護学概論 I
单	位	(時 間 数)	1 单位 (30 時間)
履	修	年 次	1 年次 前期
講	義	の 概 要	看護学概論は、すべての看護学の基礎となる科目である。看護は対象である「人間」の「健康」に携わる職業である。専門職業人として「看護とは何か」を考え看護提供システムの視点や、人として対象に向かうことに伴う役割や倫理などを学ぶ内容とした。
目	標	1.	看護の基本となる概念を理解する。 2. 看護の対象である人間のさまざまな見方を知り、対象を統合体として捉える意味を理解する。 3. 健康の概念について理解する。 4. 保健医療福祉システムを理解し、チームにおける看護者の役割を理解する。 5. 看護提供システムについてサービスの考え方、提供の場、サービスの管理などについて理解する。

講 義 内 容

回	单 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備 考
1	1 看護の概念	グループワーク学習 *今、私たちが考える看護とは	GW	2	GWの進め方 (ワールドカフェ)
2		1) 看護とは (1) 看護の本質 (2) 看護の定義 (3) 今日の看護の展望と動向	講義	2	GWの内容を関連させる
3		2) 看護の機能と役割 (1) 看護ケアとは (2) 看護の質を保証する (3) 看護の役割・機能の拡大 3) 看護の継続性と役割 (1) 入院前 (2) 入院中 (3) 退院及び転院時 (4) 他職種との連携 (5) 在宅療養を可能にする連携	講義	2	
4	2 看護の対象	1) 看護の対象を学ぶ視点 2) 人間の「こころ」と「からだ」 (1) 対象理解の基盤 3) ホメオスタシスという体の反応 4) ストレスとは	講義	2	
5		5) 看護の対象をストレス学説から理解する 6) 患者のストレス状況の認知と対処行動の理解 7) 患者心理の理解	講義	2	

回	単元	学習内容	授業形態	時間	備考
6		8) 対象のこころの理解に役立つ理論 9) 生涯発達し続ける存在としての人間	講義	2	
7		10) 人間の暮らしの理解 (1) 生活者としての人間 11) 生活・家族・地域を視野に、これからの看護活動	講義	2	
8		グループワーク学習 *本校の教育目標を学ぶ 「看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的に統合された生活体として理解する」	GW	2	G W の進め方 (ラウンドロビン) 前回講義終了時に課題提出
9	3 健康の概念	1) 健康のとらえ方 (1) 生活者の健康を専門家の視点で捉える 2) 健康でない状態とは 3) 障害とは何か 4) 健康状態から見た段階 (1) 健康の保持・促進、疾病予防の状態 (2) 健康の急激な破綻から回復の状態 (3) 健康の慢性的な揺らぎの再調整を必要とする状態 (4) 障がいのある状態とリハビリテーションを行う状態 (5) 人生最後の時	講義	2	
10		グループワーク学習 *私たちの健康に影響を与えていたる要因にはどのようなものがあるだろうか	GW	2	G W の進め方 (ラウンドロビン)
11		5) 社会の変遷と健康観の変化 (1) 社会状況の変化 (2) 医療政策の変遷 (3) 医療の変化 (4) 健康の概念と位置づけの変化 ヘルスプロモーション(オタワ憲章) 6) 人々の生活と健康に関する統計 (1) 人々の生活と健康を示す統計の種類 (2) ライフコースと日本人の平均像 (3) 健康指標の変化 7) 我が国の患者と医療の特徴	講義	2	前回講義終了時に課題提示
12	4 看護の職業倫理	1) 看護職者の倫理	講義	2	

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
13		グループワーク学習 *日本看護協会の「看護職者の倫理綱領」 を理解しよう *GWの結果をプレゼンテーション	GW	2	GWの進め方 (ケーススタディ) *個人レポートあり GWの結果を発表する
14	5 看護提供システムと看護の役割	1) 職業としての看護 2) 看護職の就業状況 (1) 法的な規定 (2) 各看護職と就業状況 3) 看護職者のキャリアアップ 4) 看護の提供システムとは (1) サービスとしての看護 (2) サービス提供の場 (3) 看護をめぐる制度と政策 5) 保健医療チームと看護の役割 (1) 保険、医療、福祉の概念 (2) 保健医療福祉サービスの提供の場 (3) 保健医療福祉チームと看護 ・保健医療福祉チームの必要性 ・チームの中における看護者の役割	講義	2	*私が考える看護についてレポートあり
15		テスト		2	

テキスト 系統看護学講座専門分野 I 基礎看護学 [1] 看護学概論 医学書院

参考文献 新体系看護学全書第10巻 基礎看護学① 基礎看護学概論

メヂカルフレンド社

看護理論 - 看護理論 20 の理解と実践への応用 南江堂

評価方法 テスト、レポート

科	目	名	基礎看護学概論Ⅱ
单	位	(時 間 数)	1 单位 (30 時間)
履	修	年 次	1 年次 前期
講	義	の 概 要	<p>先人の看護理論についての変遷や理論の特徴について学ぶ。また、これから学習する方法論において、対象の捉え方や看護の視点へつながる内容とする。</p> <p>看護研究の基礎的知識である研究の意義や方法、倫理的配慮の必要性について学び、統合分野の単元「看護実践と理論」でまとめる事例研究につなげる内容とする。</p>
目	標		<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護理論を学ぶ意義やさまざまな理論について理解する。 2. 看護の主要概念を理解し、本校の概念枠組みとその捉え方について理解する。 3. 看護における研究の意義、方法、倫理的配慮の必要性を理解する。 4. 自己の課題（学習の疑問）に基づき、文献検索の方法を理解する。

講 義 内 容

回	单 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
1	1 看護理論と看護の主要概要	1) 看護理論を学ぶ意義 2) 看護理論とは 3) 看護理論の分類と変遷 4) さまざまな看護理論 5) 主要概要 (1) 人間、健康、環境、看護	講義	2	
2 ↓ 11	2 人間の基本的欲求の捉え方	1) 本校における枠組みとその捉え方 (1) 生命徵候：呼吸・循環・体温・意識状態 (2) 食事・栄養・代謝 (3) 排泄 (4) 活動・休息 (5) 清潔・衣生活 (6) 認知・知覚 (7) 性・生殖 (8) 環境 (9) 学習・健康管理 (10) 自己概念・価値・信念 (11) 役割・関係・社会保障	講義 演習	20	
12 ↓ 14	3 研究の基礎	1) 看護研究の意義 (1) 研究とは (2) 看護研究とは (3) 看護研究の必要性 (4) 看護研究の目的（成果） (5) 看護実践と看護研究 (6) 看護理論と看護研究 (7) 看護研究における倫理的配慮	講義	6	情報科学や英語との関連

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備 考
		2) 看護研究の研究デザインとプロセス (1) リサーチクエスチョン (2) 研究方法・デザイン 3) 文献検索の方法と入手方法 (1) 文献とは (2) 文献の種類 (3) 文献検索の実際 (4) 文献の読み方 4) 研究計画書の意義と内容 5) 研究論文の構成と内容 6) 研究成果の発表			統合分野の事例研究と関連して学ぶ
15		テスト		2	

テ キ ス ト 系統看護学講座専門分野 I 基礎看護学 [1] 看護学概論 医学書院
ヘンダーソン, V. 著 湯楨ます他訳 看護の基本となるもの
日本看護協会出版会

参 考 文 献 新体系看護学全書第10巻 基礎看護学① 基礎看護学概論
看護理論－看護理論20の理解と実践への応用 南江堂
系統看護学講座 別巻 看護研究：医学書院
看護研究 STEP BY STEP 学研
ナーシング・グラフィカ⑯ 基礎看護学 看護研究 メディカ出版

評 価 方 法 テスト、レポート

科	目	名	基礎看護学方法論 I
单	位	(時 間 数)	1 单位 (30 時間)
履	修	年 次	1 年次 前期
講	義	の 概 要	すべての看護の基盤となる技術を学ぶ科目とした。 看護技術は、対象の生命の尊厳・人権を守り、対象にとって安全・安楽な技術を提供することが求められる。看護援助の基本となる技術の考え方や基本原則・安楽で効果的な動き・医療事故防止のための医療安全と対象の療養環境整備の技術を学ぶ。 また、看護の提供場面において、人間関係成立・発展のための技術であるコミュニケーション技術の基礎知識を学ぶ。
目	標		<ol style="list-style-type: none"> 看護技術の概念を学び、原則に基づいた看護技術の方法を理解する。 看護における安全、感染予防の技術について習得する。 安楽で効果的な動きのための技術の基本を理解する。 人間関係成立・発展のための技術の基本を理解する。 安全・安楽な療養環境を調整する技術について習得する。

講 義 内 容

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
1	1 看護技術の概念	<ol style="list-style-type: none"> 看護技術の意義と目的 看護技術とは 看護技術の特徴 看護技術の基本原則 <ol style="list-style-type: none"> 安全・安楽・自立をめざした目的意識的直接行為 看護技術の範囲 <ul style="list-style-type: none"> 「療養上の世話」「診療の補助」 看護技術を適切に実践するための要素 看護技術の発展と修得のために 本校の対象理解のアセスメント枠組みの11項目 	講義	2	
2 ～ 5	2 安全を守る・感染予防を推進する技術	<ol style="list-style-type: none"> 医療・看護における安全の意義 医療における安全対策の基本 <ol style="list-style-type: none"> ヒューマンエラーとは ヒューマンエラー防止対策 看護事故の構造と防止の視点 組織としての事故防止対策 <ol style="list-style-type: none"> ヒヤリ・ハット事例の収集分析と事故防止対策 安全管理・リスクマネジメント 感染予防の基礎知識 <ol style="list-style-type: none"> 感染の成立の条件 院内感染の防止 標準予防策（スタンダードープリコーション） <ol style="list-style-type: none"> 標準予防策の基礎知識 対策の実際：手洗い、手袋、マスク、ゴーグル、ガウン 	講義 演習	6 2	医療 安全 と の 関連

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
		7) 感染経路別予防策 (1) 感染経路別予防策の基礎知識 (2) 接触予防策 (3) 飛沫予防策 (4) 空気予防策 8) 洗浄・消毒・滅菌 (1) 洗浄・消毒・滅菌の基礎知識 (2) 洗浄 (3) 消毒と滅菌 9) 感染性廃棄物の取り扱い (1) 感染性廃棄物の基礎知識 (2) 対策の実際			カ テ 一 テ ル 関 連、針刺 し 防 止 などは診 療の補助 技術で学 ぶ
6	3 安楽で効率的な動きのための技術	1) 安楽の意義 2) 安楽な姿勢と動作 3) 安楽で効果的な動きのための技術 (1) ボディメカニクス (2) 姿勢と動作 (3) 重心と安定性 (4) ボディメカニクスに影響を及ぼす因子 ① 力学とは ② 運動の法則 ③ 仕事 ④ 合力と分力 ⑤ 力のモーメント ⑥ てこの原理 ⑦ 摩擦力 (5) 患者のボディメカニクス	講義	2	人間工 学と関 連
7 ～ 9	4 人間関係を成立・発展させるための技術	1) コミュニケーションの意義 2) コミュニケーションの基礎知識 (1) 目的 ① コミュニケーションとは ② 医療におけるコミュニケーション (2) 効果的なコミュニケーションの実際 ① 倾聴の技術 ② 情報収集の技術 ③ 説明の技術 (3) コミュニケーション障害への対応	講義 演習	4 2	人間関 係論と 関連 プロセ スレコ ードの 書き方 の演習
10 ～ 13	5 療養環境の調整技術	1) 生活環境を整える意義 2) 病床環境の調整 (1) 援助の基礎知識 ① 療養生活の環境 ② 病室の環境 3) 療養環境を整える援助の実際 ① ベッド周囲の環境整備 ② 病床を整える：マットレス・枕 の条件 ベッドメーキング、リネン交換	講義 演習	2 6	

14	テスト	技術テスト 筆記テスト		2	技術テスト
15				2	スタンダードプリコーショング 環境調整・ベッドメイキング

- テキスト 系統看護学講座専門分野 I 基礎看護学 [2] 基礎看護技術 I 医学書院
 系統看護学講座専門分野 I 基礎看護学 [3] 基礎看護技術 II 医学書院
 看護技術プラクティス第3版 学研
- 参考文献 ナーシング・グラフィカ⑯ 基礎看護学 基礎看護技術 メディカ出版
 新体系看護学全書第11巻 基礎看護学② 基礎看護学技術 I メヂカルフ
 レンド社
 基礎看護学 考える基礎看護技術 I 看護技術の基本 ヌーヴェルヒロカワ
- 評価方法 テスト（筆記・技術）、レポート

科 目 名 基礎看護学方法論Ⅱ

単 位 (時 間 数) 1 単位 (30時間)

履 修 年 次 1年次 前期

講 義 の 概 要
看護職者が独自の判断を必要とする場面が増え、看護の役割は対象の身体状況全体を客観的、系統的に観察する能力が求められている。対象の健康上の問題を生活の視点で捉える必要性を理解し、観察のための具体的方法の基礎知識を学ぶ。看護師の「目」「手」「耳」を使って診察の技法を活用してみる。また、身体の状態をとらえるのに最も基本的で、かつ最も重要なバイタルサインを学ぶ。

身体各部の計測の意義を理解し、正しい測定方法について体験的に学ぶ。

目 標
1. ヘルスアセスメントの意義と目的について理解する。
2. 看護におけるフィジカルアセスメントの意義と目的、診察技法について理解する。
3. 生体におけるバイタルサインの意味を理解し、その測定方法について習得する。
4. 身体各部の計測の目的・意義を理解し、計測を実施できる。

講 義 内 容

回	單 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
1 ～ 3	1 身体診査の技法	1) ヘルスアセスメントの意義と目的 2) 看護におけるフィジカルアセスメントの意義と目的 3) フィジカルアセスメントにおける診察技法 (1) 問診 (2) 視診 (3) 觸診 (4) 聽診 (5) 打診 4) 看護における観察・記録・報告 (1) 観察の意義と目的 生活の視点から身体状況を捉える 看護に必要な情報収集 (2) 観察の種類と方法 系統的観察と直感的観察 (3) 看護における記録・報告 記録の意義と目的 看護記録の法的位置づけ 看護記録の種類	講義	6	基 础 看 護 学 方 法 論 VIII と 関 連 さ せ て 学 ぶ
4 ～ 10	2 バイタルサイン の意味と測定方 法	1) バイタルサイン測定の意義 2) バイタルサインの基礎知識 (1) バイタルサインとは (2) バイタルサイン測定の目的 (3) バイタルサインの測定方法 ① 体温測定：変動因子、体温計の種類と測定部位、体温の観察 ② 呼吸測定：変動因子 ③ 脈拍測定・血圧測定：血圧の正常値と変動因子、血圧計の種類と扱い方、血圧の測定方法 (触診法、聴診法)	講義 演習	6 8	

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
		④ 意識レベル：意識障害の原因と分類、意識レベルの把握の仕方 3) バイタルサイン測定の実際 (1) 臨床におけるバイタルサイン測定の実際 (TAの参加)			
11 13	3 身体各部の測定	1) 身体計測の目的 2) 技術のポイント ①身長 ②体重 ③胸囲 ④腹囲 ⑤皮下脂肪厚など	講義 演習	2 4	身体計測(身長、体重、胸囲、腹囲測定)の演習
14 15	テスト	技術テスト 筆記テスト		2 2	技術テスト バイタルサイン測定

テキスト
 系統看護学講座専門分野 I 基礎看護学 [2] 基礎看護学技術 I 医学書院
 系統看護学講座専門分野 I 基礎看護学 [3] 基礎看護学技術 II 医学書院
 看護技術プラクティス第3版 学研
 参考文献
 ナーシング・グラフィカ⑮ 基礎看護学 基礎看護技術 メディカ出版
 新体系看護学全書第11巻 基礎看護学② 基礎看護学技術 I メヂカル
 フレンド社
 基礎看護学 考える基礎看護技術 I 看護技術の基本 ヌーヴェルヒロカワ
 評価方法
 テスト (筆記・技術)、レポート

科	目	名	基礎看護学方法論III
単	位	(時 間 数)	1 単位 (30 時間)
履	修	年 次	1 年次 前期
講	義	の 概 要	対象の日常生活行動に対する理解を深め、健康課題を有する対象の日常生活を整えるために必要な援助技術を科学的根拠に基づいて学ぶ。
目	標		1. 食事の意義を理解し、対象の食事・栄養を整える援助方法を実施できる。 2. 排泄の意義を理解し、対象の排泄を整える援助技術を習得する。 3. 活動と休息の意義を理解し、対象の活動と休息を整える援助技術を実施できる。

講 義 内 容

回	單 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
1 ↓ 3	1 食事・栄養を整える援助	1) 食事・栄養の意義 2) 食事・栄養の基礎知識 (1) 栄養素と栄養所要量 (2) 消化吸収のメカニズム (3) 食欲のメカニズム (4) 医療施設で提供される食事 (5) 栄養状態及び食欲・摂食能力のアセスメント 3) 食事援助の方法 (1) 援助方法の選択 (2) 食事の際の方法 (3) 食欲不振への援助 (4) 食事介助の方法 (嚥下障害、視力障害、体位制限、上肢の運動障害) (5) 誤嚥の予防 (6) 自助具の活用 (7) 観察と食後の援助（口腔ケア） 4) 食事援助の実際 (1) 食事介助 (2) 口腔ケア	講義 演習	4 2	食事介 助、口 腔ケア の演習 嚥下訓 練・経 管栄養 法は老 年看護 学にて 中心靜 脈栄養 法は、成 人看護 学にて
4 ↓ 8	2 排泄を整える援助	1) 排泄の意義 2) 自然排尿及び自然排便の基礎知識 (1) 排泄器官と機能と排泄のメカニズム (2) 排泄状態の観察とアセスメント (3) 排泄援助の際の基本的留意点 (4) 排泄行動の自立度に合わせた援助 ① トイレ・ポータブルトイレでの援助 ② 床上での援助 ③ 便器・尿器・オムツ 3) 自然排尿・自然排便の援助の実際 (1) 臨床における排泄援助の実際 (TA参加)	講義 演習	4 6	

回	単元	学習内容	授業形態	時間	備考
		(2) トイレにおける排泄援助 (3) 床上排泄援助 (4) オムツによる排泄援助			
9 ～ 13	3 活動・休息を整える援助	1) 活動の意義 2) 基本的活動の基礎知識 (1) 運動の効果 (2) 活動への援助 ① 活動の援助内容 ② 姿勢・体位の保持 ③ ボディメカニックスの活動と動作の経済性 3) 活動のアセスメント ① 日常生活動作の分類 ② アセスメントの視点 ③ 主な健康上の課題 4) 姿勢・体位 (1) 姿勢・体位を保持する物品と補助具 (2) 体位変換の援助 5) 移動 (1) 移動援助の基礎知識 (2) 移動の援助 6) 移乗・移送 (1) 移乗・移送の基礎知識 (2) 移乗・移送の援助 7) 睡眠・休息 (1) 睡眠の意義 (2) 睡眠・休息の基礎知識 睡眠制御のメカニズム (3) 睡眠・休息のアセスメント (4) 睡眠・休息への援助 8) 姿勢・体位の保持、移動及び移乗・移送の援助の実際 (1) 臨床における活動に関する援助の実際 (TA参加)	講義 演習	4 6	ストレッチャ一への移乗・ 移送はデモンストレーションのみ
14 ～ 15		技術テスト 筆記テスト		2 2	技術テスト 排泄の援助・E 体位変換

テキスト 系統看護学講座専門分野 I 基礎看護学 [3] 基礎看護学技術 II 医学書院

看護技術プラクティス第3版 学研

参考文献 ナーシング・グラフィカ⑯ 基礎看護学 基礎看護技術 メディカ出版

新体系看護学全書 基礎看護学⑬ 基礎看護学技術 II メディカルフレンド社

基礎看護学 考える基礎看護技術 I 看護技術の基本 ヌーヴェルヒロカワ

評価方法 テスト (筆記・技術)、レポート

科	目	名	基礎看護学方法論IV
単	位	(時 間 数)	1 単位 (30 時間)
履	修	年 次	1 年次 前期
講	義	の 概 要	<p>健康課題を有する対象の日常生活を整えるために必要な援助技術を科学的根拠に基づいて学ぶ。人間にとっての清潔の意義を理解し、身体各部の清潔の援助方法と衣生活を整える援助について学ぶ。</p> <p>また、対象の健康状態に焦点をあてた看護の方法を学ぶ。</p> <p>さらに、感染予防策として滅菌物の取扱いについての基礎知識・技術を学ぶ。</p>
目	標		<ol style="list-style-type: none"> 1. 清潔の意義を理解し、対象の清潔を整える援助技術を習得する。 2. 衣生活の意義を理解し、対象の衣生活を整える援助技術を習得する。 3. 対象の健康状態の特徴を学び、看護の役割と援助方法について理解する。 4. 滅菌物の取扱いの基礎知識を学び、基本的な技術を習得する。

講 義 内 容

回	单 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
1 ～ 10	1 身体各部の清潔を整える援助	<ol style="list-style-type: none"> 1) 身体清潔の意義（生理的、心理的、社会的意義） 2) 清潔援助の基礎知識 <ol style="list-style-type: none"> (1) 皮膚・粘膜の構造と機能 (2) 清潔援助の対象とアセスメントのポイント (3) 清潔のもたらす効果 (4) 患者の状態に応じた援助 3) 清潔援助の方法 <ol style="list-style-type: none"> (1) 入浴・シャワー浴 (2) 全身清拭 (3) 洗髪 (4) 手浴 (5) 足浴 (6) 陰部洗浄 (7) 洗面 (8) 整容 (爪切り・髭剃りなど) (9) 眼・耳・鼻の清潔 4) 清潔援助の実際 <ol style="list-style-type: none"> (1) 全身清拭 (2) 部分浴 (3) 洗髪 	講義 演習	2 14 3	部分浴、 洗髪の演習 技術テスト 全身清拭
11	2 衣生活を整える援助	<ol style="list-style-type: none"> 1) 病床での衣生活の意義 2) 衣生活の援助の基礎知識 <ol style="list-style-type: none"> (1) 衣生活に関するニーズのアセスメントのポイント (2) 衣生活の援助の方法 3) 衣生活の援助の実際 <ol style="list-style-type: none"> (1) 病衣の条件と選択 (2) 病衣・寝衣の交換 	講義 演習	2	生活科学との関連 技術テスト 臥床患者の寝衣交換

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
12	3 健康状態に応じた看護	1) 疾病の経過と対象の特徴 (1) 急性期の概念と対象のニーズ (2) 慢性期の概念と対象のニーズ (3) 回復期の概念と対象のニーズ (4) 回復期の概念と対象のニーズ (5) 終末期の概念と対象のニーズ 2) さまざまな健康状態の対象の特徴と看護のポイント (1) 健康の保持・増進、疾病予防の状態と看護のポイント (2) 健康の急激な破綻から回復の状態と看護にポイント (3) 健康の慢性的な揺らぎの再調整を必要とする状態と看護のポイント (4) 障がいのある状態とリハビリテーションを行う状態と看護のポイント (5) 人生の最期のとき	講義	2	
13 ～ 15	4 減菌物の取扱いの技術	1) 洗浄・消毒・滅菌 (1) 洗浄・消毒・滅菌の基礎知識 (2) 洗浄 (3) 消毒と滅菌 2) 減菌物の取扱い (1) 無菌操作の基礎知識 (2) 援助の実際 ① 減菌手袋の装着 ② 無菌操作	講義 演習 技術テスト	2 2 2	技術テスト 滅菌手袋、無菌操作
16		筆記テスト		1	

テキスト 系統看護学講座専門分野 I 基礎看護学 [3] 基礎看護学技術 II 医学書院
看護技術プラクティス第3版 学研

参考文献 ナーシング・グラフィカ⑯ 基礎看護学 基礎看護技術 メディカ出版
新体系看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護学技術 II メディカルフレンド社

評価方法 基礎看護学 考える基礎看護技術 I 看護技術の基本 ヌーヴェルヒロカワ
テスト(筆記・技術)、レポート

科	目	名	基礎看護学方法論V
単	位	(時 間 数)	1 単位 (30 時間)
履	修	年 次	1 年次 後期
講	義	の 概 要	臨床の場で活用する頻度が高く、健康課題を有する対象に共通している検査や、治療・処置時の援助技術である薬物療法、輸血療法に伴う基礎的技術を安全・安楽かつ的確に実施できるよう学ぶ。
目	標		<ol style="list-style-type: none"> 1. 診察・検査・処置時の看護役割を理解し、モデルを用いて静脈血採血の援助方法を実施できる。 2. 薬物療法における看護の役割を理解し、モデルを用いて注射法が安全に実施できる。 3. 輸血療法の目的や安全に実施するための方法について理解する。

講 義 内 容

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
1 ～ 7	1 診察・検査と看護	<ol style="list-style-type: none"> 1) 診察時の看護の役割 2) 検査の目的と意義 3) 検査における看護の役割 4) 主な検査・処置と介助法 <ol style="list-style-type: none"> (1) 静脈内採血の実際 (2) 侵襲的処置の介助技術 <ol style="list-style-type: none"> ① 穿刺の介助と援助 <ul style="list-style-type: none"> ・胸腔穿刺 ・腹腔穿刺 ・腰椎穿刺 ・骨髓穿刺 ② 洗浄の介助と援助 <ul style="list-style-type: none"> ・気管支洗浄 ・胃洗浄 ・膀胱洗浄 	講義 演習	6 8	静脈内採血の演習
8 ～ 13	2 薬物療法と看護	<ol style="list-style-type: none"> 1) 薬物療法における看護の役割 <ol style="list-style-type: none"> (1) 与薬とは(2) 与薬時の安全 2) 与薬経路の種類と身体への影響 3) 薬物療法時の援助方法 <ol style="list-style-type: none"> (1) 与薬法 <ol style="list-style-type: none"> ① 経口与薬 ② 点眼 ③ 点鼻 ④ 経皮的与薬 ⑤ 直腸内与薬 ⑥ 注射 <ul style="list-style-type: none"> ・筋肉内注射 ・点滴静脈内注射 ・皮下・皮内注射 4) 薬物療法時の援助の実際 	講義 演習	4 8	薬理学との関連 皮下・筋肉内・点滴静脈内注射・直腸内与薬の演習
14	3 輸血療法と看護	<ol style="list-style-type: none"> 1) 輸血療法の目的 2) 輸血製剤の種類と保管方法 3) 輸血療法実施時の観察 	講義	2	
15		筆記テスト		2	

- テ キ ス ト 系統看護学講座専門分野 I 基礎看護学 [3] 基礎看護学技術 II 医学書院
 系統看護学講座専門分野 I 基礎看護学 [4] 臨床看護総論 医学書院
 看護技術プラクティス第3版 学研
- 参 考 文 献 新体系看護学全書 基礎看護学④ 臨床看護論 メディカルフレンド社
- 評 価 方 法 テスト、レポート、参加態度

科	目	名	基礎看護学方法論VI
単	位	(時 間 数)	1 単位 (30 時間)
履	修	年 次	1 年次 後期
講	義	の 概 要	呼吸を整えるための酸素療法や吸入療法及び吸引療法、救命救急処置、創傷処置、苦痛緩和への援助に伴う基礎的技術を安全・安楽かつ的確に実施できるよう学ぶ。
目	標	1.	呼吸を整えるための看護の役割を理解し、援助技術を習得する。
		2.	救命救急における看護の役割を理解し、救命救急処置の基本的技術を実施できる。
		3.	創傷管理における基礎知識を理解し、基本的技術を実施できる。
		4.	苦痛緩和における基礎知識を理解し、温罨法の援助技術を実施できる。

講 義 内 容

回	單 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
1 ↓ 7	1 呼吸を整える援助	1) 吸入療法とは 2) 酸素吸入療法と看護 (1) 酸素吸入療法の基礎的知識 ① 酸素について ② 酸素吸入に使われる器具の基礎知識 ③ 器具の特徴 (2) 酸素吸入時のアセスメントと援助方法 3) 薬物噴霧療法（ネブライザー）と看護 (1) ネブライザーの構造と原理 (2) 吸入実施時のアセスメント 4) 吸引療法とは 5) 吸引の意義と目的 6) 吸引の原理と基礎知識 7) 吸引実施に関するアセスメント 8) 吸引の援助方法 (1) 一時吸引（口腔、鼻腔、気管）の実際 (2) 持続吸引法 9) 臨床における呼吸を整える援助の実際（TA参加）	講義 演習 技術テスト	8 4 2	酸素・ネ ブライ ザー吸 入・酸素 ボンベ の操作・ 一時吸 引(口腔、 鼻腔、気 管)の演 習
8 ↓ 10	2 救命救急と看護	1) 救命救急処置の基礎知識（B L S） 2) 心肺蘇生法	講義 演習	2 4	B L S の演習
11 ↓ 12	3 創傷管理の技術	1) 創傷管理 (1) 創傷処置の意義と目的 (2) 創傷管理の基礎知識 (3) 援助の実際 2) 包帯法 (1) 包帯法の基礎知識 (2) 援助の実際	講義 演習	2 2	創処置、 包帯法の 演習

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
13 14	8 苦痛緩和の援助	1) 人間にとての痛み、発熱の概念 2) 痛み、発熱に影響する心理的要因 3) 痛み、発熱のメカニズム 4) 痛み、発熱の基本的な治療と看護 5) 身体の安楽を図るための罨法の技術 (1) �罨法の技術の目的と援助の実際	講義 演習	2 2	罨 法 の 演習
15		筆記テスト		2	

テ キ ス ト 系統看護学講座専門分野 I 基礎看護学 [3] 基礎看護学技術 II 医学書院
 系統看護学講座専門分野 I 基礎看護学 [4] 臨床看護総論 医学書院
 看護技術プラクティス第3版 学研

参 考 文 献 新体系看護学全書 基礎看護学④ 臨床看護論 メディカルフレンド社
 評 価 方 法 テスト (筆記・技術)、レポート

科 目 名	基礎看護学方法論VII
単 位 (時 間 数)	1 単位 (30 時間)
履 修 年 次	1 年次 後期
講 義 の 概 要	看護実践とは看護を必要とする対象の看護問題やその原因を明らかにし、それに対して看護師がどのような援助を行っていくかを具体的目標とともに表明したうえで、その目標や援助の計画にそって看護技術を駆使し実践を行い、評価し、さらに次の実践へつなげていく螺旋階段のような営みである。看護過程は、看護を実践するための手段や考え方のことであり、看護を系統的かつ科学的に行うための問題解決過程である。本講義では看護過程の基礎知識や展開方法について学習する。
目 標	1. 看護過程の概念を理解する。 2. 事例を通して看護過程の展開技術の基本を習得する。

講 義 内 容

回	单 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備 考
1	1. 看護過程の基 になる考え方	1) 看護過程を使う意義 2) 看護過程の基礎知識 (1) 看護過程とは (2) 看護過程の構成要素 (3) 看護過程の構成要素の関係性 ①連続的なプロセス ②循環的なプロセス 3) 看護過程の基盤となる考え方 (1) 問題解決過程 (2) クリティカルシンキング 4) 看護過程と看護理論の関係	講義	2	
2 ～ 5	2. 看護過程の構 成要素	1) アセスメント (1) 情報の分類・整理 (2) 情報の解釈・分析 (3) 全体像 2) 看護問題の明確化 (1) 看護問題の抽出 (2) 優先順位の決定 3) 看護計画の立案 (1) 目標の表現：長期目標、短期目標 (2) 具体策 ①観察計画 (OP) ②直接ケア計画 (TP) ③教育計画 (EP) 、指導案 4) 実施 5) 評価	講義	12	教育学、 論理的思 考、基礎 看護学概 論II、基 礎看護学 方法論II との関連
6	3. 看護記録	1) 看護記録の形式 (実践の記録) (1) 叙述的記録 (2) P O S と S O A P (3) フォーカスチャーティング 2) その他 (1) 要約 (サマリー)		2	基礎看護 学方法論 II : 単元 1-4) 関 連

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備 考
7 ～ 14	4. 看護過程展開の実際	1) ペーパーペイシェントでの事例展開 (1) アセスメント (2) 全体像 (3) 看護問題の明確化 (4) 看護計画の立案	演習	16	グループ発表
15	5.まとめ	1) 看護過程のまとめ・演習のふり返り	講義 演習	1	
16		筆記テスト		1	

テ キ ス ト 系統看護学講座専門分野 I 基礎看護学 [2] 基礎看護学技術 I 医学書院
看護過程に沿った対症看護 Gakken

参 考 文 献 新体系看護学全書 基礎看護学④ 臨床看護論 メディカルフレンド社
新体系看護学全書 基礎看護学② 基礎看護学技術 I メディカルフレンド社

評 価 方 法 テスト、レポート

科	目	名	基礎看護学方法論VIII		
単	位	(時間数)	1単位(30時間)		
履	修	年次	2年次 前期		
講	義	の概要	看護師の活動の場が拡大していく中で、看護職者が独自の判断を必要とする場面が増え、看護師には対象の身体状況を客観的・系統的に観察する能力が求められている。対象に合った援助を行うためには、対象を統合体として捉えることは欠かせない。本講義では、看護師の「目」「手」「耳」を使った診察技法を学ぶ。		
目標	形態と機能・病理学・疾病治療学で学んだ知識と関連させ、看護におけるフィジカルアセスメントを学ぶ。その中で、フィジカルイグザミネーションを用いた対象の健康状態をアセスメントする方法を体験的に学ぶ。				
目標	1. 身体状況や症状・徵候にあわせたフィジカルイグザミネーションを実施できる。 2. フィジカルイグザミネーションで得た情報からアセスメントできる。				

講義内容

回	単元	学習内容	授業形態	時間	備考
1 ～ 9	1. 身体機能別のフィジカルアセスメント	1) フィジカルアセスメントと基本技術 (1) フィジカルアセスメントの組み立てと階層性 (2) 基本技術 2) 身体機能別フィジカルアセスメントの実際 (1) 呼吸系・循環系の共通項と呼吸系 (2) 循環系 (3) 消化系 (4) 感覚系・中枢神経系・運動系	講義 演習	2 16	運動系 は老年 看護学 FIMとの 関連
10 ～ 13	2. 症状・徵候からのフィジカルアセスメント	1) 症状からのフィジカルアセスメント (1) 胸が痛い (2) お腹が痛い (3) 息が苦しい (4) むくみがある	講義 演習	8	
14 ～ 15	3. フィジカルアセスメントの活用	1) フィジカルイグザミネーションを活用した対象の全身状態の把握 (1) フィジカルイグザミネーションとアセスメント (2) SBAR	講義 技術テスト	2 2	技術 テスト

テキスト	系統看護学講座専門分野 I 基礎看護学 [2] 基礎看護学技術 I 医学書院 フィジカルアセスメントガイドブック 医学書院
参考文献	新体系看護学全書 基礎看護学④ 臨床看護論 メディカルフレンド社
評価方法	テスト(技術)、レポート、参加態度

専門分野 II

成人看護学

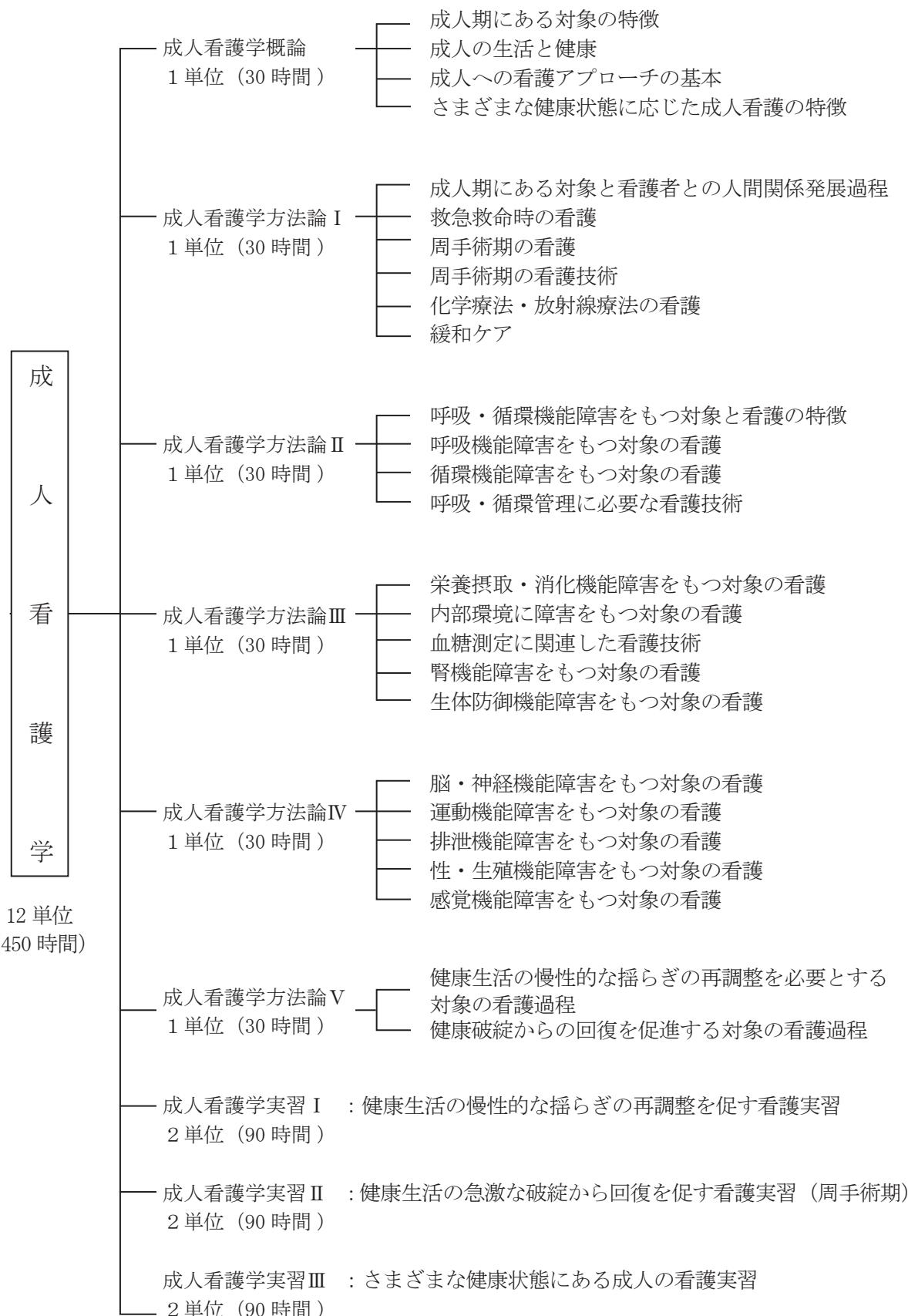
目的

成人期にある対象の特徴、健康上の課題をとらえ、健康の状態に応じた看護を実践するための基礎的能力を養う。

目標

1. 成人期にある対象を尊重し、人間関係を円滑にするための能力を身につける。
2. 成人期にある対象を生活者として統合的に理解する能力を身につける。
3. 成人期にある対象の健康上の課題を科学的根拠に基づいて判断し、看護実践できる基礎的能力を身につける。
4. 保健医療福祉制度と他職種との連携、保健医療チームの一員として看護の役割を理解する。
5. 看護実践を通して成人看護に対する考え方を深め、主体的に学習する力を身につける。

科目構成



科	目	名	成人看護学概論
単	位	(時 間 数)	1 単位 (30 時間)
履	修	年 次	1 年次 後期
講	義	の 概 要	<p>成人期にある対象を生活者、成長・発達およびさまざまな健康状態の側面から理解する。成人期において発達課題を達成しつつある対象を身体的・精神的・社会的側面からとらえ、成人の特性を学ぶ。また成人の生活と健康の動向を学び、成人期における健康の保持・増進及び疾病の予防の重要性を理解し、さらに健康日本21などの健康戦略を学習し、成人期における健康を保つシステムを理解する。成人期にある対象を健康生活の急激な破綻から回復を促す看護、健康生活の慢性的な揺らぎの再調整を促す看護、障害を持ちながらの生活とリハビリテーションを支える看護、人生の最期のときを支える看護を必要とする対象の看護の特徴を学ぶ。</p> <p>また、成人は自立した存在であることから、セルフケア能力を向上させるかかわりと成人への基本的アプローチと看護に必要な概念を学び、倫理的配慮と看護者の役割について考える。看護実践の最も重要な基盤となる、人間関係を発展させるプロセスを学ぶ。</p>
目	標		<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人期にある対象の特徴を理解する。 2. 成人期にある対象の健康を生活の視点から多面的に理解する。 3. 成人期における健康を支えるシステムを理解する。 4. 成人のさまざまな健康状態に応じた看護の特徴を理解する。 5. 成人期にある対象を援助する時の基本的アプローチについて理解する。 6. 成人期にある対象への倫理的配慮から看護の役割を理解する。

講 義 内 容

回	单 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
1 2	1 成人期にある対象の特徴	1) 成人看護学の概念と構成 (1) 成人看護学の対象論 (2) 成人看護学の援助論 2) 成人の特性 (1) 成人の区分 (2) 成人の発達段階と課題 ① エリクソンの発達理論 ② ハビガーストの発達課題 (3) ライフサイクルの中での成人の位置づけと意義 (4) 成人各期の特徴 (青年期・壮年期・向老期) (5) 家族からとらえる成人	講義	4	
3 4	2 成人の生活と健康	1) 成人の生活からとらえる健康 (1) 成人の生活の特徴 (2) 健康状況 2) 生活と健康を守りはぐくむシステム (1) 保健医療福祉システムの概要 ① 保健にかかわる対策 ア) 健康増進・生活習慣病対策 イ) 健康日本21（第2次） ウ) 健康増進法	講義	4	

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
		エ) 新健康フロンティア戦略 オ) がん対策基本法 カ) 特定健康診査と特定保健指導 ② 健康危機管理への対応 ア) 医療にかかる対策 イ) 福祉にかかる対策 ウ) 保健医療福祉システムの連携			
5 6	3 成人への看護アプローチの基本	1) 成人への看護アプローチの基本 (1) 健康行動を生みはぐくむ援助 ① 継続看護と健康教育 ア) 成人教育学(アンドラゴジー) (2) 健康問題を持つ成人と看護師の人間関係 2) 成人の対象を支える看護のアプローチ (1) 成人看護における援助関係発展過程の特徴 ① 関係確立の段階 ② 関係発展の段階 ③ 関係終結の段階 3) 家族支援 4) 成人看護における倫理と看護者の役割 (1) 医療の場における倫理的課題 (2) 倫理的判断の基盤となるもの (3) 倫理的課題へのアプローチ	講義	4	
7 14	4 さまざまな健康の状態に応じた成人の看護の特徴	1) 健康の保持・増進、疾病の予防に向けた看護 (1) ヘルスプロモーションの概念 (2) 健康バランスに影響を及ぼす要因 ① ストレスの予防と緩和 (3) 生活行動がもたらす健康問題とその予防 (4) 地域や労働場における看護活動 2) 健康生活の急激な破綻から回復を促す看護 (1) 生命の危機状態にある対象の理解 ① 生命の危機状態 ② 急激な健康破綻をきたした人の特徴 ア) 侵襲刺激に対する生体反応 イ) 侵襲期の心理反応 ウ) 健康破綻による危機状況 ③ 看護援助に必要な概念 ア) 危機的理論 3) 健康生活の慢性的な揺らぎの再調整を促す看護 (1) 慢性の経過をたどる患者の経験する無力感	講義 講義 講義	2 2 4	外来講師

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
		<p>(2) 病みの軌跡</p> <p>(3) セルフケア行動形成への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ① セルフケアとは ② セルフマネジメント(自己管理) <p>(4) 慢性病との共存の過程を支える看護</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 自己管理への取り組み ② セルフマネジメントプログラム <ul style="list-style-type: none"> ア) 自己効力理論 ③ 社会的支援の獲得 <ul style="list-style-type: none"> ア) 患者会・家族会 イ) 特定疾患治療研究事業 ④ セルフマネジメント構成要素 <ul style="list-style-type: none"> ア) 患者に必要な知識と技術 <ul style="list-style-type: none"> コンプライアンス、アドヒアランス、コンコーダンス イ) 自己効力 ウ) QOL エ) エンパワーメント <p>4) 障がいを持ちながらの生活とリハビリテーションを支える看護</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 障がいとは (2) 障がいへの適応と社会復帰への看護 (3) 障がい受容・改善・克服への援助 <ul style="list-style-type: none"> ① 障害受容と価値の変換 ② 障害受容への影響因子 ③ 障害受容の段階に応じた援助 ④ 障がいの改善と克服への援助 ⑤ 機能障害と日常生活動作の制限のアセスメント ⑥ 障がいを持ちながら生活する人を支援する看護 ⑦ チーム医療・保健医療福祉の連携 (4) 社会資源の活用 <p>5) 人生の最期のときを支える看護</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 終末期・緩和ケア看護の概観 <ul style="list-style-type: none"> ① 終末期・緩和ケアとは ② 終末期にある人の療養の場 ③ 死をめぐる倫理的課題 <ul style="list-style-type: none"> ア) 真実を伝える イ) 意思決定 ウ) 意思表示 エ) 尊厳死 ④ 全人的苦痛の理解 (2) 人生の最期のときを過ごしている対象の特徴と看護の役割 <ul style="list-style-type: none"> ① 終末期にある対象の特徴 <ul style="list-style-type: none"> ア) 身体的特徴 	講義	2	

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
		イ) 精神的・社会的特徴 ② 終末期にある対象の死にゆくことに対する態度の特徴 ア) 死にゆく人の心理過程 ③ 終末期にある対象の家族 ア) 家族の捉え方 イ) 精神的苦痛・社会的苦痛 ④ 終末期にある対象への看護援助 ⑤ 終末期にある対象の家族への援助 (3) 人生の最期のときを支える看護における概念 ① キューブラ・ロスのモデル			
15		テスト		2	

テキスト 系統看護学講座 専門II 成人看護学 [1] 成人看護学総論 医学書院
 系統看護学講座 専門I 基礎看護学 [4] 臨床看護総論 医学書院
 厚生統計協会編 国民衛生の動向

参考文献 成人看護学 成人看護学概論 ヌーヴェルヒロカワ
 緩和・ターミナルケア看護論 ヌーヴェルヒロカワ
 ナーシンググラフィカ 22 成人看護学 成人看護学概論 メディカ出版

評価方法 テスト

科	目	名	成人看護学方法論 I
単	位	(時 間 数)	1 単位 (30 時間)
履	修	年 次	1 年次 後期
講	義	の 概 要	健康の急激な破綻から回復の状態にある対象と看護の人間関係発展過程を紙上事例で理解し、救急救命時、周手術期その状況に応じた看護の特徴、術後合併症予防に必要な周手術期の看護技術を学ぶ。さらに、侵襲的治療の代表的な化学療法、放射線療法を受ける対象の特徴と看護、緩和ケアについて学ぶ。
目	標		<ol style="list-style-type: none"> 1. 救急看護の特徴を理解する。 2. 周手術期の看護について理解する。 3. 急性期・周手術期の代表的な看護技術を習得する。 4. 侵襲的な治療の看護の特徴を理解する。 5. 緩和ケアを受ける対象の症状緩和と看護の役割について理解する。

講 義 内 容

回	单 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
1 ～ 6	1 健康の急激な破綻から回復の状態	<ol style="list-style-type: none"> 1) 救急処置法の実際 <ol style="list-style-type: none"> (1) 救急処置の範囲と対象 (2) 救急処置法の原則と実際 2) 救急看護の実際 <ol style="list-style-type: none"> (1) 救急医療の現状 (2) 救急看護の役割 (3) 救急患者発生時の看護 (4) 急性中毒の対処 (5) 外傷・熱傷・骨折時の看護 (6) 周手術期看護の概論 (7) 手術前患者の看護 <ol style="list-style-type: none"> (1) 手術前の具体的援助 (8) 手術中患者の看護 <ol style="list-style-type: none"> (1) 手術室における看護の展開 (2) 手術室の環境管理 (9) 手術後患者の看護 <ol style="list-style-type: none"> (1) 手術後の回復を促進するための看護 (2) 術後合併症の発生機序 (3) おこりやすい術後合併症の予防と発症時の対応 (4) 自己管理に向けた援助 	講義	6	
7 ～ 9	2 周手術期の看護技術	<ol style="list-style-type: none"> 1) 術前訓練の実際 <ol style="list-style-type: none"> (1) 呼吸訓練 (インスピレックス・トリフロー等) (2) 静脈血栓予防法 (弾性ストッキング) 2) 創傷処置のためのガーゼ交換 <ol style="list-style-type: none"> (1) ドレーン類の挿入部の処置 	講義 デモ/演習	2 4	技術到達番号 7-4) II 7-6) III 7-7) IV

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
10 ↓ 12	3 化学療法・放射線療法の看護	1) 化学療法を受ける患者の特徴と理解 2) 化学療法を受ける患者の看護 (1) 化学療法の特徴 (2) 化学療法を受ける患者・家族への看護援助 3) 放射線療法を受ける患者の看護 (1) 放射線療法とは (2) 放射線療法を受ける患者・家族への看護	講義 講義 講義	2 2 2	外 来 講 師 技術到達 番号 12-8) IV 疾病治療 学 I を想 起する。
13 14	4 緩和ケア	1) がん看護における緩和ケア 2) 終末期における緩和ケア	講義	4	外来講師
15		テスト		2	

テ キ ス ト 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院
 系統看護学講座 専門 I 基礎看護学 [4] 臨床看護総論 医学書院
 系統看護学講座 専門 II 成人看護学 [1] 成人看護学総論 医学書院
 講義から実習へ 高齢者と成人の周手術期看護 2 術中 / 術後の生体反応
 と急性期看護 医歯薬出版株式会社

参 考 文 献 周術期看護 安全・安楽な看護の実践 インターメディカ
 ナーシンググラフィカ 成人看護学 [4] 周術期看護 メディカ出版
 成人看護学 救急看護論 ヌーヴェルヒロカワ
 成人看護学 緩和・ターミナルケア看護論 ヌーヴェルヒロカワ
 がん看護学 臨床に活かすがん看護の基礎と実践 ヌーヴェルヒロカワ
 系統看護学講座 別巻 6 臨床検査 医学書院

評 価 方 法 テスト

科	目	名	成人看護学方法論Ⅱ
単	位	(時 間 数)	1 単位 (30 時間)
履	修	年 次	1 年次 後期
講	義	の 概 要	ライフサイクルにおける成人期の特徴をふまえ、生命と生活を維持している呼吸・循環機能に障害をもつ対象について理解し、看護の役割と援助方法について学ぶ。また、呼吸循環管理に必要な看護技術を学ぶ。
目	標		<ol style="list-style-type: none"> 1. 呼吸・循環機能に障害を持つ対象を理解する。 2. 呼吸・循環機能障害をもつ対象への看護の役割と方法について理解する。 3. 呼吸・循環管理に必要な看護技術を習得する。

講 義 内 容

回	單 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
1	1 呼吸・循環機能障害をもつ対象と看護の特徴	1) 呼吸・循環機能障害をもつ患者の理解と看護の役割 (1) 身体的問題と援助 (2) 精神・社会的問題 (3) 疾患の経過と看護 (4) 継続看護	講義	2	
2 ～ 7	2 呼吸機能障害をもつ対象の看護	1) 症状に対する看護 (1) 咳嗽・喀痰 (2) 血痰・喀血 (3) 胸痛 (4) 呼吸困難 2) 検査を受ける患者の看護 (1) 内視鏡検査 (2) 肺組織の生検 (3) 呼吸機能検査 (4) 動脈血ガス分析 3) 治療・処置を受ける患者の看護 (1) 吸入療法を受ける患者の看護 (2) 酸素療法を受ける患者の看護 (3) 人工呼吸器を装着する患者の看護 (4) 気管切開を受ける患者の看護 (5) 胸腔ドレナージを受ける患者の看護 4) 代表的な呼吸器疾患のある患者の看護 (1) 肺炎患者の看護 (2) 気管支喘息患者の看護 (3) 慢性呼吸不全患者の看護 (4) 肺がん患者の看護 (5) 自然気胸患者の看護	講義	8	外来講師 疾病治療 学Ⅱを想起する。

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
		5) 呼吸理学療法の実際 (1) 体位ドレナージ・スクイージング	デモ演習	4	外来講師 学生間で 体位ドレ ナージ 技術到達 番号 6-9)
8 ～ 12	3 循環機能障害を もつ対象の看護	1) 循環機能障害の把握と看護 (1) 胸痛 (2) 心不全 (3) 不整脈 (4) ショック 2) 検査・治療・処置を受ける患者の 看護 (1) 薬物療法 (2) 心臓カテーテル検査、心血管造影 検査 (3) 12誘導心電図 (4) 経皮的冠動脈形成術への援助 3) 代表的な循環機能障害のある患者 の看護援助 (1) 心筋梗塞患者の看護 ① 看護アセスメント ② 看護援助 (2) 不整脈患者の看護 ① 看護アセスメント ② 看護援助 ③ ペースメーカー装着時の援助 (3) 心不全患者の看護 ① 看護アセスメント ② 看護援助	講義	10	外来講師 疾病治療 学Ⅱを想 起する。
13 ～ 14	4 呼吸・循環管理 に必要な看護技 術	1) ME機器についての基礎知識と看 護 2) ME機器の実際 (1) 心電図 (2) 人工呼吸器 (3) 輸液ポンプの基本的操作 (4) シリンジポンプの基本的操作	講義 デモ 演習	4	外来講師 人間工学 「生活環 境と物 理」を想 起する。 技術到達 番号 6-13) IV 8-10) III
15		テスト		2	

テキスト	系統看護学講座 専門II 成人看護学 [3] 循環器 医学書院 系統看護学講座 専門II 成人看護学 [2] 呼吸器 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 看護技術プラクティス 学研
参考文献	完全版ベッドサイドを科学する 看護に生かす物理学 学研 フィジカルアセスメント完全ガイド 学習研究社 成人看護学 急性期看護論 ヌーヴェルヒロカワ 系統看護学講座 別巻6 臨床検査 医学書院 根拠がわかる 成人看護技術 メディカルフレンド社
評価方法	テスト

科	目	名	成人看護学方法論III
単	位	(時 間 数)	1 単位 (30 時間)
履	修	年 次	2 年次 前期
講	義	の 概 要	ライフサイクルにおける成人期の特徴をふまえ、疾病コントロールを必要とする対象のセルフケア行動形成への支援について理解すると共に、生命と生活を維持している機能に障害をもつ対象の特徴を理解し、機能障害に応じた看護の役割と援助方法について学ぶ。成人看護学の特徴的な看護技術を学ぶ。
目	標		1. 疾病コントロールを必要とする対象を理解する。 2. 生活の自己コントロールに向けた看護の役割と方法を理解する。 3. 疾病コントロールに向けての看護技術を習得する。

講 義 内 容

回	單 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
1 ↓ 4	1 栄養摂取・消化機能障害をもつ対象の看護	1) 栄養摂取・消化機能障害をもつ患者の理解と看護の役割 (1) 身体的問題と援助 (2) 精神・社会的問題 (3) 疾患の経過と看護 (4) 継続看護 2) 栄養摂取・消化機能障害の把握と看護 (1) 噫下困難 (2) 吐きけ・嘔吐 (3) 腹痛 (4) 吐血・下血 3) 検査・治療・処置を受ける患者の看護 (1) 消化管内視鏡検査時の援助 (2) 中心静脈栄養法の適用と管理 4) 代表的な栄養摂取・消化機能障害のある患者の看護 (1) 食道がん患者の看護 (2) 胃十二指腸疾患患者の看護 (3) 膵炎患者の看護 5) 肝機能障害をもつ患者の理解と看護の役割 (1) 身体的問題と援助 (2) 精神・社会的問題 (3) 疾患の経過と看護 (4) 継続看護 6) 肝機能障害の把握と看護 (1) 黄疸 (2) 肝性脳症 7) 検査・治療・処置を受ける患者の看護 (1) 肝生検時の援助 (2) インターフェロン療法時の援助 (3) 食道静脈瘤硬化療法時の援助	講義	4	疾病治療学IIIを想起する。 技術到達番号 8-13) IV

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
		(4) 腹腔鏡下手術時の援助 (5) 胆汁瘻の管理と指導 8) 代表的な肝機能障害のある患者の看護 (1) 慢性肝炎・肝硬変患者の看護 (2) 食道静脈瘤患者の看護 (3) 胆囊疾患患者の看護			
5 8	2 内部環境に障害をもつ対象の看護	1) 体温調節機能に障害をもつ患者の理解と看護の役割 (1) 身体的問題と援助 (2) 精神・社会的问题 (3) 疾患の経過と看護 2) 体温調節機能障害の把握と看護 (1) 高体温 (2) 低体温 3) 検査・治療・処置を受ける患者の看護 (1) 薬物療法 (2) 冷却法 (3) 保温 4) 体温調節機能障害のある患者の看護 (1) 热中症患者の看護 5) 内分泌機能障害をもつ患者の理解と看護の役割 (1) 身体的問題と援助 (2) 精神・社会的问题 (3) 疾患の経過と看護 (4) 継続看護 6) 内分泌機能障害の把握と看護 (1) 甲状腺クリーゼ (2) 神経・筋症状 7) 検査・治療・処置を受ける患者の看護 (1) ホルモン補充療法・抗ホルモン療法の生活指導 (2) ホルモンバランス失調状態の生活指導 8) 代表的な内分泌機能障害のある患者の看護 (1) 甲状腺機能亢進症患者の看護 9) 代謝機能障害をもつ患者の理解と看護の役割 (1) 身体的問題と援助 (2) 精神・社会的问题 (3) 疾患の経過と看護 (4) 継続看護	講義	8	疾病治療学Ⅲを想起する。

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
		10) 代謝機能障害の把握と看護 (1) 低血糖昏睡 (2) ケトアシドーシス 11) 検査・治療・処置を受ける患者の看護 (1) ブドウ糖負荷試験 (2) インスリン療法 12) 代表的な代謝機能障害のある患者の看護 (1) 糖尿病患者の看護 ① 自己管理に伴う指導と看護 (2) 脂質異常症患者の看護 (3) 高尿酸血症患者の看護			技術到達番号 8-21) IV 8-22) IV
9	3 血糖測定に関連した看護技術	1) 血糖測定に関連した知識・技術の習得と指導のあり方 (1) 簡易血糖測定体験	演習	2	技術到達番号 10-7) II
10 ↓ 12	4 腎機能障害をもつ対象の看護	1) 腎機能障害をもつ患者の理解と看護の役割 (1) 身体的問題と援助 (2) 精神・社会的問題 (3) 疾患の経過と看護 (4) 継続看護 (5) 社会資源の活用 2) 腎機能障害の把握と看護 (1) 浮腫 (2) 高血圧 3) 検査・治療・処置を受ける患者の看護 (1) 尿検査 (2) 腎機能検査 (3) 腎生検 (4) 透析療法時の看護 ① 保存期から透析導入期の対象の看護 ② 透析療法適用基準と選択 ③ 血液透析・腹膜透析の管理 ア) 導入期 イ) 維持期 ウ) 慢性期 ④ シヤントの管理 ⑤ カテーテルによる血液透析の管理 4) 代表的な腎機能障害のある患者の看護 (1) 腎不全患者の看護 (2) 腎移植術を受ける患者の看護	講義	6	疾 治 病 療 学 IV を 想 起 す。

回	単元	学習内容	授業形態	時間	備考
13	5 生体防御機能の障害をもつ対象の看護	1) 免疫機能障害をもつ患者の理解と看護の役割 (1) 身体的問題と援助 (2) 精神・社会的问题 (3) 疾患の経過と看護 (4) 継続看護 2) 免疫機能障害の把握と看護 (1) 発熱 (2) 関節痛・関節炎 (3) 皮疹 (4) レイノー現象 3) 検査・治療・処置を受ける患者の看護 (1) 炎症反応 4) 代表的な免疫不全のある患者の看護 (1) 全身性エリテマトーデス (2) 後天性免疫不全症候群< AIDS > 5) 造血機能障害のある対象の理解と看護の役割 (1) 身体的問題と援助 (2) 精神・社会的问题 (3) 疾患の経過と看護 (4) 継続看護 6) 造血機能障害の把握と看護 (1) 貧血 (2) 出血傾向 7) 検査・治療・処置を受ける患者の看護 (1) 骨髄穿刺時の看護 (2) 骨髄移植・幹細胞移植での看護 (3) 化学療法 8) 代表的な造血機能障害のある患者の看護 (1) 白血病患者の看護 (2) 悪性リンパ腫患者の看護 (3) 再生不良性貧血患者の看護	講義	4	疾病治療学Ⅲを想起する。
14		テスト		2	

テキスト 統一看護学講座 専門II 成人看護学 [5] 消化器 医学書院
 統一看護学講座 専門II 成人看護学 [6] 内分泌・代謝 医学書院
 統一看護学講座 専門II 成人看護学 [8] 腎・泌尿器 医学書院
 統一看護学講座 専門II 成人看護学 [4] 血液・造血器 医学書院
 統一看護学講座 専門II 成人看護学 [11] アレルギー 膠原病 感染症
 医学書院

参考文献 ナーシング・グラフィカ 内部環境調節障害・性生殖機能障害 メディカル出版
 根拠がわかる 成人看護技術 メディカルフレンド社

評価方法 テスト

科	目	名	成人看護学方法論IV
単	位	(時 間 数)	1 単位 (30 時間)
履	修	年 次	2 年次 前期一後期
講	義	の 概 要	ライフサイクルにおける成人期の特徴をふまえ、生活行動制限のある対象のセルフケア再獲得に向け、ボディイメージの変化や障害をもちらながら生活する対象の特徴を知り、必要な援助方法と看護の役割について学ぶ。さらに、生命と生活を維持している機能に障害をもつ対象の特徴を理解し、機能障害に応じた看護の役割と援助方法について学ぶ。
目	標		<ol style="list-style-type: none"> 1. 生活行動に制限のある対象の特徴を理解する。 2. ボディイメージの変化を伴う対象を理解する。 3. ボディイメージの変化や障害をもちらながら生活する対象の特徴を知り看護の役割と方法を理解する。

講 義 内 容

回	单 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
1 ↓ 3	1 脳・神経機能障害をもつ対象の看護	<ol style="list-style-type: none"> 1) 脳・神経機能障害をもつ患者の理解と看護の役割 <ol style="list-style-type: none"> (1) 身体的問題と援助 (2) 精神・社会的問題 (3) 疾患の経過と看護 (4) 継続看護 2) 脳・神経機能障害の把握と看護 <ol style="list-style-type: none"> (1) 頭蓋内圧亢進症状 (2) 運動麻痺 (3) 意識障害 (4) 高次脳機能障害 (失認・失行、構音障害・失語症) 3) 主な検査・治療・処置に伴う看護 <ol style="list-style-type: none"> (1) 隆液検査時の援助 (2) 脳血管撮影 (3) 脳CT (4) 脳室ドレナージ (5) 高次脳機能障害のリハビリテーション 4) 代表的な脳・神経機能障害のある患者の看護 <ol style="list-style-type: none"> (1) クモ膜下出血の手術療法を受ける患者の看護 (2) 脳梗塞患者の看護 	講義	6	疾 病 治 療 学 V を 想 起 す。
4 ↓ 5	2 運動機能障害をもつ対象の看護	<ol style="list-style-type: none"> 1) 運動機能障害をもつ患者の理解と看護の役割 <ol style="list-style-type: none"> (1) 身体的問題と援助 (2) 精神・社会的問題 (3) 疾患の経過と看護 (4) 継続看護 2) 運動機能障害の把握と看護 <ol style="list-style-type: none"> (1) 神経障害 (2) 循環障害とフォルクマン拘縮 	講義	4	疾 病 治 療 学 V を 想 起 す。

回	单 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
		3) 治療に伴う看護 (1) ギプス固定 4) 代表的な運動機能障害のある患者の看護 (1) 関節リウマチ患者の看護 (2) 腰椎椎間板ヘルニア患者の看護			
6 ↓ 11	3 排泄機能障害をもつ対象の看護	1) 排泄機能障害をもつ患者の理解と看護の役割 (1) 身体的問題と援助 (2) 精神・社会的问题 (3) 疾患の経過と看護 (4) 継続看護 2) 排尿機能の検査に伴う看護 (1) 膀胱鏡検査時の援助 3) 排便機能の検査に伴う看護 (1) 大腸内視鏡検査時の援助 (2) 直腸診時の援助 4) 排尿機能障害のある患者の看護 (1) 間欠的自己導尿法の指導 (2) 腹圧性尿失禁の運動訓練と生活 (3) 膀胱留置カテーテルの挿入の実際 ① 術前看護 ② 術後看護 (4) 尿路変更術を受ける患者の看護 5) 排便機能障害のある患者の看護 (1) ストーマ造設術を受ける患者の看護 ① 術前看護 ② 術後看護	講義 演習 講義/演習	4 4 4	疾病治療学III、IVを想起する。 技術到達番号 3-8) II 3-9) III 外来講師技術到達番号3-13) IV
12 ↓ 13	4 性・生殖機能障害をもつ対象の看護	1) 性・生殖機能障害をもつ患者の理解と看護の役割 (1) 身体的問題と援助 (2) 精神・社会的問題 (3) 疾患の経過と看護 (4) 継続看護 2) 性・性機能障害の把握と看護 (1) 性交・生殖障害 3) 治療・処置・検査を受ける患者の看護 (1) 内診、性機能検査時の看護 (2) 術後の機能訓練 4) 代表的な性・生殖機能障害のある患者の看護 (1) 乳がん患者の看護 (2) 子宮がん患者の看護	講義	4	

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
14	5 感覚機能障害をもつ対象の看護	1) 感覚機能障害をもつ患者の理解と看護の役割 (1) 身体的問題と援助 (2) 精神・社会的问题 (3) 疾患の経過と看護 (4) 継続看護 2) 感覚機能障害の把握と看護 (1) 耳漏 (2) 嘎声 (3) 視野の異常 ① 緑内障 (4) 視力低下 3) 治療、処置、検査を受ける患者の看護 (1) 内視鏡検査 (2) 点眼投与時の看護 4) 代表的な感覚機能障害のある患者の看護 (1) 中耳炎患者の看護 (2) 喉頭がん患者の看護	講義	2	疾 病 治 療 学 V を想起する。
15		テスト		2	

テキスト	系統看護学講座	専門II	成人看護学	[7] 脳・神経	医学書院
	系統看護学講座	専門II	成人看護学	[10] 運動器	医学書院
	系統看護学講座	専門II	成人看護学	[8] 腎・泌尿器	医学書院
	系統看護学講座	専門II	成人看護学	[5] 消化器	医学書院
	系統看護学講座	専門II	成人看護学	[9] 女性生殖器	医学書院
	系統看護学講座	専門II	成人看護学	[14] 耳鼻咽喉	医学書院
	系統看護学講座	専門II	成人看護学	[13] 眼	医学書院
参考文献	系統看護学講座	別巻	臨床外科看護各論	医学書院	
	根拠がわかる 成人看護技術		メヂカルフレンド社		
評価方法	テスト				

科	目	名	成人看護学方法論V
単	位	(時 間 数)	1 単位 (30 時間)
履	修	年 次	2 年次 前期ー後期
講	義	の 概 要	成人の健康の状態に応じた看護の特徴を踏まえ、慢性的な揺らぎの再調整を必要とする対象、健康生活の急激な破綻から回復にある対象の事例を通し看護過程の展開の方法を学ぶ。
目	標		1. 健康生活の慢性的な揺らぎの再調整を必要とする対象の看護過程の展開方法を理解する。 2. 急激な身体侵襲により急性期から回復期にある対象の看護過程の展開方法を理解する。

講 義 内 容

回	单 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
1 ～ 8	1 健康生活の慢性的な揺らぎの再調整を必要とする対象の看護過程	1) 糖尿病をもつ対象の看護 (1) 糖尿病患者の看護に必要な基礎知識 (2) 健康生活の慢性的な揺らぎの再調整を必要とする対象に特徴的なアセスメントの視点 2) 糖尿病の血糖コントロールのための教育入院患者の事例をもとに看護の展開 (1) 事例紹介 (2) 演習展開 ① 対象に関する情報収集 ② 情報の分類・整理 ③ 情報の分析・解釈 ④ 全体像の描写（情報の関連付け） ⑤ 看護上の問題を抽出する ⑥ 看護上の問題に優先順位をつける ⑦ 優先順位の高い看護上の問題に対して看護計画を立案する ⑧ 代謝障害のある対象のアドヒアランスを高める援助の実際 ⑨ 事例患者に適した看護と日常生活の指導の方法について発表する。	講義/演習	16	疾 病 治 療 学 III を想起する。 教 育 学 の指 導 技 術 の 実 際 を想起す る。 技 術 到 達 番 号 2-5) II 2-6) II
9 ～ 15	2 健康破綻からの回復を促進する対象の看護過程	1) 周手術期の対象の看護 (1) 大腸がん患者の看護に必要な基礎知識 (2) 周手術期にある対象の看護に特徴的なアセスメントの視点 2) 大腸がんで手術を受ける患者の事例をもとに看護過程の展開 (1) 事例紹介 (2) 看護過程の展開 ① 対象に関する情報収集 ② 情報の分類・整理 ③ 情報の分析・解釈	講義/演習	14	疾 病 治 療 学 III を想起する。

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
		④ 全体像の描写（情報の関連付け） ⑤ 看護上の問題を抽出する ⑥ 看護上の問題に優先順位をつける ⑦ 優先順位の高い看護上の問題に対して看護計画を立案する ⑧ 発表			

テキスト 系統看護学講座 専門 I 基礎看護学 [2] 基礎看護技術 I 医学書院
講義から実習へ 高齢者と成人の周手術期看護2 術中 / 術後の生体反応
と急性期看護 医歯薬出版株式会社

参考文献 ヘンダーソン・ゴードンの考えに基づく実践看護アセスメント ヌーヴェル
ヒロカワ
看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 ヌーヴェルヒロカワ
ヘンダーソンの基本的看護に関する看護問題リスト ヌーヴェルヒロカワ

評価方法 レポート

老年看護学

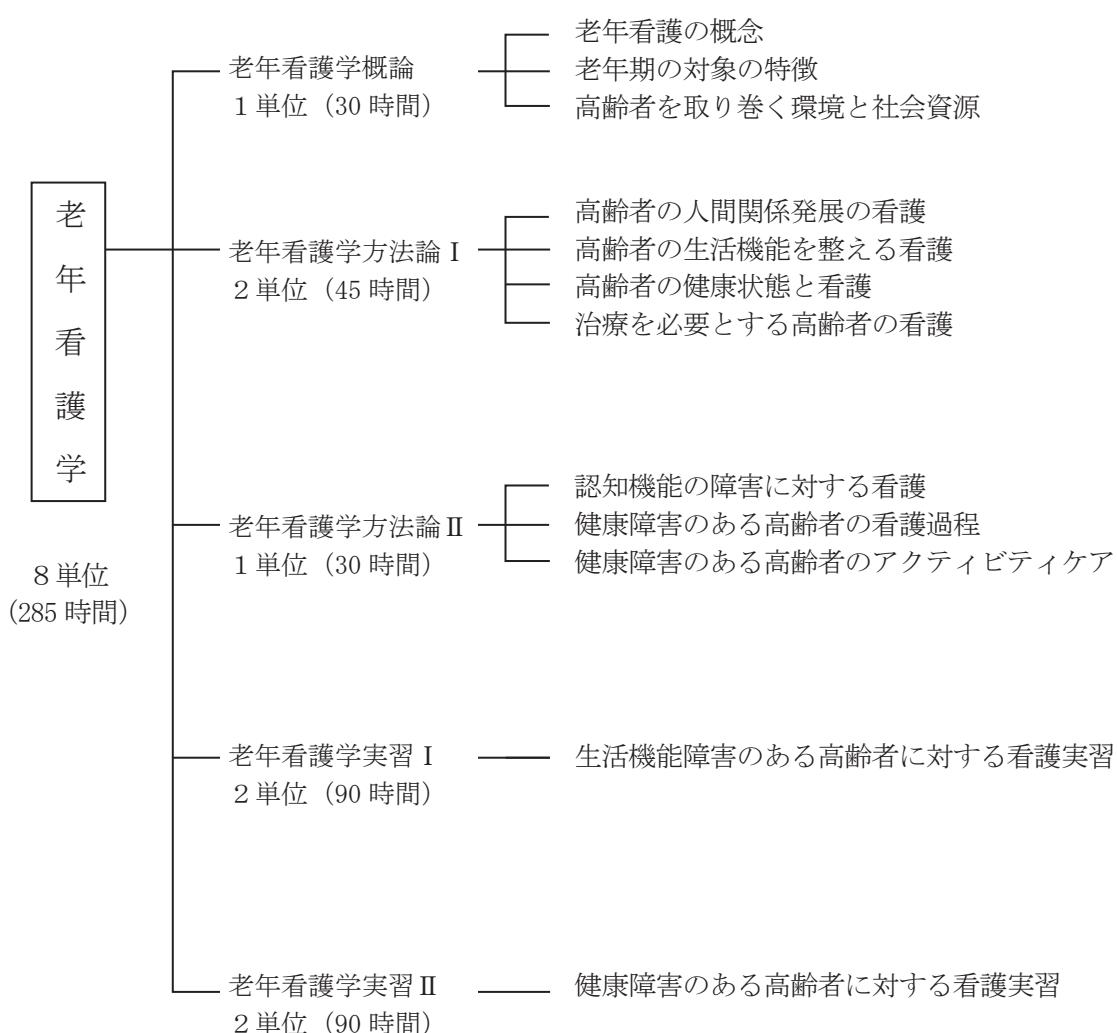
目的

老年期にある対象とその環境を理解し、健康状態・生活機能に応じた看護を実践する基本的能力を養う。

目標

1. 老年期にある対象の尊厳を保持し、人間関係を形成する能力を身につける。
2. 高齢者を、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解する。
3. 高齢者の健康状態・生活機能を理解し、根拠に基づいた看護を実践する能力を身につける。
4. 高齢者の生活を支える保健医療福祉システムと多職種との連携を認識し、対象の状態に合わせた看護の役割を理解する。
5. 看護への探究心を持ち、専門職業人として主体的に学習する能力を身につける。

科目構成



科	目	名	老年看護学概論
単	位	(時 間 数)	1 単位 (30 時間)
履	修	年 次	1 年次 後期
講	義	の 概 要	老年期の発達段階の特徴と高齢者を取り巻く環境について学び、加齢に伴う身体的・精神的・社会的側面から高齢者への理解を深める。また、高齢者を支援している社会資源や、老年看護の目的や役割について学ぶ。
目	標		<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者を身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解する。 2. 高齢者の健康生活とQOLについて理解する。 3. 高齢者の生活を支える保健医療福祉システムについて理解する。 4. 高齢者の権利擁護と倫理について理解する。 5. 老年看護の課題と役割を学び看護観を身につける。

講 義 内 容

回	單 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
1 ～ 2	1 老年看護の概念	<ol style="list-style-type: none"> 1) 老年看護のなりたち <ol style="list-style-type: none"> (1) 老年看護学教育の発展 (2) 老年看護の定義 (3) 老年看護の役割 (4) 老年看護の特徴 <ol style="list-style-type: none"> ①エンパワメントの定義 ②ICF のモデル ③リロケーションダメージの回避 ④地域包括ケア 2) 老年看護における理論の活用 <ol style="list-style-type: none"> (1) 老年看護に役立つ理論・概念 <ol style="list-style-type: none"> ①サクセスフルエイジング ②セルフケア理論 ③ストレングスモデル 3) 老いを生きるということ <ol style="list-style-type: none"> (1) 高齢者の定義 <ol style="list-style-type: none"> ①老年前期と老年後期 (2) 老年期の発達課題 <ol style="list-style-type: none"> ①エリクソンによる発達課題 ②ハヴィガースト、ペック (3) スピリチュアリティ (4) 健康と生活 <ol style="list-style-type: none"> ①老年期の健康 ②老年期の生活 4) 老年看護に携わる者の責務 <ol style="list-style-type: none"> (1) 高齢者のための国連原則 <ol style="list-style-type: none"> ①自立・参加・ケア・自己実現・尊厳 (2) 老年看護の役割と課題 	講義	4	
3 ～ 9	2 老年期の対象の特徴	<ol style="list-style-type: none"> 1) 老いるということ <ol style="list-style-type: none"> (1) 加齢と老化 	演習	4	

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
		2) 高齢者疑似体験 (1) 加齢に伴う身体的変化を体験 (2) 日常生活の相互作用の理解と実践 3) 加齢に伴う変化 (1) 恒常性を土台とした4つの力の変化 防衛力・予備力・適応力・回復力 (2) 疾病をめぐる特徴 (3) 加齢に伴う心理的側面の変化 ① 流動性知能と結晶性知能 (4) 加齢に伴う社会的側面の変化 4) 身体の加齢変化とアセスメント (1) ヘルスアセスメントの枠組み (2) 皮膚とその付属器・視聴覚とそのほかの感覚・循環系・呼吸器系・消化器系・ホルモン・泌尿生殖器・運動系 5) 症候のアセスメントと看護 (1) 発熱・痛み・搔痒・脱水 6) 高齢者のライフヒストリー	講義 演習 演習 発表	2 2 2 2 2	GW 高齢者の ライフヒ ストリー ^イ インタビ ュー
10 ～ 14	3 高齢者を取り巻く環境と社会資源	1) 超高齢社会の統計的輪郭 (1) 超高齢社会の現況 (2) 高齢者と家族 (3) 高齢者の健康状態 (4) 高齢者の死亡 (5) 高齢者の暮らし 2) 高齢社会における保健医療福祉の動向 (1) 保健医療福祉制度の変遷 (2) 介護保険制度の整備 (3) 高齢者医療のしくみ 3) 高齢者を支える多職種連携と看護活動の多様化 (1) 高齢者の生活と健康を支える多職種 (2) 看護職の活動の拡大と専門化 4) 高齢者の権利擁護 (1) 高齢者に対するステイグマと差別 ① エイジズム ② 権利擁護（アドボカシー） (2) 高齢者虐待 ① 高齢者虐待防止法と高齢者虐待の定義	講義	10	

回	単元	学習内容	授業形態	時間	備考
		② 高齢者虐待の実態と特徴 ③ 虐待の発生要因と予防に向けた支援 (3) 身体拘束 ① 身体拘束の定義と身体拘束を禁止する規定 ② 身体拘束の例外 3原則 (4) 権利擁護のための制度 ① 成年後見制度 ② 日常生活自立支援事業 5) セクシュアリティ (1) 高齢者のセクシュアリティ (2) 男性性、女性性の尊重 6) 社会参加 (1) 高齢化の現状と目指す社会の方向性 (2) 地域における高齢者の社会参加 7) エンドオブライフケア (1) エンドオブライフケアの概念 (2) 生きることを支えるケア (3) 意思決定への支援 (4) 末期段階に求められる援助 8) 生活療養の場における看護 (1) 高齢者とヘルスプロモーション (2) 保健医療福祉施設および居住施設における看護 ① 介護保険施設 ② 地域密着型サービス ③ 住まい 9) 高齢者のリスクマネジメント (1) 高齢者と医療安全 (2) 高齢者と救命救急 (3) 高齢者と災害			
15		テスト		2	

テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院

参考文献 老年看護学概論 南江堂
 老年看護学概論 老年保健 メヂカルフレンド社
 老年看護学 概論と看護の実践 HIROKAWA

評価方法 テスト・レポート

科	目	名	老年看護学方法論 I
単	位	(時 間 数)	2 単位 (45 時間) ※テスト 2 時間のため 46 時間
履	修	年 次	2 年次 前期
講	義	の 概 要	加齢による変化や、高齢者に特徴的な疾患や症状が、生活に及ぼす影響を捉え、QOL の維持・向上へ向けた援助について学ぶ。
目	標		<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者との関係性を形成するコミュニケーションを理解する。 2. 高齢者の生活機能に視点をおき、QOL の維持・向上に向けた援助を理解する。 3. 高齢者に特徴的な健康状態の看護を理解する。

講 義 内 容

回	单 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
1	1 高齢者の人間関係発展の看護	<ol style="list-style-type: none"> 1) 高齢者のコミュニケーション <ol style="list-style-type: none"> (1) 高齢者のコミュニケーションと かかわり方の原則 (2) コミュニケーション能力のアセスメント (3) 高齢者の状態・状況に応じたコミュニケーションの方法 <ol style="list-style-type: none"> ① 難聴・視力障害 ② 失語症・構音障害 (4) コミュニケーション障害のアセスメントと看護 	講義	2	
2 { 20	2 高齢者の生活機能を整える看護	<ol style="list-style-type: none"> 1) 日常生活を支える基本的活動 <ol style="list-style-type: none"> (1) 基本動作と環境のアセスメント (2) 生活の基本となる日常生活動作 2) 転倒のアセスメントと看護 3) 廃用症候群のアセスメントと看護 4) 基本動作の実際 <ol style="list-style-type: none"> (1) 関節可動域・筋力強化訓練 MMT の実際 (2) リハビリテーションの実際 5) 日常生活活動の評価 <ol style="list-style-type: none"> (1) FIM 6) 食事に対する看護ケア <ol style="list-style-type: none"> (1) 高齢者における食生活の意義 (2) 高齢者に特徴的な変調 <ol style="list-style-type: none"> ① 加齢に伴う摂食嚥下機能の変化 ② 老年期に多い疾患による摂食嚥下機能障害 ③ 摂食・嚥下機能の変調 (3) 食生活のアセスメント (4) 食生活の支援 (5) 口腔ケア (6) 食生活の再構築に向けた援助 <ol style="list-style-type: none"> ① 経管栄養法 ② 経鼻経管栄養の実際 	講義 演習 講義 講義・演習 講義・演習 講義・演習 講義	2 4 4 4 4 2 2 6	4-3)・4-8) 4-13) 関節可動域 訓練ができる FIM評価の 演習 2-2)患者の 嚥下機能の アセスメントと 嚥下訓練等 2-3),7),8)モデ ル人形での經 鼻胃チューブ の挿入・確認

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
		③ 胃瘻 7) 排泄の看護ケア (1)高齢者の排泄ケアの基本 (2)排泄障害のアセスメントとケア ① 尿失禁の分類とケア (3)排便障害のアセスメントとケア ① 便秘の種類 (4)排便困難時の対処 ① グリセリン浣腸 ② 腹部のフィジカルアセスメント 8) 清潔のアセスメントと援助 (1)清潔の援助 (2)皮膚障害 (3)褥瘡 9) 高齢者と生活リズム (1)睡眠と覚醒の変化 (2)生活行動の変化とその影響 (3)生活リズムのアセスメント (4)生活リズムを整える看護	講義 講義・演習	2 6 2 2	3-12) , 10) グリセリン 浣腸実施と 体験
20 ↓ 21	3 高齢者の健康障害と看護	1) 脳卒中の看護の要点 (1)脳出血 (2)クモ膜下出血 (3)脳梗塞 2) 心不全の看護の要点 (1)病態生理 (2)薬物療法 3) 糖尿病の看護の要点 (1)高齢者糖尿病の特徴 (2)合併症 4) 慢性閉塞性肺疾患の看護の要点 (1)C O P D (2)長期酸素療法の支援 5) がんの看護の要点 (1)病態生理・症状 (2)三大治療法 6) パーキンソン病・パーキンソン症候群 (1)症状・進行段階 (2)服薬管理 7) インフルエンザ (1)感染経路・症状 (2)流行期の感染予防 8) 肺炎 (1)高齢者の肺炎の種類 (2)呼吸困難に関するケア (3)痰の喀出を促すケア 9) 骨粗鬆症 (1)骨粗鬆症の特徴 (2)若年期からの骨粗鬆症予防	講義	4	

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
		10) 骨折 (1)腰椎圧迫骨折 (2)大腿骨近位部骨折 11) うつ 12) せん妄			
22	治療を必要とする高齢者の看護	1) 検査を受ける高齢者の看護 2) 薬物療法を受ける高齢者の看護 (1)加齢に伴う薬物動態の変化 (2)老年症候群と薬物有害事象 3) 手術を受ける高齢者の看護 4) リハビリテーションを受ける高齢者の看護	講義	2	
23		テスト		2	

テ キ ス ト 系統看護学講座専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院

参 考 文 献 ナーシンググラフィカ高齢者の健康と障害 老年看護学 メディカ出版

評 価 方 法 テスト レポート

科	目	名	老年看護学方法論II		
单	位	(時 間 数)	1 单位 (30 時間)		
履	修	年 次	2 年次 前期～後期		
講	義	の 概 要	認知機能の障害に対する看護について学び、対象とその家族への支援を通して高齢者の尊厳について理解を深める。また、看護過程・アクティビティケアなどの演習を通して実践へ向けた援助方法を学ぶ。		
目	標	1.	認知機能の障害に対する看護を理解する。		
		2.	健康障害のある高齢者の看護過程とアクティビティケアについて理解する。		
講	義	内 容			
回	單 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
1 ～ 2	1 認知機能の障害 に対する看護	1) 認知機能障害・認知症高齢者の理解 (1) うつ (2) せん妄 (3) 認知症 2) 認知症の症状 (1) 認知症とは (2) 認知機能障害（中核症状） (3) 認知症の行動・心理症状 3) 認知症の病態・診断・治療・予防 4) 認知機能および生活機能の評価 5) 認知症の看護 (1) 認知症高齢者とのコミュニケーション方法 (2) パーソンセンタードケア 6) 認知症の行動・心理症状への対応 (1) 認知症の行動・心理症状のアセスメント (2) 徘徊への対応、幻覚・妄想への対応 7) 認知症高齢者的心身の活性化 (1) 行動療法 (2) 感情・感覚を介した療法 (3) 認識を介した療法 (4) 刺激を介した療法 8) 認知症高齢者を持つ家族への支援 9) 医療施設における認知症高齢者の実際 10) 倫理的側面への配慮 11) 認知症高齢者とのコミュニケーションと援助の実際	講義 演習	2 2	医療現場における認知症高齢者への援助の実際
3 ～ 10	2 健康障害のある高齢者の看護過程	1) 健康障害をもつ高齢者の看護過程 (1) 高齢者の看護過程の基本 ① 生活行動モデルによる看護過程 ② 目標志向型思考への転換 (2) 脳血管障害の疾患と看護 (3) まとめ	講義 演習 発表	2 10 4	看護過程 個人ワーク GW 発表・レポート作成

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
11 14	2 健康障害のある高齢者のアクティビティケア	1) 健康支援とアクティビティケア (1) 高齢者の健康状態に応じたアクティビティケアの企画・実践	講義・演習	8	アクティビティケアの企画・ロールプレイ
15		テスト		2	

テ キ ス ト 系統看護学講座専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院

参 考 文 献 健康障害をもつ高齢者の看護 メディカルフレンド社
生活機能からみた老年看護過程 医学書院

評 價 方 法 テスト

小児看護学

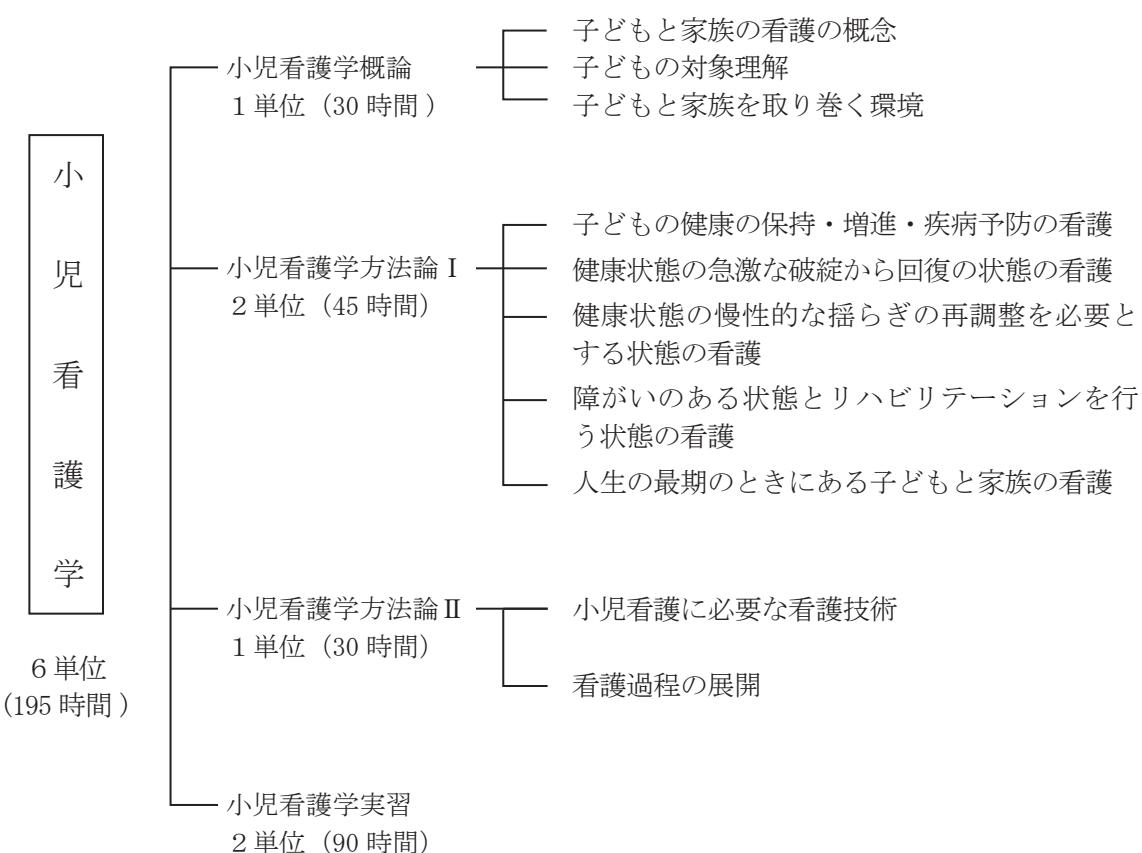
目的

小児看護の対象である子どもの特徴を理解し、さまざまな健康状態にある子どもとその家族に対して、看護を実践するために必要な知識・技術・態度を養う。

目標

1. 子どもの権利を擁護し、子どもと家族の最善の利益を守ることができる倫理観を養う。
2. 成長・発達し続けている子どもの特徴をとらえ、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解する能力を養う。
3. 健康上の課題をもつ子どもと家族に対し、科学的根拠に基づいた看護を実践する基礎的能力を養う。
4. 小児看護の機能と役割を認識し、保健医療福祉チームおよび教育機関と連携・協働できる基礎的能力を養う。
5. 小児看護への興味・関心を深め、専門職業人として学習し続ける能力を養う。

科目構成



科	目	名	小児看護学概論
単	位	(時 間 数)	1 単位 (30 時間)
履	修	年 次	1 年次 後期
講	義	の 概 要	<p>小児看護の対象である子どものとらえ方や、さまざまな統計資料から現代家族の特徴について学び、小児看護において子どもと家族は、ひとつの援助対象であることを学ぶ。また、子どもの権利を尊重し、子どもと家族の最善の利益を守るために小児看護における倫理について学ぶ。</p> <p>子どもの特性の理解として、成長・発達の原則、発達理論、形態的・機能的成長・発達、心理社会的発達、小児の栄養、発育・発達の評価について学び、成長・発達に対する理解を深める。</p> <p>子どもを取り巻く家族あるいは社会環境を含めた広い視野で対象を理解するために、小児の出生・死亡・疾病構造の変化と関連づけながら、子どもの健康を守るためにどのような法律や施策があるのかを学ぶ。子ども観および小児看護の歴史を振り返り、小児保健医療の動向や今後の課題について考える。最後に、各発達段階の特徴を踏まえ、子どもと家族を取り巻く環境がおよぼす健康課題について、演習や発表を通して共通理解する。</p>
目	標		<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児看護の対象について理解できる。 2. 小児看護の変遷について理解できる。 3. 子どもの権利を尊重した看護について理解できる。 4. 小児看護の機能と役割および今後の課題が理解できる。 5. 子どもの成長、発達の特徴が理解できる。 6. 子どもと家族の特性および、現代家族の特徴について理解できる 7. 主な統計、小児保健施策から子どもと家族を取り巻く環境について理解できる。 8. 子どもと家族を取り巻く環境と健康課題について理解できる。

講 義 内 容

回	单 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
1 2	1 子どもと家族の看護の概念	1) 小児看護の対象 (1) 子どもとは 2) 小児看護の歴史的変遷 (1) 子ども観の変遷 (2) 小児医療の変遷 (3) 小児看護の変遷 3) 小児看護における倫理 (1) 子どもの権利 4) 小児看護の機能と役割	講義	4	
3 8	2 子どもの対象理解	1) 子どもの特性 (1) 小児看護における理論 2) 子どもの成長・発達の概念、一般的原則 3) 子どもの成長・発達の評価 4) 成長・発達 (1) 形態的成長・発達 (2) 機能的発達 (3) 心理社会的発達 (4) 基本的生活習慣の自立	講義	12	『人間関係論』『発達心理学』と関連 ボウルビイの愛着形成・ピアジェの認知発達

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
		(5)思春期の子ども			理論・エリクソンの発達課題・視聴覚教材
9 14	3 子どもと家族を取り巻く環境	1) 子どもと家族 2) 子どもと家族に関する統計 (1)わが国の人囗構造 (2)出生と家族 (3)小児の死亡 3) 子どもと家族に関する法律と施策 および社会資源 (1)児童福祉 (2)母子保健 (3)予防接種 (4)学校保健 (5)臓器移植 4) 子どもと家族を取り巻く健康課題 (1)家庭環境と健康課題 (2)社会環境と健康課題 (3)自然環境と健康課題	講義 演習	6 6	GW・発表 レポート 提出
15		テスト・レポート		2	

テキスト 系統看護学講座 専門分野II 小児看護学 [1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院

系統看護学講座 専門分野II 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論 医学書院

参考文献 ナーシンググラフィカ小児看護学 小児の発達と看護 メディカ出版

国民衛生の動向 厚生労働統計協会

新体系看護学全書30 小児看護学① 小児看護学概論 小児保健 メヂカルフレンド社

小児看護学 子どもと家族の示す行動への判断とケア 日総研

評価方法 テスト レポート

科	目	名	小児看護学方法論 I
単	位	(時 間 数)	2 単位 (45 時間)
履	修	年 次	2 年次 前期～後期
講	義	の 概 要	「子どもの健康の保持・増進、疾病予防のための看護」では、小児各期の発達段階に応じた日常生活や、子どもの成長・発達を促す援助・家族への援助について学ぶ。 「健康状態の急激な破綻から回復の促進の看護」「健康状態の慢性的な揺らぎの再調整を必要とする状態の看護」「障がいのある状態とリハビリテーションを行う状態の看護」「人生の最期のときの看護」では、子どもの様々な健康状態における看護の特徴を学び、それぞれの健康状態に特有な健康障害や入院が子どもの成長・発達に与える影響と子どもの反応、子どもと家族の生活に及ぼす影響について理解を深める。また、疾病治療学VIの学習をふまえ、各健康状態に関連した頻度の高い疾患や、直面しやすい健康上の課題について学ぶ。さらに健康回復のための援助について学び、小児看護の知識を深める。
目	標		<ol style="list-style-type: none"> 1. 発達段階に応じた日常生活の援助について理解する。 2. 健康状態の急激な破綻から回復の状態の看護について理解する。 3. 健康状態の慢性的な揺らぎの再調整を必要とする状態の看護について理解する。 4. 障がいのある状態とリハビリテーションを行う状態の看護について理解する。 5. 人生の最期のときの看護について理解する。

講 義 内 容

回	单 元	学習内容	授業形態	時間	備考
1 ～ 4	1 子どもの健康の保持・増進、疾病予防のための看護	1) 子どもの発達段階に応じた日常生活の援助 (1) 生活習慣の自立過程と養護 ①食事・栄養②排泄③運動・睡眠 ④清潔・衣服の着脱 (2)遊ぶ・学習する (3)事故防止	演習	8	GW・発表レポート提出
5 ～ 13	2 健康状態の急激な破綻から回復の促進の看護	1) 急性的経過をたどる健康障害と看護 (1)症状のアセスメントと看護 ①発熱 ②脱水 ③呼吸困難 ④けいれん ⑤意識障害 2) 外来における子どもと家族の看護 3) 入院を必要とする子どもと家族の看護 4) 手術を受ける子どもと家族の看護 (1)子どもの手術の特徴 (2)手術を受ける小児と家族の反応 (3)術前・術当日・術後急性期・回復期の看護	講義 講義 講義	2 2 2	(1) レポート課題協同学習

回	単元	学習内容	授業形態	時間	備考
		(4)手術を受ける子どものプレパレーション ①形態異常のある疾患（口唇・口蓋裂）の小児の看護 5) 呼吸機能障害をもつ小児の看護 ①肺炎の小児の看護 6) 循環機能障害をもつ小児の看護 ①先天性心疾患の小児の看護 ②川崎病の小児の看護 7) 感染症の小児の看護 ①ウイルス感染症の小児の看護 ②細菌感染症の小児の看護 ③隔離が必要な小児と家族の看護 8) 栄養・消化・代謝機能障害をもつ小児の看護 ①腸重積症の小児の看護 ②急性胃腸炎の小児の看護 ③1型糖尿病をもつ小児の看護 9) 血液・造血機能疾患・悪性新生物の小児の看護 ①白血病の小児の看護 10) 低出生体重児・ハイリスク新生児と家族 (1)低出生体重児・ハイリスク新生児の集中治療と看護 (2)親子・家族関係の促進	講義	2	
14 ～ 16	3 健康状態の慢性的な揺らぎの再調整を必要とする状態の看護	1) 慢性的経過をたどる健康障害と看護 (1)健康障害の特徴と看護 (2)健康障害の主な症状と看護 (3)アセスメントの視点 2) 免疫・アレルギー機能障害をもつ小児の看護 ①気管支喘息の小児の看護 ②食物アレルギーの小児の看護 ③アトピー性皮膚炎の小児の看護 3) 内分泌機能障害をもつ小児の看護 ①成長ホルモン分泌不全性低身長症の小児の看護 ②中枢性尿崩症（夜尿症）の小児の看護 4) 腎・排泄機能障害をもつ小児の看護 ①ネフローゼ症候群の小児の看護	講義 講義 講義	2 2 2	外来講師（試験）
17 ～ 21	4 障がいのある状態とリハビリテーションを行う状態時の看護	1) 先天異常のある子どもと家族 (1)出生前後の看護 ①診断告知時の看護 ②ドローテーの仮説モデル	講義	2	

回	単 元	学習内容	授業形態	時間	備考
		(2)子どもの発達段階に応じた看護 (3)ダウン症候群の小児の看護 2)活動制限が必要な子どもと家族の看護 (1)運動機能障害をもつ小児の看護 ①先天性股関節脱臼の小児の看護 3)脳神経の機能障害をもつ小児の看護 ①けいれん性疾患の小児の看護 4)障害と共に育つ子どもへの看護 ・発達障害の子どもと家族 5)在宅・地域の子どもと家族の看護 ・入院から在宅への移行の支援 ・多職種との連携と社会資源の活用	講義 講義 講義 講義 講義	2 2 2 2	外来講師、レポート提出 外来講師(試験)
22	5 人生の最期のときにある子どもと家族の看護	1) 人生の最期のときにある子どもと家族 (1)子どもの死の概念 (2)人生の最期のときにある子どもの看護 (3)人生の最期のときにある家族への看護 (緩和ケア、グリーフケア)	講義	2	外来講師 レポート 提出
23		テスト、レポート		2	

- テキスト 系統看護学講座 専門分野II 小児看護学〔1〕 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院
 系統看護学講座 専門分野II 小児看護学〔2〕 小児臨床看護各論 医学書院
- 参考文献 ナーシンググラフィカ小児看護学 小児の発達と看護 メディカ出版
 健康障害をもつ小児の看護 小児看護学② メヂカルフレンド社
 小児看護学 子どもと家族の示す行動への判断とケア 日総研
 小児I・II 新看護観察のキーポイントシリーズ 中央法規
- 評価方法 テスト レポート

科 目 名 小児看護学方法論Ⅱ

単 位 (時 間 数) 1 単位 (30 時間)

履 修 年 次 2 年次 後期

講 義 の 概 要 小児看護学方法論Ⅱでは、小児看護学概論・方法論Ⅰで学んだ知識をふまえ、小児看護に必要な看護技術について学ぶ。小児技術の中でも、特に実践の頻度が多く、留意を要する技術項目を精選した。小児の看護技術を実践する際には、子どもに対し、一人の人間として尊重する姿勢を大切にしながら、発達段階に応じた援助技術の選択や、子どもの反応や状況に合わせて対応していく必要がある。現在の小児医療の現場では、プレパレーションは、特別な行為ではなく、日常的に行われるべき倫理的な作業の一つであり小児看護において学ぶ意義は大きい。実際の場面でこれらを展開できるよう、演習を取り入れながら小児看護に必要な看護技術を習得する。また、学んだ知識を統合し、応用する能力を養うために看護過程を展開し学習する。

目 標 1. 小児看護において必要な看護技術を身につける。
2. 健康上の課題をもつ小児および家族の身体的・精神的・社会的な状況を適切にアセスメントし、科学的根拠に基づいて看護過程を展開することができる。

講 義 内 容

回	單 元	学習内容	授業形態	時間	備考
1 ～ 7	1 小児看護に必要な看護技術	1) 援助関係を形成する技術 (1) コミュニケーション (2) 子どもへの説明と同意 2) プレパレーション ・事例による子どもへの効果 3) 小児のアセスメント技術 (1) フィジカルアセスメント (2) 検査や処置を受ける小児の看護 ①吸入・吸引・酸素療法 ②経管栄養 ③浣腸 ④採血、採尿 ⑤骨髄穿刺、腰椎穿刺 ⑥与薬の技術（経口、坐薬、輸液管理） ⑦抑制・固定 (3) バイタルサイン測定 (4) 身体測定 (5) 小児の救命処置	講義 講義 デモスト 演習	2 2 4 6	外来講師 採尿パック シーネ固定 シリンジポンプ モデル人形使用 ＊子どもの事故・外傷、救命処置について事前学習レポート ＊モデル人形使用

回	単 元	学習内容	授業形態	時間	備考
8 ～ 14	2 看護過程の展開	1) 小児の看護過程の実際 (1)情報の分類・整理、分析・解釈 (2)看護上の問題の明確化 (3)看護計画の立案 (4)看護計画の評価 【事例】経過に応じた看護展開 2) プレパレーションの実際 看護過程で立案した看護計画を基に、プレパレーション方法を考え、ロールプレイの実施	講義 演習 演習	10 4	協同学習 発表 レポート提出 発表 (2 h) レポート提出
15		テスト		2	

- テキスト 系統看護学講座 専門分野II 小児看護学〔1〕 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院
 系統看護学講座 専門分野II 小児看護学〔2〕 小児臨床看護各論 医学書院
- 参考文献 小児看護技術 医学書院
 ナーシンググラフィカ小児看護学 小児看護技術 メディカ出版
 小児I・II 新看護観察のキーポイントシリーズ 中央法規
 小児看護実習ガイド 照林社
 写真でわかる小児看護技術 インターメディカ
 小児医療の現場で使えるプレパレーションガイドブック 日総研
- 評価方法 テスト レポート（看護過程、プレパレーション）

母性看護学

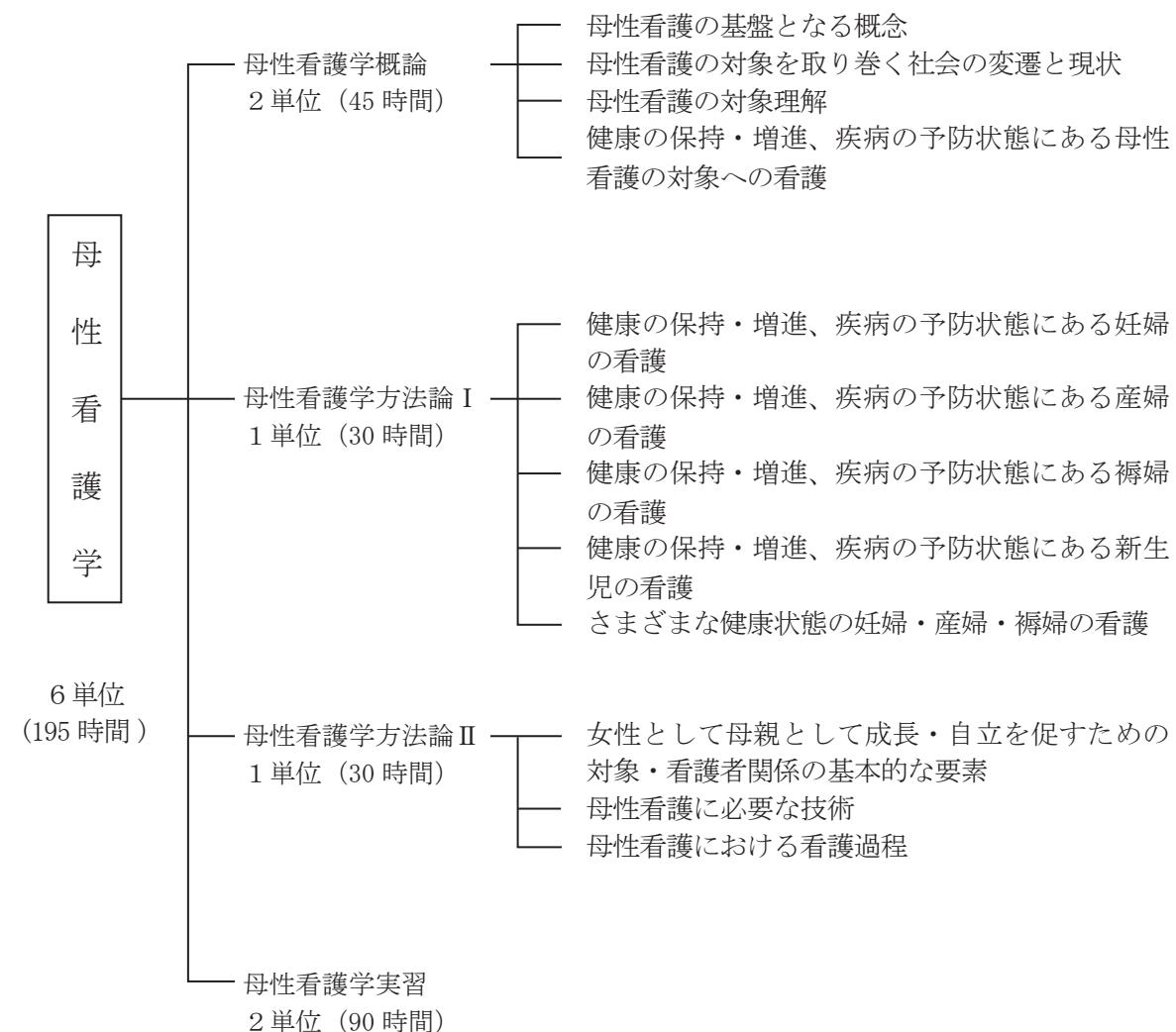
目的

女性を取り巻く環境や性の意義を理解し、女性のライフサイクルの変化や健康状態に応じた看護の基礎的能力を養う。

目標

1. 女性を取り巻く環境や性の意義を理解し、生命の尊厳への配慮と倫理観を養う。
2. 母性看護の対象を統合的に捉え、家族を含めて理解する。
3. 女性のマタニティサイクル（妊娠・分娩・産褥）や新生児についての生理や疾病を理解し、心理的・社会的特徴をふまえ、援助方法を修得する。
4. 母子保健活動の実際を通して、保健医療福祉チームの一員としての役割を理解する。
5. 母性看護の現状に関心を持ち、専門職業人として学習し続ける能力を養う。

科目構成



科	目	名	母性看護学概論
単	位	(時 間 数)	2 単位 (45 時間)
履	修	年 次	2 年次 前期
講	義	の 概 要	<p>母性看護の対象であるすべての女性を内分泌的な変化から見た発達段階にわけて身体的・心理的・社会的な側面から理解する内容とした。</p> <p>また、近年の母性看護をめぐる社会的な変化を広く捉え、母性看護の機能と役割を理解する内容とした。</p>
目	標		<ol style="list-style-type: none"> 1. 母性看護の基礎となる概念・性の意義について理解する。 2. 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状について理解を深め、母性看護の役割を理解する。 3. 母性看護の対象を身体的・心理的・社会的特徴について理解する。 4. 健康の保持・増進、疾病の予防状態にある母性看護の対象への看護の必要性や健康教育について理解する。

講 義 内 容

回	单 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
1 ↓ 7	<p>1 母性看護の基盤となる概念</p> <p>2 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状</p>	<p>1) 母性とは・・・① (1) さまざまな定義の母性 (2) 父性とは</p> <p>2) 家族とは・・・② (1) 家庭機能と発達</p> <p>3) 母子・父子関係と家族発達 (1) 愛着・母子相互作用と母子関係 (2) 母性・父性・親性の発達</p> <p>4) 女性・家族のライフサイクル</p> <p>5) セクシュアリティ（人間の性）・③ (1) セクシュアリティの発達と課題</p> <p>6) リプロダクティブヘルス／ライツ (1) リプロダクティブヘルス／ライツの概念と課題</p> <p>7) 女性の生涯にわたる健康教育・・・⑦ (1) 女性の健康教育の必要性</p> <p>8) 母性看護における倫理 (1) 生命倫理と看護倫理 (2) 看護における倫理的意思決定</p> <p>9) 母性看護における安全・事故予防</p> <p>1) 母性看護の歴史的変遷と現状④～⑥ (1) 母性看護の変遷 (2) 母子保健統計からみた動向 (3) 母子保健施策からみた現状 (4) 母性看護の場と職種 ① 家族 ② 地域社会 ③ 生物学的環境 ④ 社会文化的環境</p> <p>(5) 母性看護に関する組織と法律</p> <p>(6) 母性看護の場と職種</p>	講義	13	⑦(1時間)

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
8 ～ 18	3 母性看護の対象理解	1) 女性のライフサイクルに伴う形態・機能の変化・・⑧⑨ 2) マタニティサイクルにおける女性の形態・機能 (1) 妊娠期の形態と機能・・⑩～⑫ (2) 分娩期の形態と機能・・⑬⑭ (3) 産褥期の形態と機能・・⑮⑯ (4) 新生児期の形態と機能・・⑰⑱	講義	22	
19 ～ 22	4 健康の保持・増進、疾病の予防状態にある母性看護の対象への看護	1) ライフサイクルにおける女性の健康と看護の必要性・・⑯ 2) 思春期の健康教育・・⑯⑰ 3) 成熟期の健康教育・・⑲ 4) 更年期・老年期の健康教育・⑳ 5) ライフサイクル各期にまたがる健康教育・・㉑	講義	8	
23		テスト・・㉓		2	

テキスト 系統看護学講座 母性看護学概論 医学書院
 系統看護学講座 母性看護学各論 医学書院

参考文献 新体系看護学全書 母性看護学①② メデカルフレンド社
 母性看護学IIマタニティーサイクル 南江堂
 母性看護学II周産期各論 医歯薬出版株式会社
 病気が見える産科 MEDIC MEDIA
 国民衛生の動向

評価方法 テスト、豆テスト（講義に出席していない豆テストは加点されません）
 レポート（提出期限の遅れは採点されません）、思春期教育（グループ評価もあり）

科	目	名	母性看護学方法論 I
単	位	(時 間 数)	1 単位 (30 時間)
履	修	年 次	2 年次 前期～後期
講	義	の 概 要	さまざまな健康状態にある母性看護の対象：妊婦・産婦・褥婦および新生児の特徴をふまえて援助方法を理解する内容とした。
目	標		<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康の保持・増進、疾病の予防状態にある妊婦・産婦・新生児の援助方法を理解する。 2. さまざまな健康状態の妊婦・産婦・褥婦・新生児の援助方法を理解する。

講 義 内 容

回	單 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
1 ↓ 2	1 健康の保持・増進、疾病の予防状態にある妊婦の看護	1) 妊婦と家族の看護・・・①② (1) 妊婦の身体的健康状態と看護 (2) 妊婦の心理・社会的健康と看護 (3) 胎児の健康状態の観察と看護	講義	4	
3 ↓ 4	2 健康の保持・増進、疾病の予防状態にある産婦の看護	1) 産婦と家族の看護・・・③④ (1) 安全な分娩への看護 (2) 安楽な分娩への看護 (3) 出産体験が肯定的になるための看護 (4) 基本的ニードに関する看護 (5) 分娩期の看護の実際 第1期の看護の実際 第2期の看護の実際 第3・4期の看護の実際	講義	4	
5 ↓ 8	3 健康の保持・増進、疾病の予防状態にある褥婦の看護	1) 褥婦と家族の看護・・・⑤⑥⑦⑧ (1) 生殖器の復古過程（退行性変化）と看護 (2) 全身の復古過程（退行性変化）と看護 (3) 母乳分泌過程（進行性変化）と看護 (4) 母親役割促進（家族関係再構築含む）に向けての看護	講義	8	
9	4 健康の保持・増進、疾病の予防状態にある新生児の看護	1) 新生児の看護・・・⑨	講義	2	
10 ↓ 12	5 さまざまな健康状態の妊婦・産婦・褥婦の看護	1) 妊婦の異常と看護・・・⑩ 2) 産婦の異常と看護・・・⑪ 3) 新生児の異常と看護・・・⑫ 4) 褥婦の異常と看護・・・⑪ 5) 母子分離時の褥婦の看護・・・⑬ 6) 不妊治療と看護・・・⑭	講義	6	
13 ↓ 14				2	外来講師
15		テスト・・・⑮		2	外来講師

テキスト	系統看護学講座 母性看護学各論 医学書院
参考文献	新体系看護学全書 母性看護学② メディカルフレンド社 母性看護学Ⅱマタニティーサイクル 南江堂 母性看護学Ⅱ周産期各論 医歯薬出版株式会社 病気が見える産科 MEDIC MEDIA
評価方法	テスト、豆テスト（講義に出席していない豆テストは加点されません） 調べ学習などの課題レポート（提出期限の遅れは採点されません） ⑬回目の外来講師は講義の感想が5点配点されています（講義に出席しないなれば、採点されません）

科	目	名	母性看護学方法論Ⅱ
単	位	(時 間 数)	1 単位 (30 時間)
履	修	年 次	2 年次 後期
講	義	の 概 要	母性看護を展開するために必要な看護過程の展開方法やヘルスアセスメントに必要な技術や対象との援助関係形成のための技術や援助技術を理解し習得する内容とした。

目	標	1. 母性看護に必要な技術及び保健指導の実際を習得する。 2. 母性看護における看護過程の特徴を理解する。
---	---	--

講 義 内 容

回	單 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
1 ～ 5	1 女性として母親として成長・自立を促すための対象・看護者関係の基本的な要素 2 母性看護に必要な技術	1) 信頼関係形成のための関わり方：純粋性（自己一致）、尊重性（受容）、共感的態度、プライバシーへの配慮、知識・技術の確かさ 2) 対象・看護師関係の構築・発展のプロセス (1)関係を持ち始める時期 (2)関係を持ち続ける時期 (3)新たな人との関係に展開する時期 *産褥期の保健指導の場面をシミュレーションを通して学ぶ……④⑤ 1) 母性看護に必要な看護技術 (1)妊娠期：……………① ① レオポルド触診法 ② 子宮底の測定 ③ 胎児心音の聴取、NSTの装着 (2)新生児期： ① 沐浴 (3)産褥期： ① 子宮底の測定 ② 育児技術（抱き方、排気のさせ方、おむつ交換） ③ 母乳育児について……②③	演習	4	技術のデモテスト中で行う
6 ～ 14	3 母性看護における看護過程	1) 母性看護における看護過程・・⑥ 情報収集の方法 アセスメントの視点 問題の明確化 看護目標と具体策の挙げ方 評価の方法 2) ウエルネス看護診断の考え方と展開・・⑥ 3) 看護過程の展開の実際・・⑦～⑩ (1) 産褥期にある対象の健康課題を抽出	演習	2	
			講義 演習	4 18	外来講師

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
		(2) 看護目標や具体策を抽出 (3) リスクのある褥婦の看護過程・⑯ 4) 母性看護における保健指導の実際 (1) 抽出した具体策に沿って保健指導案を作成する・・⑪ (2) 保健指導のあり方・・⑫⑬ 指導場面のリフレクション 指導場面の評価（経過記録・評価記録の書き方）			
15		テスト・・・⑮		2	

- テキスト 系統看護学講座 母性看護学各論 医学書院
- 参考文献 新体系看護学全書 母性看護学② メヂカルフレンド社
母性看護学Ⅱマタニティーサイクル 南江堂
母性看護学Ⅱ周産期各論 医歯薬出版株式会社
ナーシンググラフィカ 母性看護技術 メディカ出版
看護実践のための根拠がわかる母性看護技術 メヂカルフレンド社
ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 医歯薬出版株式会社
根拠がわかる母性看護過程 南江堂
- 評価方法 テスト、看護過程レポート、指導パンフレット、演習（シミュレーション）
看護過程レポート・パンフレットなど提出期限の遅れは加点されません。
演習（シミュレーション）の欠課は加点されません。

精神看護学

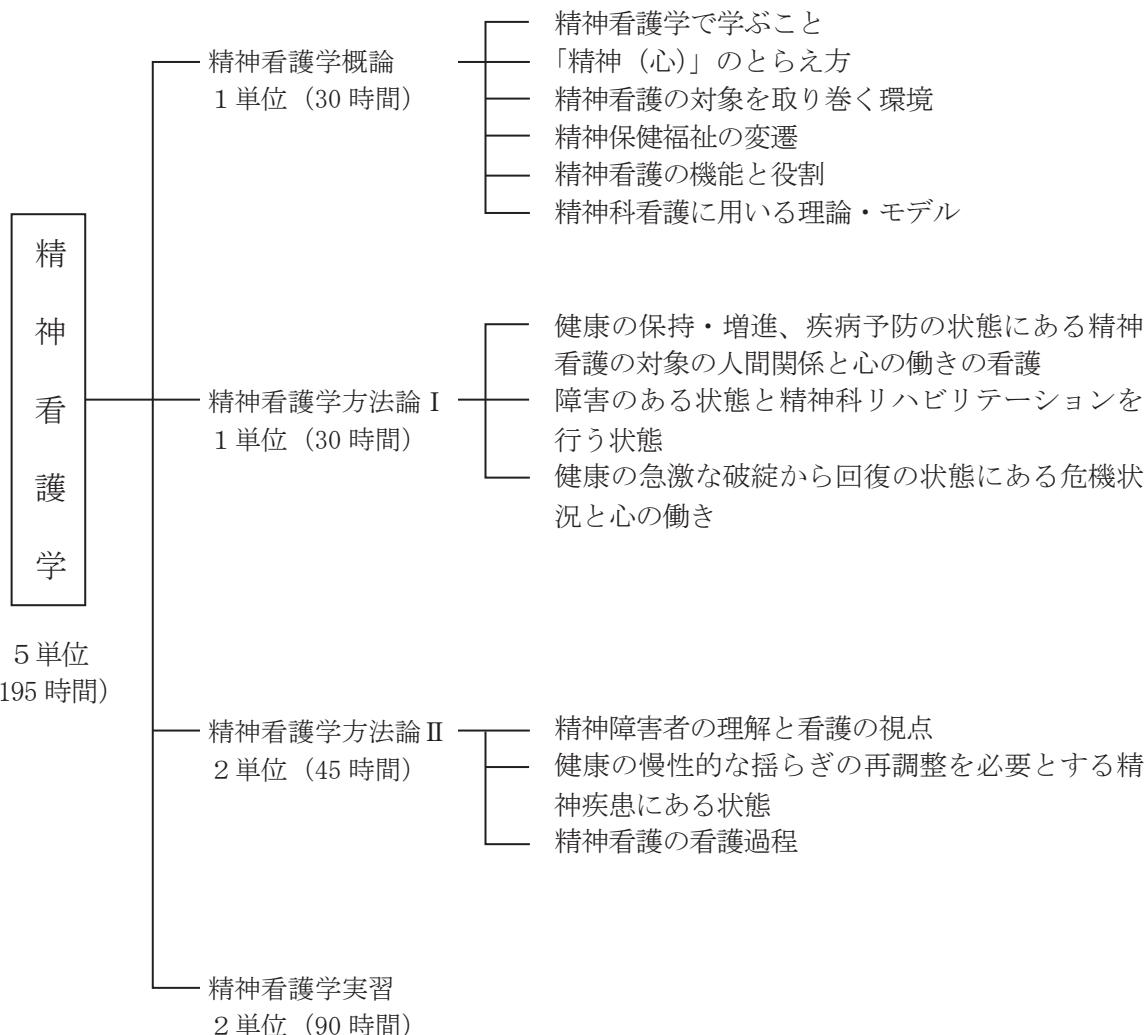
目的

精神看護のあらゆる対象を理解し、心の健康の保持増進および心に障がいを受けた人々と家族を含めた健康回復への支援ができる基礎能力を学ぶ。また対人援助技術を高め、治療的環境について理解を深める。

目標

1. 精神看護の対象である人に対し、尊厳と高い倫理観を兼ね備えた豊かな人間性を養う。
2. 精神看護の対象である人間を、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解する能力を養う。
3. 精神看護の対象の健康上の課題に対応するために、科学的根拠に基づいた知識と技術を身につけ、看護を実践できる能力を養う。
4. 精神保健医療福祉における看護師の役割を理解し、チームの一員として他の職種と協力できる能力を養う。
5. 精神看護をとりまく社会情勢に关心を持ち、専門職業人として学習し続ける能力を養う。

科目構成



科	目	名	精神看護学概論		
单	位	(時 間 数)	1 单位 (30 時間)		
履	修	年 次	2 年次 前期		
講	義	の 概 要	本科目では、精神看護の基盤的な概念となる心について学ぶ。精神看護学では、すべての人々の心の健康について考え方理解を深める。また、家庭や学校、職場における人間関係の中で心は影響し合っていることを学習する。さらに、心の健康の維持とライフサイクルにおける心の健康と発達について学び、現代社会の社会病理からみた心のあり方と精神看護学の位置付けを学ぶ。		
		精神保健福祉の歴史的な変遷から、今日の制度の成り立ちまでを学び、入院中の患者の処遇及び精神保健福祉法と関連付けて学習する。また、精神看護に用いる看護理論を学ぶことで、知識や技術と態度を養う。			
目	標	1. 現代社会における心の発達と健康を理解する。 2. 人間関係と心の関係を理解する。 3. 発達段階における心の発達と健康について理解する。 4. 精神保健福祉制度について学び精神障害者への理解を深める。 5. 精神看護学の考え方と看護師の役割を理解する。			

講 義 内 容

回	单 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
1 ～ 2	1 精神看護学で学ぶこと	1) 精神保健で扱われる現象 2) 精神的健康の保持・増進としての精神保健 3) 地域精神保健	講義	4	
3 ～ 4	2 「精神（心）」のとらえ方	1) 心と脳の関係 2) 精神（心）の構造とはたらき (1)精神力動理論（フロイト） (2)防衛機制	講義	4	発達心理学と関連
5	3 精神（心）の発達の考え方	1) 精神（心）の発達 (1)人間関係にはぐくまれる個人の心 ①フロイト ②エリクソン ③ボウルビイ	講義	2	
6 ～ 9	4 精神看護の対象を取り巻く環境	1) 現代社会における精神保健の問題 (1)家庭と精神（心）の健康 (2)学校と精神（心）の健康 (3)職場・仕事と精神（心）の健康 (4)地域社会と精神（心）の健康 2) 現代社会と精神（心）の健康 (1)現代社会の特徴 (2)現代社会における精神保健の主な問題 ①ドメスティック・バイオレンス ②ひきこもり ③ハラスメント ④自殺	講義	8	

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
		⑤不登校 ⑥いじめ ⑦自傷行為 ⑧虐待 ⑨依存（アルコール・薬物・ギャンブル・IT） 3) 精神（心）の発達 (1)人間（心）の発達の考え方 ①エリクソン ②ボウルビィ ③スターント			
10	5 精神保健福祉の変遷	1) 精神保健医療福祉の歴史と現在の姿 (1)諸外国における精神医療福祉 (2)我が国の精神保健福祉と法制度	講義	2	精神保健の歴史的な変遷を踏まえる
11	6 精神看護の機能と役割	1) 精神看護とは 2) 精神看護の役割りの広がり 3) 精神看護の専門性	講義	2	
12 13	7 精神（心）の危機的状況と精神保健	1) 危機とは 2) ストレスとコーピング 3) 適応と不適応 4) セルフマネジメントの実際	講義 演習	2	
14	8 精神看護に用いる看護理論・モデル	1) 人間関係論 (1)ペプロウ (2)オーランド 2) 精神科看護と看護理論 (1)オレムセルフケアに関する理論 (2)オレムアンダーウッドモデル	講義	2	
15		テスト		2	

テキスト 新体系看護学全書、精神看護学①、精神看護学概論 精神保健、メディカルフレンド社

新体系看護学全書、精神看護学②、精神障害をもつ人の看護、メディカルフレンド社

参考文献 系統看護学講座、精神看護の基礎、精神看護学①、医学書院
国民衛生の動向

国民の福祉と介護の動向

精神看護学 I 、精神保健学、ヌーヴェルヒロカワ

精神看護学、第1版、医学芸術新社

評価方法 テスト

科	目	名	精神看護学方法論 I
単	位	(時 間 数)	1 単位 (30 時間)
履	修	年 次	2 年次 前期～後期
講	義	の 概 要	本科目では、精神科の診療に伴う診察や検査時の看護の基本的な援助について学ぶ。幻覚妄想や不安などの精神症状に対する看護について学び、精神障害者の抱える「生活のしづらさ」を改善するための生活技能訓練と、社会療法および薬物療法について学習する。
			精神科リハビリテーションについて学び、精神障害者がその人らしく地域や病院で自立的に生活できる援助方法を学ぶ。発達段階別の危機と災害時などの特殊な場面における心の働きを学ぶことで、対象の理解を深めていく。精神科看護におけるリスクマネジメントについて考え、対象にとっての安全について学ぶ。
目	標	1.	精神科の診療に伴う診察と、検査時の看護の援助技術について理解できる。
		2.	主な精神症状に対する看護が理解できる。
		3.	精神科リハビリテーションについて理解できる。
		4.	精神障害者がその人らしく日常生活が送れるように援助できることを理解する。
		5.	危機的状況と心の働きを理解し、看護介入の方法を理解する。
		6.	精神看護学におけるリスクマネジメントについて理解できる。

講 義 内 容

回	单 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
1 ～ 8	1 健康の保持・増進、疾病予防の状態にある精神看護の対象の人間関係と心の働きの看護	1) 精神症状と看護 (1) 不安状態 (2) 抑うつ状態 (3) 幻覚・妄想・興奮状態 (4) 自傷行為・自殺企図 (5) パニック障害 2) 診察に伴う看護 3) 検査に伴う看護 4) 薬物療法に伴う看護 5) 電気けいれん療法 6) 精神療法を受ける患者の看護 7) 社会療法を受ける患者への援助 (1) 社会生活技能訓練(SST) (2) 心理教育 (3) 作業療法	講義	16	
9 ～ 13	2 障害のある状態と精神科リハビリテーションを行う状態	1) 地域精神保健福祉と社会参加 (1) 地域精神保健福祉の考え方 (2) 精神障害をもつ人の社会参加と権利擁護 (3) 地域精神保健福祉における多職種連携とアウトリーチ 2) 精神障害をもつ人の地域生活支援の実際 (1) 地域生活を支える社会制度	講義	10	

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
		(2) 地域生活支援における保健師の役割 (3) 長期入院患者の地域生活への移行支援 (4) 地域生活支援の実際 (5) 就労支援 3) 精神障害をもつ人の家族への支援 4) 患者による自己管理 (1) セルフマネジメントの背景 (2) 患者と医療者の関係からみたセルフマネジメント (3) セルフマネジメントのための疾病教育 (4) 服薬自己管理 (5) 当事者の当事者による自己管理			
14	3 健康の急激な破綻から回復の状態にある危機状況と心の働き	1) 災害時の精神保健：災害時地域精神保健医療活動と心のケア (1) 災害時の精神保健医療活動の基本 (2) 災害とストレス (3) 災害時の精神保健初期対応 (4) 災害派遣精神医療チーム (DPAT) (5) 被災した精神障害者への支援	講義	2	
15		テスト		2	

テキスト 新体系看護学全書、精神看護学①、精神看護学概論 精神保健、メディカルフレンド社

新体系看護学全書、精神看護学②、精神障害をもつ人の看護、メディカルフレンド社

参考文献 系統看護学講座、精神看護の基礎、精神看護学②、医学書院
 系統看護学講座、別巻、精神保健福祉、医学書院
 精神看護学 I、精神保健学、ヌーヴェルヒロカワ
 精神看護学 II、精神保健学、ヌーヴェルヒロカワ
 精神看護学、第1版、医学芸術新社

評価方法 テスト

科	目	名	精神看護学方法論Ⅱ
単	位	(時間数)	2単位(45時間)
履	修	年次	2年次 後期
講	義	の概要	本科目では、事例を通して精神に障害をもつ対象を統合的（身体的・精神的・社会的側面）に理解し、健康な側面に注目しながら看護実践に必要な看護過程の展開（援助方法）を理解する。 精神障害者の理解と看護を実践するために、必要な人間関係形成の方法援助を発展させるためにプロセスレコードを用いて自己洞察、自己理解、患者と看護師の相互作用について学ぶ内容とする。また、精神障害者を理解する上で必要な、統合失調症をはじめとする精神疾患をもつ患者の看護について学び、精神障がい者がその人らしく生活できる援助方法を学習する。
目	標		1. 精神科の診療に伴う診察と、検査時の看護の援助技術について理解できる。 2. 精神科看護におけるコミュニケーションを学び、患者一看護師関係を踏まえた人間対人間の看護について理解できる。 3. 患者とその家族の理解と援助について学ぶ 4. 精神科看護における看護過程が展開できる。

講義内容

回	単元	学習内容	授業形態	時間	備考
1 ～ 6	1 精神障害者の理解と看護の視点	1) 「精神（心）を病む」とはどういうことか 2) 精神障害とステigma (1)ステigma (2)生活のしづらさ 3) 精神障害をもつ人はどのようなことを経験し感じているか 4) 精神障害とともに生きる 5) 精神障害をもつ人とのかかわりかた (1)「患者一看護師」関係の目指すこと (2)「患者一看護師」関係を理解するための手がかり (3)関係構築にあたっての基本的な態度 (4)患者とのかかわりで起こりうることと対処 6) 精神障害をもつ人とのコミュニケーション (1)コミュニケーションとは (2)精神障害をもつ人とのコミュニケーションの特徴 (3)コミュニケーション技法 7) 精神障害をもつ人との関係の振り返り (1)プロセスレコード	講義 演習	12	グループワーク

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備 考
		8) 日常生活援助 (1) その人らしい生活を目指して (2) 日常生活能力 9) 看護援助の基本構造 (1) 情報収集・アセスメント (2) 看護診断 (3) ケアプラン (4) 実 施 (5) 評 價 (6) 看護過程の記録			事例を通してプロセスレコードをグループで検討し発表する
7 14	2 健康の慢性的な揺らぎの再調整を必要とする精神疾患にある状態	1) 統合失調症患者の看護（急性期・回復期・慢性期） 2) 気分（感情）障害の看護 3) 人格障害者の看護 4) 神経症患者の看護 5) 摂食障害患者の看護 6) アルコール・薬物依存患者の看護 7) 児童・思春期に起こりやすい精神障害に対する看護	講義	16	疾病治療学Ⅷと関連
15 22	3 精神看護の看護過程	1) 精神科看護における情報収集の方 法 2) 看護計画の作成 3) 看護計画の実施 4) 看護計画の評価 5) グループワークの発表 (1) 統合失調症の急性期、慢性期の看護過程	講義 演習	16	グループワーク、発表
23		テスト		2	

テ キ ス ト 新体系看護学全書、精神看護学①、精神看護学概論 精神保健、メヂカルフレンド社

新体系看護学全書、精神看護学②、精神障害をもつ人の看護、メヂカルフレンド社

参 考 文 献 系統看護学講座、精神看護の基礎、精神看護学②、医学書院
系統看護学講座、別巻、精神保健福祉、医学書院

精神看護学 I・II、精神保健学、ヌーヴェルヒロカワ

精神看護学、第1版、医学芸術新社

精神科看護のための事例研究、テーマを絞り論文を書く、坂田三允、精神看護出版

評 価 方 法 テスト、レポート

統合分野

在宅看護論

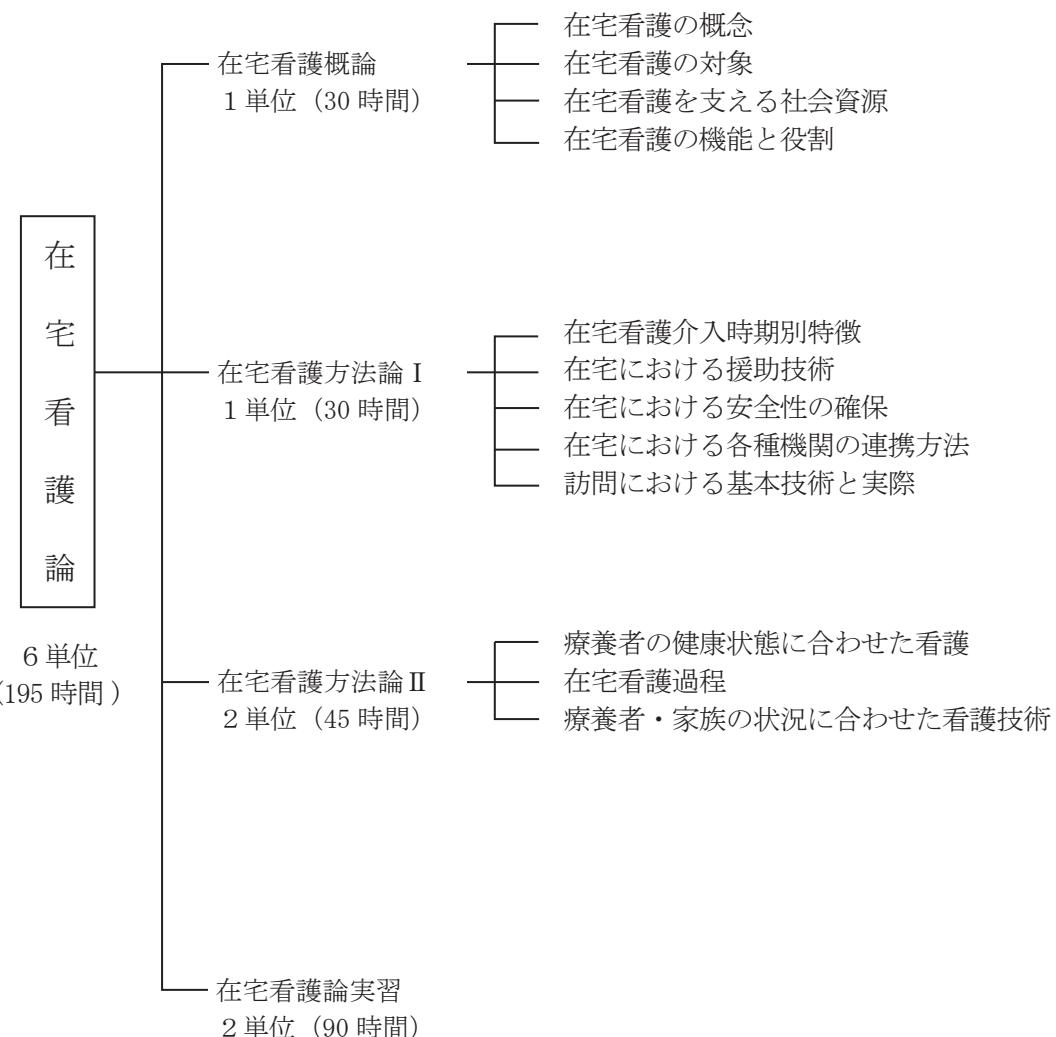
目的

地域で生活する療養者・家族の特徴を理解し、その人らしい生活や自立を支えていくために必要な知識・技術・態度を養う。

目標

1. 在宅療養者及び家族の価値観、自立性、独自性を尊重した人間関係形成の基礎的態度を養う。
2. 在宅看護の対象である療養者とその家族を身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる。
3. 様々な療養環境の中で生活している療養者・家族を支え続けていくために、在宅看護の特徴をふまえてアセスメントし科学的根拠に基づいた看護を実践できる基礎的能力を身につける。
4. 訪問看護の実際を通して保健医療福祉チームの一員としての役割を理解し、他職種との連携や協働の方法を学ぶ。
5. 一人ひとりの生活・価値観・生き方を尊重し関わる中で、共に成長発達することを理解する。

科目構成



科	目	名	在宅看護概論
单	位	(時 間 数)	1 单位 (30 時間)
履	修	年 次	2 年次 前期
講	義	の 概 要	<p>在宅で療養しながら生活している対象とその家族を理解し、その人らしい生活や自立を支えていく必要性を学ぶ内容とした。</p> <p>在宅看護の特徴と対象の特性を理解し、家族を含めた支援を展開できる視点を深めていく。また、療養者と家族を支えていくために必要な社会資源について学ぶ。</p>
目	標		<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護の概念や意義を理解する。 2. 在宅看護の歴史をふまえ、現代社会における課題を把握し、在宅看護の役割を理解する。 3. 在宅看護の対象の特性・ニーズを理解する。 4. 在宅療養者の家族への援助の必要性と方法について理解する。 5. 在宅ケアを支える制度と社会資源について理解する。

講 義 内 容

回	单 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
1 ～ 5	1 在宅看護の概念	1) なぜ在宅看護を学ぶのか (1)社会の変化 (2)家族の変化 (3)在宅ケアニーズの変化 2) 在宅の意義 (1)生活の場の持つ意味 (2)在宅療養の選択 3) 在宅看護とは (1)在宅看護の歴史 (2)在宅看護の現状としくみ (3)継続看護 4) 訪問看護制度	講義	10	
6 ～ 9	2 在宅看護の対象	1) 対象者の特徴 (1)健康状態 (2)発達段階・家族役割 (3)家族の発達課題 2) 在宅療養者の権利 (1)個人の尊厳 (2)自己決定への支援 3) 家族 (1)家族の理解 (2)家族に関する理論 (3)在宅での家族アセスメント	講義	8	ビデオ 視聴 レポート
10 ～ 12	3 在宅看護を支える社会資源	1) 社会資源とは 2) 在宅で高齢者を支える社会資源 3) 在宅で障害者を支える社会資源 4) 在宅で難病療養者を支える社会資源	講義	6	
13 ～	4 在宅看護の機能と役割	1) 在宅看護の機能と役割 (1)継続看護と退院支援	講義	4	レポート

回	单 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
14		(2)地域包括ケアシステムの構築			
15		テスト		2	

テ キ ス ト 系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院
国民衛生の動向 厚生労働統計協会

参 考 文 献 在宅看護論 実践をことばに ヌーヴェルヒロカワ
新版在宅看護論 木下由美子編著 医歯薬出版株式会社
新体系 看護学全書 36 在宅看護論 メヂカルフレンド社
在宅看護論 地域療養を支えるケア メディカ出版

評 価 方 法 テスト、レポート

科	目	名	在宅看護方法論 I
单	位	(時 間 数)	1 单位 (30 時間)
履	修	年 次	2 年次 前期～後期
講	義	の 概 要	在宅看護の中心となる訪問看護では、訪問者としての一般常識やマナー人間関係形成のためのコミュニケーション力が必要となる。また、療養者・家族の思いや自立性を大切にして療養者・家族に合った援助方法が求められる。そこで、人間関係づくりをふまえ、在宅におけるリスクマネジメントを含めた看護技術、また関係職種との連携方法について学び、地域の中で療養者・家族を支え続けていくための援助について学ぶ。
目	標		<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅での人間関係づくりの方法を理解する。 2. 在宅における療養者への日常生活援助の方法を理解する。 3. 在宅での感染予防、リスクマネジメントについて理解する。 4. 在宅での関係職種との連携方法・調整的役割を理解する。

講 義 内 容

回	单 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
1	1 在宅看護介入時期別特徴	<ol style="list-style-type: none"> 1) 在宅での看護を展開するとは 2) 援助関係発展過程 <ol style="list-style-type: none"> (1)在宅療養準備期（退院前） (2)在宅療養移行期 (3)在宅療養定期 (4)急性増悪期 (5)終末（看取り）期 	講義	2	
2 ～ 8	2 在宅における援助技術	<ol style="list-style-type: none"> 1) 呼吸することへの援助 <ol style="list-style-type: none"> (1)呼吸に関するアセスメント (2)援助の実際 <ol style="list-style-type: none"> ① 療養者の健康状態に合わせた呼吸の工夫 ② 在宅酸素療法 ③ 在宅人工呼吸法 2) 食べることへの援助 <ol style="list-style-type: none"> (1)食事・嚥下に関するアセスメント (2)援助の実際 <ol style="list-style-type: none"> ① 療養者の健康状態に合わせた食の工夫 ② 在宅経管栄養法（胃瘻、腸瘻） ③ 在宅中心静脈栄養法 3) 服薬管理 <ol style="list-style-type: none"> (1)服薬管理の実際 <ol style="list-style-type: none"> ① 療養者の健康状況・生活状況に合わせた服薬管理の工夫 4) 排泄への援助 <ol style="list-style-type: none"> (1)排泄に関するアセスメント (2)援助の実際 <ol style="list-style-type: none"> ① 療養者の健康状態に合わせた排泄の工夫 ② 排便コントロール（摘便） ③ 人工膀胱 	<ol style="list-style-type: none"> 2 2 2 2 	<ol style="list-style-type: none"> 外来講師 外来講師 	

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
		5) 清潔・衣への援助 (1)清潔に関するアセスメント (2)援助の実際 ① 療養者の健康状態に合わせた清潔の工夫 ② 在宅での褥瘡ケア ③ フットケア 6) 運動・休息・安楽への援助 (1)運動・休息・安楽に関するアセスメント (2)援助の実際 ① 療養者の健康状態に合わせた運動 ・休息・安楽の工夫 ② 移動の援助（移動補助具） 7) 環境調整への援助 (1)環境調整に関するアセスメント (2)援助の実際 ① 療養者の健康状態に合わせた環境調整の工夫 ② 住環境		2	
9	3 在宅における安全性の確保	1) 在宅における感染予防と対応 2) 在宅におけるリスクマネジメント (1)在宅におけるリスクとは ① 医療事故 ② 転倒事故 ③ ケア事故 ④ 交通事故 ⑤ 災害看護	講義	2	
10 11	4 在宅における各種機関の連携方法と実際	1) 公的機関、訪問看護ステーションが行う訪問看護活動 (1)在宅ケアにおける多職種の連携・協働の必要性 (2)多職種連携での看護師の役割 (3)在宅ケアにおける保健医療福祉チームの連携方法と実際	講義	2	外来講師
12 14	5 訪問における基本技術と実際	1) 家庭訪問の意義と訪問時のマナー (1)初回訪問の重要性 (2)初回訪問の目的 (3)初回訪問の準備、プロセス (4)初回訪問のマナー 2) 人間関係づくり 3) 訪問時のコミュニケーション技術 4) 事例を通しての初回訪問演習 (1)初回訪問におけるコミュニケーションについて (2)初回訪問前の準備について (3)初回訪問当日	講義 演習	2 4	初回訪問紙上事例 GW ロールプレイ

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
15		テスト		2	

テ キ ス ト 系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院

参 考 文 献 在宅看護論 実践をことばに ヌーヴェルヒロカワ

新版在宅看護論 木下由美子編著 医歯薬出版株式会社

新体系 看護学全書 36 在宅看護論 メヂカルフレンド社

在宅看護論 地域療養を支えるケア メディカ出版

評 價 方 法 テスト、レポート

科	目	名	在宅看護方法論II
単	位	(時 間 数)	2 单位 (45 時間)
履	修	年 次	2 年次 後期
講	義	の 概 要	在宅看護の対象となる療養者の抱えている疾患は多岐にわたり、複数の疾患や障害を持っていることも多い。それに伴い在宅でも多くの医療処置が実施されるようになった。ここでは、様々な療養環境の中で生活している療養者・家族を支えていくための技術や制度について学び、療養者・家族の思いを大切にしながら地域の中で支え続けていくための看護過程の展開方法について学ぶ。
目	標	1.	療養者・家族の健康状態に合わせた在宅看護の技術や制度を理解する。
		2.	在宅看護における看護過程の特徴を理解する。
		3.	療養者・家族の健康上・生活上のニーズをふまえ総合的にアセスメントできる。

講 義 内 容

回	單 元	学習内容	授業形態	時間	備考
1 ～ 10	1 療養者の健康状態に合わせた看護	1) 健康の保持・増進、疾病予防の状態 (独居高齢者の地域生活・療養支援) (認知症の在宅療養生活支援) 2) 健康の急激な破綻から回復の状態 病院の退院計画から在宅療養開始への支援(脳卒中後遺症の看護) 3) 健康の慢性的な揺らぎの再調整を必要とする状態 医療依存度の高い在宅療養者の支援 (重度障害児の在宅療養生活支援) (統合失調症の在宅療養生活支援) (難病療養者の在宅療養生活支援) (感染症のある在宅療養生活支援) 4) 障がいのある状態とリハビリテーションを行う状態 在宅における進行性疾患の看護 (リハビリ療養者生活) (障害者の在宅療養生活支援) 5) 人生の最期のとき 終末期の療養者に対する在宅看護	講義	2 8 2 2 2	外来講師 各紙上事例 外来講師 外来講師 外来講師
11 ～ 16	2 在宅看護過程	1) 在宅看護過程展開方法 (1)在宅看護過程の特徴 (2)情報収集の視点 (3)アセスメント (4)看護問題の抽出 (5)看護計画立案 (6)実施 (7)評価 (8)記録、報告 2) 事例における看護過程の展開 (1)慢性疾患療養者の援助	講義 演習	2 6	レポート GW

回	単元	学習内容	授業形態	時間	備考
		(2) 難病療養者の援助 (3) 障害療養者の援助 (4) 末期がん療養者の援助 ① 情報収集とアセスメント ② 看護問題の抽出 ③ 看護計画立案 ④ 長期目標、短期目標 ⑤ 支援体制マップ ⑥ 緊急時の対応 3) 発表		4	①～⑥を中心についていく
17 ～ 21	3 療養者・家族の状況に合わせた看護技術	1) 療養者・家族の状況に合わせた看護技術 <演習の視点> ① 療養者・家族の思い援助の必要性 ② 安全・安楽・自立への配慮 ③ 介護負担の軽減 ④ 経済性への配慮 ⑤ 家庭にあるもので工夫する ⑥ 実施方法手順 2) 発表 3) 訪問看護倫理要綱（紙上事例）	演習	6 4 2	①～⑥について討議 GW 技術発表レポート グループ発表 GW
22		テスト		1	
23		テスト			

テキスト 系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院

参考文献 在宅看護論 実践をことばに ヌーヴェルヒロカワ
新版在宅看護論 木下由美子編著 医歯薬出版株式会社
新体系 看護学全書 36 在宅看護論 メヂカルフレンド社
在宅看護論 地域療養を支えるケア メディカ出版

評価方法 テスト、レポート

看護の統合と実践

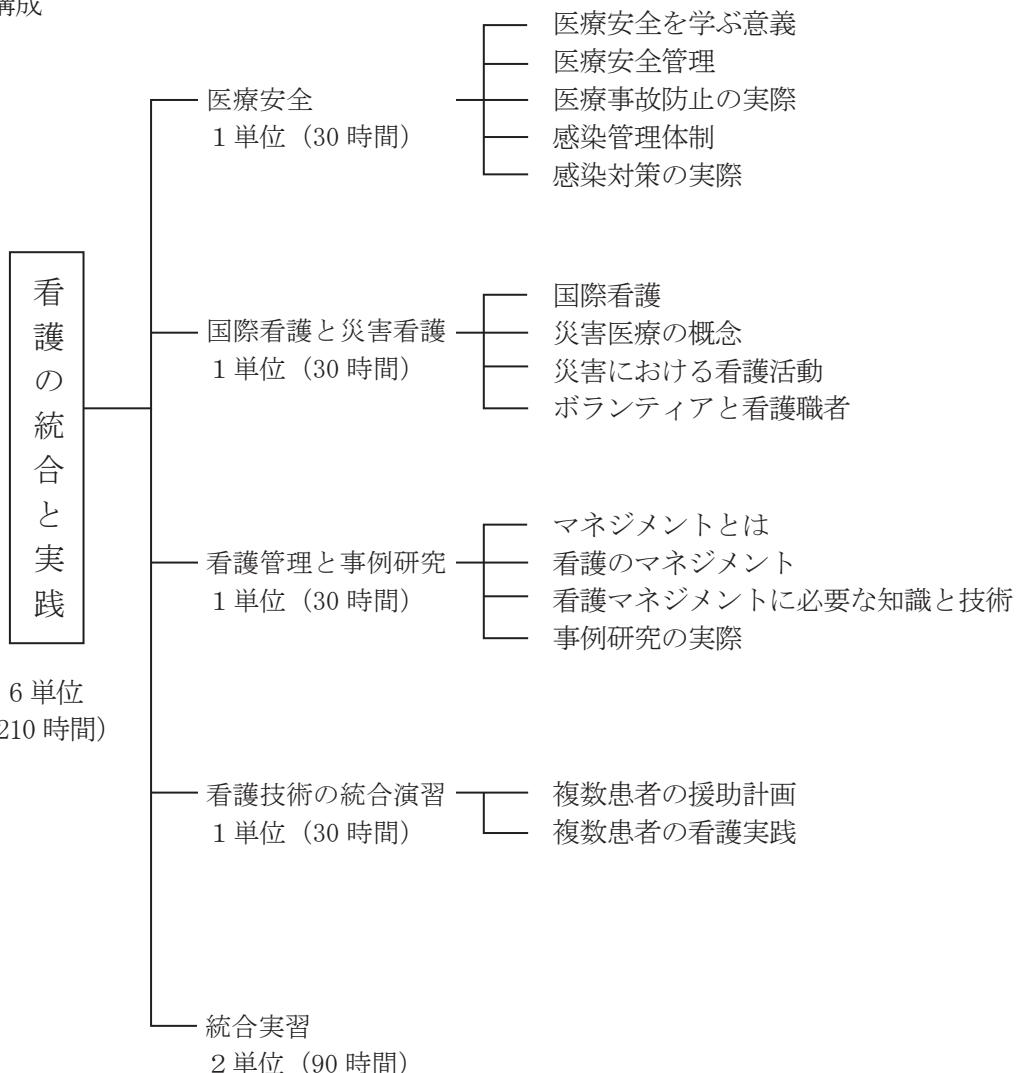
目的

医療サービス組織における看護職者の役割を理解し、既習した知識・技術を統合し、対象に応じた看護を実践する能力を養う。

目標

1. 看護の対象となる人々の尊厳を守るために看護実践能力を身につける。
2. 国際的視野を持ち、国際協力のあり方について考える基礎を理解する。
3. 各看護学で学習した知識、技術を統合し、対象に応じた看護実践できる基礎的能力を身につける。
4. 看護の対象となる人々及び他職種と協働する中で、看護を調整する基礎的能力を身につける。
5. 広い視野を持って専門職業人として学習し続ける姿勢を身につける。

科目構成



科	目	名	医療安全
单	位	(時 間 数)	1 单位 (30 時間)
履	修	年 次	3 年次 前期
講	義	の	概 要
基礎看護学方法論 I の安全を守る、感染予防を推進する技術の学びをふまえ、医療安全を学ぶ意義、医療安全管理体制の基礎的考え方を理解し看護職として求められる技術を理解する。現場で起きている事故の特性と防止策などを学ぶ。さらに、対象と場の特徴から危険因子を査定し、危険を予測し、批判的に思考することや、優先度を考えて実践することの重要性を学ぶ。また、療養環境は、医療従事者にとって感染リスクの高い場所であることを認識し、適切な感染管理体制と感染予防対策の基本を学習する。			
目	標	1. 医療安全体制と感染管理体制の基本的な考え方を理解する。 2. 医療安全と感染における看護の役割を理解する。 3. 医療事故における危険予知力を高めるための基本的な知識と技術を身につける。	

講 義 内 容

回	單 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
1	1 医療安全を学ぶ意義	1) 医療安全を学ぶ意義 (1) ヒューマンエラーの考え方 (2) 人間の 3 つの行動モデルと医療安全 (3) 看護業務の範囲と責任 2) 事故防止の考え方 (1) 医療事故と看護業務 (2) 看護事故の構造 (3) 看護事故防止の考え方 • してはならないことをしない • すべきことをする	講義	2	技術到達番号 12) - 1 I
2 3 4	2 医療安全管理	1) 医療安全管理体制 (1) 医療安全に関する取り組みの歴史 (2) 医療管理担当者と役割 (3) リスクマネージャーの役割 2) 医療安全管理の考え方 (1) 組織的アプローチ ① リスクマネジメントの考え方 ② システム全体としての考え方 ③ 危険予知訓練(K Y T) ④ ヒヤリハットと事例の分析 • ヒヤリハットと事例の分析の意味 • ハインリッヒの法則 ⑤ ヒヤリハット事例の分析方法 • R C A • S H E L • 4M-4E 方式 ⑥ 安全文化の醸成	講義	4	外来講師

回	単元	学習内容	授業形態	時間	備考
		(2) 個人的アプローチ ①自己モニタリングの重要性 ・スキルベース ・ルールベース ・ナレッジベース ②メタ認知能力の育成 3) 病院における安全管理の実際 (1) 診療の補助業務に伴う事故防止 (2) 療養上の世話における事故防止 (3) 医療安全とコミュニケーション	講義	2	
5 ～ 12	3 医療事故防止実際	1) 医療安全における看護職の責務 2) 医療事故予防の方法 3) KYTとは (1) 医療におけるKYTの目的 (2) KYTの基礎4ラウンド法 (3) KYTの進め方 4) 危険予知訓練(KYT)事故防止の対策(KYTの基礎4ラウンド法) (1) 第1ラウンド(現状把握) (2) 第2ラウンド(本質追究) (3) 第3ラウンド(対策樹立) (4) 第4ラウンド(目標設定) 5) SBARによるコミュニケーション	講義 (オリエンテーション含む) 演習	16	
13	4 感染管理体制	1) 感染管理体制 (1) 感染対策に関する取り組み (2) 感染対策管理の必要性と考え方 (3) 感染管理チームの役割 (4) 院内感染サーベイランス ①目的 ②方法(CDCガイドライン) 2) 感染予防における看護師の役割	講義	2	外来講師
14	5 感染対策の実際	1) 感染対策 (1) 感染看護認定看護師と役割 (2) 感染と院内環境 (3) 針刺し・切傷事故防止及び発生時の対応 (4) ワクチン接種 (5) 医療廃棄物の取り扱い 2) 院内感染防止対策の実際	講義	2	外来講師
15		テスト		2	

テキスト 系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践 [2] 医療安全: 医学書院

参考文献 医療安全ワークブック: 医学書院

評価方法 テスト レポート

科	目	名	国際看護と災害看護
单	位	(時 間 数)	1 单位 (30 時間)
履	修	年 次	3 年次 前期
講	義	の 概 要	国際社会において看護師として諸外国との協力のあり方を学習する。 県下において国際活動を行っている施設や国際活動に携わる人々を通して国際協力の現状を理解し、今後の活動の動機付けになる内容とした。又、我が国の災害対策、災害救助活動を学び、災害時の看護の特徴と基本的な援助について学ぶ。これらの学習を通して、看護に対する広い視野と課題について考え、専門性の意識を高める。
目	標	1.	世界の健康問題の現状を知り、国境を越えて健康をまもるために看護師が果たすべき役割を理解する。
		2.	災害医療の概念と災害時の実際を理解する。
		3.	災害時の看護の役割を理解する。

講 義 内 容

回	単元	学習内容	授業形態	時間	備考
1 ～ 9	1 国際看護	1) 世界に目を向ける (1) 海外での看護活動の現状 (2) 世界の健康問題 (3) グローバルヘルス (4) 国際看護学とは 2) 国際協力のしくみ (1) 在日外国人への看護 (2) 看護師の移動 (3) 国際協力のしくみ ①国連 ②ODA ③国際救援機関 ④リードエージェンシー ⑤看護職の国際組織 3) 世界が目指していること (1) ミレニアム開発目標 (2) 持続可能な開発のための2030アジェンダ (3) 国際看護活動の展開方法 4) 国際看護活動を展開してみよう 5) 私たちの近くで行われている看護の国際協力の実際	講義	8	
10	2 災害医療の概念	1) 災害の定義と分類 (1) 定義 (2) 分類 2) 災害医療対策 (1) 災害に関する法律や制度 (2) 災害医療拠点病院の役割	演習	10 (6 時間 は合同発 表会)	興味のあるテーマを取り上げてグループ学習する。

回	単元	学習内容	授業形態	時間	備考
		①災害拠点病院 ②広域災害救急医療情報システム ③災害派遣医療チーム(DMATT) ④広域医療搬送 3) 災害種類別の疾患の特徴			
11 ～ 13	3 災害における看護活動	1) 災害のサイクルに応じた看護活動 (1) 災害サイクルとは (2) 災害サイクル別の看護活動 ①急性期・亜急性期 ②慢性期・復興期 ③静穏期・準備期 2) 災害への備えとそのシステム (1) 災害準備期の看護 (2) 災害対応にかかわる職種間・組織間連携 ①非医療従事者との連携 ②国・地方公共団体との連携 ③日本赤十字社との連携 ④防災ボランティアとの連携 3) 災害時に必要な技術 (1) トリアージの実際 ①トリアージとは ②搬送と被災者への対応 ③観察と応急処置 (2) 災害看護の実際 ①災害看護の体制 (避難所、救護所の設置・役割) ②感染予防対策 ③被災者および援助者の心理 ④心のケア	講義	6	技術到達番号 12-2 I
14	4 ボランティアと看護職者	1) 看護職ボランティアの活動の実際	講義	2	
15		テスト		2	

テキスト 系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践 [3] 災害看護学・国際
看護学：医学書院

参考文献

評価方法 テスト、演習課題

科	目	名	看護管理と事例研究
单	位	(時 間 数)	1 单位 (30 時間)
履	修	年 次	3 年次 前期
講	義	の 概 要	<p>看護におけるマネジメントの意義を理解し、マネジメントを「ケアマネジメント」「看護サービスのマネジメント」の2つの概念から捉える。</p> <p>「ケアマネジメント」とは対象者に提供されるケアを調整・統制する視点から学び、「看護サービスのマネジメント」とは、看護職が提供するサービス全体を組織として捉え、調整・統制するマネジメントのプロセスと機能について学ぶ。又、看護マネジメントに必要な基礎的知識、技術を学ぶ内容とした。</p> <p>事例研究では、基礎看護学概論Ⅱで学んだ研究の基礎をふまえ、自己の看護実践を振り返り（3年次の臨地実習）、理論と統合させながら事例研究をまとめる内容とした。</p>
目	標		<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護におけるマネジメントの基礎的知識を理解する。 2. 理論と統合させながらケーススタディをまとめ、自己の看護実践を振り返る。

講 義 内 容

回	单 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
1 ↓ 3	1 マネジメントとは	1) マネジメントの考え方 (1) マネジメントの考え方の変遷 ① 古典的組織論 ② 人間関係論 ③ 近代的組織論 ④ システム論 (2) マネジメントプロセス ① 計画 ② 組織化 ③ 指揮 ④ 統制 (3) マネジメントサイクル ① P : 計画(Plan) ② D : 実施(Do) ③ C : 確認(Check) ④ A : 処置・改善(Action) 2) 看護におけるマネジメントとは (1) 看護におけるマネジメントの必要性 ① 看護におけるマネジメントの意義 ② 看護におけるマネジメントの考え方の変遷 ③ これからの看護職に求められるマネジメント	講義	6	
4 ↓ 6	2 看護のマネジメント	1) ケアマネジメント (1) ケアとは何か (2) ケアをマネジメントすることとは (3) ケアマネジメントの基本	講義	6	

回	単元	学習内容	授業形態	時間	備考
		①患者の権利の尊重 ②ケアの安全管理 ③看護基準と看護手順 ④情報の管理 2) 看護サービスのマネジメント (1) 看護サービスを組織としてとらえる ①病院という組織の中で看護部門が占める位置 ②看護部門の組織 ③病院という組織での看護の提供 ④看護サービス提供のためのしくみづくり ⑤人材のマネジメント ⑥施設・設備環境のマネジメント ⑦物品のマネジメント ⑧情報のマネジメント ⑨チーム医療 (2)組織におけるリスクマネジメント			
7 8	3 看護マネジメントに必要な基礎的知識	1)組織とマネジメント (1)組織とは (2)組織マネジメント ①組織目標達成のためのマネジメント ②協働のマネジメント ③情報のマネジメント 2)リーダーシップとマネジメント (1)リーダーシップの定義 (2)特性理論 (3)行動理論 (4)条件適合理論 3)組織の調整 (1)集団 (2)組織文化 (3)コミュニケーション (4)動機づけ (5)パワーとエンパワーメント (6)コンフリクト (7)変化と変革 4)組織と個人 (1)キャリアとキャリア形成 (2)意思決定と問題解決 (3)ストレスマネジメント (4)タイムマネジメント	講義	4	
9		テスト		1	
10 15	4 事例研究の実際	1)事例研究の実際 (1)ケーススタディとは (2)ケーススタディの目的、種類、方法	講義	2	

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
		(3) 倫理的配慮とは (4) 研究計画書作成の実際 ① ケーススタディの作成方法 ② 文献検索について 2) ケーススタディの実際 3) ケーススタディの発表	演習	5 4	

テキスト 系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践 [1] 看護管理：医学書院

系統看護学講座専門分野 I 基礎看護学 [1] 看護学概論

系統看護学講座 別巻 看護研究：医学書院

参考文献

評価方法 テスト、ケースレポート

科	目	名	看護技術の統合演習	
単	位	(時 間 数)	1 単位 (30 時間)	
履	修	年 次	3 年次 前期一後期	
講	義	の 概 要	卒業時の看護技術の到達は患者の状態、その場に応じた状況判断ができることが重要である。統合実習の前段階として、臨床に近い状況での看護技術の実際をシミュレーションで体験する。体験後デブリーフィングを行い知識と技術、態度を統合し、臨床現場への実践に応用させていく。実践では対象の状況に応じて、思考力を身につけ優先順位を判断し、実践していくものとする。複数患者への対応のみでなく、チームメンバー、他職種との調整、割り込み状況への対処を含めた看護技術を安全に実施できるように協同学習を取り入れて学ぶ。	
目	標	1. 複数患者を対象に沿った情報収集を行い、優先順位を考えたケアの計画立案できる。 2. 既習の技術を用いて対象に応じて必要な援助を安全、安楽に援助が実施できる。 3. 計画に沿った看護実践中に起こる割り込み状況への対処ができる。 4. 必要時、チームメンバーへの協力要請ができる。 5. 看護実践を通して、自己の課題を明確にできる。		

講 義 内 容

回	单 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
1 10	看護技術の統合演習I 複数患者の援助計画・実践	1) オリエンテーション (1) 演習のねらい (2) 演習の進め方、留意点 (3) 事例の紹介 (4) 評価方法 2) 複数患者の援助計画立案 (1) 複数患者の看護援助に必要な情報の整理 (2) 複数患者の全体像を把握、健康問題の確認 3) 対象に応じて必要な援助を安全、安楽に実施 (1) 既習の技術を用いて援助の実践シミュレーションで実施 (2) デブリーフィングの実施 グループで実践した看護を振り返り自己の行動の裏付けとなつた知識や技術を確認	講義 演習	2 8	領 域 実 習前 記録用 紙の整 理・提 出
11 15	看護技術の統合演習II	4) 多重課題とは何か、優先順位の考え方 5) 複数患者の優先順位を考えたケア、予測した看護の計画立案 (1) 計画に沿った看護実践中に起こる割り込み状況への対処をシミュレーションで体験 (2) チームメンバーへの協力要請	演習	2	統 合 実 習前

回	単 元	学 習 内 容	講義形態	時間	備考
		(3) 医療安全の視点を踏まる 5) 複数患者の状況に応じた看護実践 (技術テスト) 6) まとめ 看護実践を通して、自己の課題を明確にする	技術テスト	6 2	グループワーク振り返りをレポート提出

テキスト 系統看護学講座 専門2 基礎看護技術Ⅰ：医学書院
 系統看護学講座 専門3 基礎看護技術Ⅱ：医学書院
 系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践 [2] 医療安全：医学書院

参考文献 医療安全ワークブック：医学書院

評価方法 レポート、技術テスト



伊集の花(イジュの花)

沖縄の梅雨入りの頃にヤンバルの森に白く映える。お茶の花に似ており、ほのかな甘い香りがする。イジュの清楚な白い花は人々にとても親しまれ、琉歌にも歌われている。学名は *Schima liukiuensis* で、ツバキ科ヒメツバキ属。

本学生講義要項は3年間の学修の基本を定めたものであり、学生生活に資するものです。卒業までの間大切に保管し、必要なときは必ず参照してください。

また、今後変更される部分がある場合は、変更部分を掲示板などによりお知らせいたします。

学籍番号	
氏 名	

